14.4
1085

0032899001

0032899-001

14．4－1085

祖国日向の展望

宮崎県・編

宮崎県

昭和１５－１８年版

昭和１５－１９

AFB

祖國の展望

宮崎縣廳

14.4
1085

はしがき

祖國日向は日本歴史の第一頁より親しみ深い土地である　そこには限りなき史蹟があり傳説が存し美しい自然の奇勝があり絶景がある。而して又氣候温暖にして齊痾なる天惠を有し各種の産業年と共に發達しつゝある。こゝから生れ出づるものは美しい詩であり情趣豊かな唄である夏しらぬ國、冬しらぬ日向は、まことに避暑、避寒の地であり、永久移住の理想鄉である。最近交通機關の備はるに伴ひ、この自然の風光を賞で又は史蹟を尋ねて足を運ぶもの常に絶ゆる時がない。本書素より其の梗概に過ぎないけれども本縣に足を入れらるゝ大方諸賢の貰しい伴侶となり、聊か參考ともならばと思ひ編纂するものである。

宮崎縣民歌

桑原節次作詞　奥山貞吉編曲
古園裕而作曲　神崎博志振付

歌詞

一、亞細亞の東蜻蛉洲　燦たる旭直射せる
　こゝ建國の發祥地　悠久二千六百年

二、白雲なびく山の幸　黒潮よする海の幸
　千里の沃野天惠の　無盡の寶庫吾が日向

三、鷄、黎明を告げわたり　駒、原頭に嘶けり
　いざ更生の意氣高く　祖國の譽顯はさん

凡例

一、本書は從來刊行せし宮崎縣々勢要覽を若干其の編纂の極を替へ改題したるものなり。

一、本書は統計を主として縣勢の大要を觀察する爲めに編纂したるものなるも祖國としての日向及鄉土の名勝、舊蹟等をも廣く紹介するの意味に於て之等の事項をも概畧集錄せり。

一、書中部類を總覽、統計表、附錄の三分に區分し統計表は更に分ちて次の二十三部門とす。
　土地、氣象、戸口、生産額、農業、蠶絲業、畜産業、林業、漁業、鑛業、工業、商業、金融及貯蓄、土木、交通、教育、社寺兵事、社會事業、衞生、警察、議會、財政、官公吏及文書

一、書中の統計は主として昭和十四年の事實を揭載すと雖本書上梓迄に材料の蒐集不能のものは昭和十三年の事實を揭載し尙既往に遡り累年の計數を列記し以て比較に便じたり。

一、編中の事實は概ね全管內を總括して之を揭げ其の特に一郡又は一部の事實を知るを要するものは之を區分せり。

一、表中題目の下に何年とあるは曆年間の事實、何年度とあるは其の年四月一日より翌年三月三十一日迄の事實、何年何月何日とあるは其の日の現在なり。

宮崎縣總務部統計課

目次

土地

一　官民有地總面積……五
二　官有地……六
三　民有々租地……六
四　民有免租地……七
五　年期地……七

氣象

六　宮崎氣象……一三
七　縣内氣象（氣温）……一四
八　縣内氣象（降水量）……一五

戸口

九　國勢調査人口……一九
一〇　配偶關係別人口（昭和十年國勢調査）……二〇
一一　出生地別人口ノ一（昭和五年國勢調査）……二一
一二　出生地別人口ノ二（昭和五年國勢調査）……二三
一三　戸數及人口……二五
一四　産業別現住戸數……二六
一五　職業別現住人口……二七
一六　出入人口……二八
一七　本籍人動態ノ一（婚姻及離婚）……二九
一八　本籍人動態ノ二（出生及死亡）……四〇

生産額

一九　生産價額（累年比較）……五一

農業

二〇　耕地面積……六三
二一　農産物價額（累年比較）……六四
二二　耕作耕地廣狹別農家戸數……六五
二三　米……六六
二四　大麥……六七
二五　裸麥……六七
二六　小麥……六七
二七　燕麥……六八
二八　食用農産物……六八
二九　園藝農産物（果實）……六九
三〇　園藝農産物（蔬菜及花卉）……七一
三一　工藝農産物……七三

三二　農産製造物……七五
三三　桑畑及茶畑……七五
三四　綠肥用作物……七六
三五　飼料用作物……七六
三六　小作爭議ノ一（件數別）……七七
三七　小作爭議ノ二（原因別）……七七
三八　小作爭議ノ三（調停者別）……七七

蠶絲業

三九　蠶種……八三
四〇　養蠶月數……八三
四一　繭產額……八四
四二　蠶絲類及眞綿……八五

畜産業

四三　畜産物價額（累年比較）……九一
四四　牧場……九三
四五　獸醫師及蹄鐵工……九七
四六　家畜……九七
四七　家禽……九九
四八　牛乳……一〇〇
四九　蜜蜂……一〇〇

林業

五〇　林野面積……一〇五
五一　林產物……一〇五
五二　國有林野箇所及面積……一〇七
五三　國有地施業按……一〇八
五四　保安林面積……一〇九
五五　造林用苗圃面積……一一〇
五六　造林用苗木……一一〇
五七　國有林植栽……一一一
五八　公私有林野植栽……一一二
五九　公私有林野天然造林……一一二
六〇　國有林伐採……一一三
六一　公私有林伐採……一一三
六二　公私有林野被害……一一四
六三　公私有林野放牧……一一四

漁業

六四　水產物價額（累年比較）……一一五
六五　水產業者……一一五
六六　漁船……一一六
六七　遠洋漁業……一一六
六八　水產養殖……一一六

鑛業

六九　採掘鑛區及坪數……一二七
七〇　石材……一二七

工業

七一 工場……一三三
七二 織網……一三六
七三 酒類……一三六
七四 製茶……一三七
七五 砂糖、乳肉製品及罐詰……一三七
七六 肥料製造高……一三八
七七 貸錢……一三八

商業

七八 會社ノ一(資本金別)……一四三
七九 會社ノ二(組織別及營業別)……一四四
八〇 產業組合ノ一(組合數)……一四五
八一 產業組合ノ二(事業成績)……一四六
八二 縣外移出移入總價額……一四九
八三 重要物產移出……一四七
八四 重要物產移入……一五一
八五 重要物產平均相場……一五三

金融及貯蓄

八六 銀行……一六一
八七 銀行預金……一六二
八八 銀行貸金……一六三
八九 貸出金年末殘高抵當別……一六四
九〇 銀行出入金預ヶ金有價證券及通貨在高……一六四
九一 內國爲替……一六五
九二 郵便貯金……一六六
九三 郵便爲替……一六七
九四 實屋貸金……一六八
九五 供託件數及供託物價額……一六八
九六 不動產船舶登記件數……一六九
九七 無盡業……一七〇
九八 無盡契約高給付金額別……一七〇

九九 無盡契約高郡市別……一七一

土木

一〇〇 土木工費ノ一(累年比較)……一七七
一〇一 土木工費ノ二(通常災害別)……一七七
一〇二 土木工費ノ三(負擔別)……一七八
一〇三 橋梁……一七九
一〇四 災害……一七九
一〇五 道路延長……一八〇

交通

一〇六 元標請官衙間里程……一八三
一〇七 著大橋梁……一八四
一〇八 社營宮崎鐵道……一八八
一〇九 港灣……一八八
一一〇 燈臺……一九〇
一一一 入港船舶ノ一(登簿噸數)……一九二
一一二 入港船舶ノ二(乘降船客)……一九二
一一三 船舶……一九二
一一四 諸車……一九三
一一五 郵便……一九三
一一六 電信……一九四
一一七 電話……一九四
一一八 管內主要市街地間ノ粁程……一九五
一一九 縣內市町村間里程……一九六
一二〇 鐵道粁程並運賃……二〇五

教育

一二一 學齡兒童……二一九
一二二 公立小學校及學級……二一九
一二三 公立小學校教員……二二〇
一二四 公立小學校兒童……二二一
一二五 市町村立小學校教員住宅……二二一

一二六 公立小學校教員俸給……二三二
一二七 幼稚園……二三四
一二八 市町村立小學校教員在職年數……二三四
一二九 小學校教員檢定人員……二三五
一三〇 師範學校……二三五
一三一 中學校……二三五
一三二 公立中學校卒業者卒業後ノ狀況……二三六
一三三 高等女學校……二三八
一三四 實科高等女學校……二三〇
一三五 農學校……二三〇
一三六 工業學校……二三一
一三七 商業學校……二三一
一三八 女子高等技藝學校……二三二
一三九 宮崎高等農林學校……二三一
一四〇 公私立青年學校……二三三
一四一 青年學校教員養成所……二三三
一四二 圖書館……二三四
一四三 公私立盲學校……二三四
一四四 公私立聾啞學校……二三五
一四五 各種學校……二三五
一四六 男女青年團……二三六
一四七 縣公學費……二三六
一四八 市公學費……二三七
一四九 町村公學費……二三八
一五〇 縣公學資產……二三八
一五一 市公學資產……二三九
一五二 町村公學資產……二三九

社寺

一五三 神社及神職……二四一
一五四 寺院及住職……二四二
一五五 神饌幣帛料供進指定神社……二四二
一五六 神道教會所及說教所……二四三
一五七 佛道教會所及說教所……二四三
一五八 基督教會及宣布者……二四三

社會事業

一五九 救護法ニ依ル救護……二四七
一六〇 釋放者保護……二四八
一六一 日本赤十字社宮崎支部……二四八
一六二 愛國婦人會宮崎縣支部……二四九
一六三 公益質庫……二四九

衞生

一六四 病院……二五三
一六五 醫師……二五三
一六六 齒科醫……二五四
一六七 藥劑師及藥種商製藥者……二五五
一六八 產婆、看護婦……二五六
一六九 特種營業者トラホーム檢診成績……二五六
一七〇 傳染病……二五七
一七一 種痘成績……二五八
一七二 藥品巡視成績……二五九
一七三 飲料水檢查成績……二五九
一七四 上水道……二六〇
一七五 埋火葬……二六〇
一七六 娼妓健康診斷……二六一
一七七 傳染病院隔離病舍……二六一
一七八 賣藥……二六二

警察

一七九 警察職員配置ノ一（警察部）……二六七
一八〇 警察職員配置ノ二（警察署）……二六八
一八一 警察官吏勤續年數……二六八
一八二 巡查志願者及採用者年齡……二六九
一八三 採用巡查教育程度……二六九
一八四 採用巡查職業……二七〇

二一三　縣稅滯納收入濟額……三一二
二一四　市町村有財產收入濟額……三一三
二一五　市町村基本財產……三一三
二一六　地方債……三一四

官公吏及文書

二一七　縣官吏職員……三一五
二一八　市町村吏員……三一七
二一九　受發文書……三一八

附錄

二二〇　郡市町村區劃……三二〇
二二一　警察管區……三二〇
二二二　裁判所及登記管區……三二〇
二二三　稅務署管區……三二〇

（目次）

二二四　警察官吏年齡……三二〇
二二五　警察官吏職務上ノ傷痍疾病……三二〇
二二六　工場法適用工場……三二一
二二七　火災……三二一
二二八　火災原因……三二一
二二九　消防組……三二二
二三〇　遺失物及拾得物……三二四
二三一　交通事故……三二四
二三二　自動車運轉者（兵役關係者ヲ除ク）……三二五
二三三　健康保險法適用工場、鑛山、事業（政府管掌）……三二五
二三四　健康保險法適用工場、鑛山、事業（組合管掌）……三二六
二三五　健康保險被保險者ノ二（健康保險組合管掌）被保險者……三二七
二三六　場都市町村區劃……三二七
二三七　受發文書……三二八

議會

二三八　縣稅滯納收入濟額……三二九
二三九　市町村稅收入濟額……三二九
二四〇　縣會議員選舉……三二九
二四一　市町村會……三三〇
二四二　縣會、縣參事會……三三〇
二四三　衆議院議員選舉……三三一
二四四　貴族院議員互選……三三一
二四五　選擧權……三三四
二四六　被選擧權……三三四

財政

二四七　租稅外國庫收入……三三六
二四八　國庫支出縣經費……三三六
二四九　縣稅收入決算額（）……三三六
二五〇　縣稅收入決算額（）……三三七
二五一　市町村歲出決算額（）……三三八
二五二　市町村歲入決算額（）……三三八
二五三　縣稅收入濟額（）……三三九
二五四　縣稅收入濟額（）……三三九
二五五　諸稅賦課額（ヨルベ）……三三九
二五六　縣稅滯納額……三四〇
二五七　國稅收入濟額……三四〇

雜錄

二五八　營林署管區……三四一
二五九　專賣局管區……三四一
二六〇　山嶽……三四二
二六一　河川……三四二
二六二　原野……三四二
二六三　瀑布……三四三
二六四　池沼……三四三
二六五　湖嶼……三四三
二六六　名勝及舊蹟……三四四
二六七　畿內國日向の聖蹟……三四四
二六八　史蹟名勝天然紀念物……三四四

神都日向

【日向の誇り】

日向なる小戸の渡の浦こそは
　青人草の初めなりけれ

と古歌にもある通り古國日向は皇祖發祥の靈跡として知られ、日向人はこれを以て唯一の誇りとしてゐるさはれ風物悠々流れ流れて三千歳、紀記之を傳へてより正に千二百有餘年、悠久なる先人の跡は遙かに稽へ得べくもなく又漫りに臆測を許されないものもあるが、さもあれ、神話の國、傳説の國としての榮光は、古國日向に許さるべき永劫の誇りであらう。そこには到る處に先人の遺蹟があり、原人濶歩の跡がある。累々たる古墳、神話の山、それは本縣にとつては限りなく尊い不文の記錄であり、先人に依つて殘されたる唯一の記念物でもある。しかしそこには涙ぐましい迄淡い傳説が幾つともなく織込まれてゐて、いやが上にも、これ等の遺蹟を聖化し淨化する。それは心なき旅人にすら、晩春の野道に麥笛を吹くにも似た、淡い哀愁を喚らずには置かないであらう。げに日向は傳説の國であり、神話の都である。

一、沿　革

一、上　古　自祖神國土經營至神武天皇御東遷

（總　覽）

初め伊弉諾、伊弉冊の二神磤馭盧島に降臨し尊で西巡して築紫に到り日向の橘の小門の阿波岐原に宮居し皇子二十九神に分ち四海鎮綏の任に當らしめられた、事勝國勝長狹神（鹽土翁）は日向の神で筑紫を總管し、大山祇命は山野を司り其の女磐長姫、木花開耶姫と共に日向に居られた、後天孫瓊々杵尊、天照皇大神の命を承けて筑紫日向の槵觸峰に降り給ふに及て夷族を綏撫し稼を教へ德化四方に洽く都を吾田長屋笠狹之崎に奠め木花開耶姫を妃として三皇子を擧げ給ふた、彦火々出見尊又豐玉姫を妃として彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊を儲けられ鸕鷀草葺不合尊繼で皇位に卽位されて玉依姫を娶で四皇子を擧げられた、其の第四皇子は皇祖神武天皇である。天皇笠狹宮に止り給ふたこと四十五年で西陲の地天業恢弘の宏圖を遂げ難いのを察し給ひ皇子を率ひ宮崎を發し東征の途に就き給ふてから日向の名空しく西陲の地に埋み夷民の跳梁に委すこと久しかつた。

二、上　世　自景行天皇御西征　至土持、三田井二氏

景行天皇の御代になつて熊襲叛して朝貢しなかつた。天皇乃ち親征の軍を進められて日向に入り、行宮を高屋に建て、駐ること六年にして賊悉く平定した。此間御刀姫を納れて妃とせられ、日向國造の祖豐國別皇子を生ませられた。曾て子湯縣に幸し丹裳小野に遊覽せられ、東望して宣ふた「是の國は直ちに日の出づる方に向けり」と其の國を號して日向と云ふは宣べなり。又思邪歌を詠じ給うた。既にして高屋を出で、夷守（小林）を過ぎて凱旋された、此地は天皇に關する遺蹟縣下に多くて兒湯郡都於郡村黒貫寺、南那珂郡吾田村、西諸縣郡小林町等は其の一二である。

成務天皇五年國造縣主の制を設けられて、景行天皇の皇子豐國別命、初めて日向國造に任ぜられ、其の子國富彦命、諸縣の國富莊（本庄）に居られ其の子を老男應神の朝に日向國造とならられた。老男の子牛諸井の長女髮長姫は實に仁德天皇の妃である。

和銅六年四月、四郡を割て大隅を置き、薩摩は是より先大寶二年に其の名が見ゆる。

神龜元年土持氏十一世の孫直綱初めて日向に入り縣莊（延岡）に入り其の子孫國亂平定の功に依り縣新納財部諸縣の各地を賜り其の一族國内に充ちたが貞觀元年三河に移され、三田井氏は始め大神氏と云つて延曆中大神氏の遠裔太郎政次子孫世々高千穗三田井に居る、因つて地名を以て姓とするに至つたのである。

三、中　世　自鎌倉時代　至織田時代

文治元年惟宗忠久を島津莊下司職に任じ翌年更に總地頭職に補せられ始めて島津氏を稱した。翌年九月薩隅、日三國の守護職に補せられ建久七年八月莊内島津莊に入つた後居を鹿兒島に移した。支族に七島津があつて勢力漸く盛なるものがあつた。伊東氏は建久元年四月工藤祐經の日向地頭に補せられたのに始り其の子孫は尚伊豆に留ること五代建武二年に至つて伊東祐持始て日向に入り都於郡に居城を構へた、當時土持亦七族に岐れて各其の地を管し祐持入國後も尚其の領内を侵す有樣であつた、適々南北朝の分立に際し此の地方亦二派に分れ紛爭止まず其の最も甚しきは島津對伊東の爭で互に勝敗あつて久し間解けなかつた。

降て伊東三位入道義祐は都於郡を本城として領内に四十八城主を配置し大に威を國内に張つたが天正五年十一月島津義久大擧して攻來り城遂に陷り走つて豐後大友氏に寄つた、大友宗麟翌六年三月大兵を率て日向に入り薩摩軍と兒湯郡高城に戰つたが大友軍再び敗れた、之を耳川戰と言ふ。此より島津氏益々勢を得伊東氏は復振はなくなつた。

天正十五年義久秀吉の命に服せなかつたが爲め秀吉大軍を向け義久降を乞ふに及んで伊東祐兵を飫肥、豐井、清武に高橋元種を縣（延岡）宮崎に秋月種實を高城、財部、福島に分封した。

四、近世各藩の由來

延岡藩　天正十五年高橋元種始めて此地に封せられ五萬石を領したが後事を以て沒收さる、同十九年七月有馬直純肥前の島原から來て封に就いた、然れども孫永純の時有馬氏亦越後糸魚川に移され、尋で三浦氏下野壬生城より移封されしも久しからずして參州に移され以て內藤氏に至つた。內藤氏は磐城平城主から移封され七萬石を領した內藤政樹を以て藩祖とする、內藤氏移封されてから廢藩に至る迄二百餘年現子爵內藤政道の父政擧は最後の藩主である。

高鍋藩　藩主秋月氏は後漢光靈帝から出たと云はる、應神天皇の御代歸化し初め大藏の姓を賜つたが後裔種直建仁中筑前秋月莊に居たので秋月を姓とし種實に至り豐臣秀吉から日向財部三萬石に封せられた、累世繼承して維新の際に至つたが現子爵秋月種英の父種樹は其の最後の藩主である。

佐土原藩　天正十五年島津貴久佐土原を畧し四男家久之に居り關ヶ原の役後以久改めて三萬石に封せられたのに始まる、十世忠寛に至り戊辰の役に各地に轉戰して殊功があつた、賞典錄三萬石を賜り明治三年藩廳を廣瀨に移した、島津忠寛は最後の藩主で嗣子忠亮伯爵を授けられ忠麿は當主である。

飫肥藩　豐臣秀吉伊東祐兵を飫肥に封じ關ヶ原の役後家康又改めて此地を領せしめ爾來相繼で祐相に至つた、かくて明治二年藩籍を奉還し其の子祐帰藩知事に任ぜられ以て廢藩置縣に及んだ子爵祐弘は當主である。

都城藩　薩摩の支封である北鄕忠純慶長五年都城に入り久純に至つて島津を冒した、爾來二十七代久寬に至り廢藩の命があつて都城縣を置き尋で宮崎縣に合せられた。

菊地氏　征西將軍懷良親王菊池重武の女を納れ子義宗を擧げられた、菊池武運の子重爲義宗を擁て米良山中に遁れ米良を姓として世々十五村を領し後人吉藩に屬したが後美々津縣に合せられた。

五、分縣の由來

明治四年七月廢藩置縣の命出で日向國は延岡、佐土原、高鍋、飫肥、鹿兒島、人吉及日田の七縣に分屬し尋で同年十一月十四日都城、美々津、八代三縣に分屬となつた、五年九月更に八代縣に屬する一部を美々津縣に合し六年一月都城、美々津の二縣を廢して宮崎縣を置く、同九年八月に至つて宮崎縣廢され鹿兒島縣に合せられたが宮崎縣再置の議縣民間に起り明治十六年五月太政官布告第十五號を以て宮崎縣再置の令に接し七月一日を以て開廳するに至つた。明治元年以來の管轄地沿革の表示及明治十六年置縣以來の長官氏名は左の如くである。

（總覽）

管轄地沿革

開廳以來の長官

來任年月	轉任年月	在職年月	氏名
明治十六年五月	明治二十年一月	三年八ケ月	邊輝實
明治二十年一月	明治二十年五月	四ケ月	時任爲基
明治二十年五月	明治二十四年四月	三年十一ケ月	岩山敬義
明治二十四年四月	明治二十五年八月	一年四ケ月	永峰彌吉
明治二十五年八月	明治二十七年一月	一年五ケ月	萩原汎愛
明治二十七年一月	明治三十一年六月	四年五ケ月	千田貞暁
明治三十一年六月	明治三十二年八月	一年二ケ月	樺山資雄
明治三十二年八月	明治三十五年二月	二年六ケ月	園山勇
明治三十五年二月	明治三十八年十二月	三年十ケ月	岩男三郎
明治三十八年十二月	明治三十九年七月	一年七ケ月	戸田恒太郎
明治三十九年七月	明治四十一年三月	一年八ケ月	永井環
明治四十一年三月	明治四十四年三月	三ケ月	高岡直吉
明治四十四年三月	大正四年八月	四年五ケ月	有吉忠一
大正四年八月	大正八年八月	四ケ年	堀内秀太郎

大正八年八月	一年十ケ月	廣瀬直幹	
大正十年六月	一年四ケ月	杉山四五郎	
大正十一年十月	一ケ年	大芝惣吉	
大正十二年十月	一年十一ケ月	齋藤宗宜	
大正十四年九月	一ケ年	時永浦三	
大正十五年九月	八ケ月	加勢清雄	
昭和二年五月	八ケ月	古宇田昌	
昭和三年一月	一年六ケ月	山岡國利	
昭和四年七月	一年一ケ月	石田馨	
昭和五年八月	一年四ケ月	有吉實	
昭和六年十二月	一〇ケ月	半井清	
昭和八年六月	一年七ケ月	木下義介	
昭和十年一月	一年八ケ月	君島清吉	
昭和十二年七月	二年七ケ月	三島誠也	
昭和十四年八月	現在	相川勝六	長谷川透

概說

縣の位置　本縣は九州の東南端に位し日向の國一圓を管す。東經一三〇度四二分より一三一度五三分に及び北緯三一度二一分より三二度五〇分の間に位置す。北は大分縣に隣り、西は山岳連亘して熊本縣の境を劃し、西南は鹿兒島縣に接し、東北一帶は、太平洋に面して展開す。

面積廣袤及行政區劃　本縣の總面積は五〇一方里七三にして全國中第十四位に在る廣大なる面積を有し、東西十七里餘、南北四十里に及び、分ちて宮崎、都城、延岡の三市、宮崎、南那珂、北諸縣、西諸縣東諸縣、兒湯、東臼杵、西臼杵の八郡とし八十六ヶ町村に區劃す。

地勢　國中二派の山脈あり、一は西北より起り祖母嶽、市房山等の高峰を連ねて南に走り、一は西南に蜿起し韓國岳及霧島山の峻岳をなし蟠屈して海に入る。其の間十數條の河川皆東奔して海に注ぐ。就中五ヶ瀨川、美々津川、一ツ瀨川、大淀川は何れも流路二十里以上に渉り舟筏の便あり、海岸線の延長は七十七里に及び十餘の港灣其の間に點在す。卽ち福島(南那珂郡)、外浦、日井津、油津、內海、折生迫、赤江、福島(宮崎郡)、福浦、美々津、細島、土々呂、延岡、古江、市振、宮野浦、島野浦等にしてその中細島は甲號、福島(南那珂郡)、油津、內海、土々呂、延岡の各港は乙號に共に內務省の指定港灣たり。地味は西北一帶方稍礫磽なれども概して肥沃最も農作に適す。

地質　本縣地質の最大面積を占むるものは秩父古生層及中生層にして東臼杵、西臼杵兩郡は主として前者

（位置及面積廣袤表）

に屬し、兒湯郡の大部分及西諸縣、東諸縣兩郡の北部並に西諸縣、北諸縣の郡界に當れる山地は概ね後者に屬す。而して之に亞ぐものは西諸縣、北諸縣の大部分を占むる火山灰にして庭岩は東、西臼杵郡の北部及東臼杵、兒湯の郡界に分布せられ、南那珂郡の大部分及宮崎郡の南端は第三紀層にして兒湯郡、宮崎郡の沿岸は主に第四紀古層に屬し、宮崎郡、東諸縣郡の平坦部は第三紀層第四紀新層及古層互に錯綜して點在せり、又石灰岩は東臼杵郡の山間に於て僅に數條の帶條を爲せるのみ。

縣ノ位置及面積廣袤

縣廳所在地	東經	北緯
宮崎市別府町	一三一度二六分	三一度五六分
東臼杵郡北浦村	一三一・五三	—
西諸縣郡眞幸村	一三〇・四三	—
南那珂郡都井村	—	三一・二
東臼杵郡北川村	—	三二・三〇

縣ノ位置	廣袤
極東	東西 一七・二〇里町
極西	
極南	南北 四〇・〇〇里町
極北	

面積 二〇一・七三方里

土地

面積五百一方里

その中官有四割三分

概說

總面積　本縣の官民有地總面積は四四〇、九四四町七段歩にして內官有地一九一、七八六町四段歩（四割四分）民有地二四九、一五八町三段歩（五割六分）なり。されど本表に揭げたる民有地は所謂第二義統計卽ち土地臺帳を基準せる調査なるを以て事實と甚しき懸隔あることを想はざるべからず。今試に第一義的に調査したる結果を示せば耕地九三、九五五町九段歩、林野三九一、九〇一町八段歩なるを以て、これに依り總面積五〇一方里七三（約七八〇、二四八町五段歩）に對する比例を觀るに、官有地二割五分、民有地中耕地一割二分、林野五割、其の他（宅地。池沼、（有租地）牧場、雜種地）二分にして殘餘の一割一分が道路、河川等に相當す。

官有地　官有地（九割三分）は山林にしてこの外原野の二、三一七町四段歩を除くの外は殆んど各省の用地なり。而してその主なるものは陸軍省用地の七、六七四町七段歩、鐵道省用地の五、六三五町八段歩及農林省用地の二四四町五段歩なり。而して各郡市に於ける分布狀態は西諸縣郡の五四、二〇五町一段歩（二割八分）を最も多きものとし、南那珂郡の三三、八三九町六段歩（一割八分）兒湯郡の三二、四三八町八段歩（一割七分）之れに亞ぎ北諸縣郡の二八、〇五六町六段歩（一割五分）、東諸縣郡の一四、八七六町八段歩、西臼杵郡は九、六四四町六段歩、八一八町三段歩（八分）の順位にして宮崎郡は一二、八町九段歩、延岡市は一六三町五段歩にして都城市は僅かに七〇町八段歩に過ぎず。

尙市町村の中官有地の最も多きは須木村の二二、五五八町一段歩にして、北鄕村（南那珂郡）の一三、三三一町一段歩、小林町の一〇、七七八町八段歩、木城村の九、二〇〇町二段歩之に相亞ぎ其の他五千町歩以上のものは山ノ口（七、一六五町七段歩）、三納（六、三二三町三段歩）、西嶽（六、一八八町三段歩）、田野（五、九五〇町六段歩）、都農（五、九三二町八段歩）、酒谷（五、六一五町一段歩）、高岡（五、〇四四町五段歩）の各町村にして最も尠きは椎葉村の六段歩、又官有地の皆無なるは瓜生野、那珂、倉岡、木脇、都於郡、西米良、東米良、北鄕（東臼杵郡）、北浦、岩井川の各村なりとす。

民有地（第二義統計に依るもの）は有租地二二六、九三一町二段歩（六分）にしてその有租地の種目は田四五、〇八九町一段歩（二割六分）、畑六四、二九三町一段歩（二割九歩）、原野三七、六六〇町歩（一割五分）、宅地七、〇八三町二段歩（三分）其の他一八〇町六段歩の割合なり。

一　官民有地總面積

（官有地ハ昭和十五年三月三十一日現在ニシテ民有地ノ內有租地ハ昭和十四年十二月末日、免租地及ビ年期地ハ昭和十五年一月一日現在トス）

區別	昭和十四年			昭和十三年		
	總數	官有地	民有地	總數	官有地	民有地
			總數			總數
			有租地			有租地
			免租地			免租地
			年期地			年期地
郡市別	町	町	町	町	町	町
宮崎市	四四〇、九四四・七	一九一、七八六・四	二四九、一五八・三	四四〇、一三五・二	一九〇、〇一四・九	二四九、一五八・三
宮崎郡	四四〇、一三五・二	一九〇、〇一四・九	二二七、九三一・二	四四〇、一三五・二	一九〇、〇一四・九	二二七、九三一・二
南那珂郡	四三八、五八五・二	一九〇、二六七・八	二四八、三一七・四	四三八、五八五・二	一九〇、二六七・八	二四八、三一七・四
北那珂郡	三一、三一〇・二	一二、七六八・八	一八、五四一・四	三一、三一〇・二	一二、七六八・八	一八、五四一・四
西諸縣郡	六四、一七二・一	三三、八三九・六	三〇、三三二・五	六四、一七二・一	三三、八三九・六	三〇、三三二・五
東諸縣郡	五九、九六〇・八	二八、〇五六・六	三一、九〇四・二	五九、九六〇・八	二八、〇五六・六	三一、九〇四・二
兒湯郡	八二、七四八・九	五四、二〇五・一	二八、五四三・八	八二、七四八・九	五四、二〇五・一	二八、五四三・八
東臼杵郡	二九、三四八・六	一四、八一八・三	一四、五三〇・三	二九、三四八・六	一四、八一八・三	一四、五三〇・三
西臼杵郡	六四、〇三七・二	三二、四三八・八	三一、五九八・四	六四、〇三七・二	三二、四三八・八	三一、五九八・四
都城市	四四、〇三一・八	五、四八一・四	三八、五五〇・四	四四、〇三一・八	五、四八一・四	三八、五五〇・四
北諸縣郡	四四、二三〇・四	九、六四四・六	三四、五八五・八	四四、二三〇・四	九、六四四・六	三四、五八五・八
西諸縣郡	四一、八一六・七	二九八・九	四一、五一七・八	四一、八一六・七	二九八・九	四一、五一七・八
東諸縣郡	五、八三九・八	七〇八	五、七六八・八	五、八三九・八	七〇八	五、七六八・八
兒湯郡	八、四四八・九	一六三・五	八、二八四・九	八、四四八・九	一六三・五	八、二八四・九
東臼杵郡	一八、五四一・四	四四七・六	一四、一九三・三	一八、五四一・四	四四七・六	一四、一九三・三
西臼杵郡	三〇、三三二・五	二二九・六	二六、四九八・九	三〇、三三二・五	二二九・六	二六、四九八・九
都城市	三一、九〇四・二	二、二五九・〇	二八、一三三・四	三一、九〇四・二	二、二五九・〇	二八、一三三・四
北諸縣郡	二八、五四三・八	五〇五・三	二七、〇七〇・七	二八、五四三・八	五〇五・三	二七、〇七〇・七
西諸縣郡	一四、五三〇・三	六〇一・四	一二、八三三・八	一四、五三〇・三	六〇一・四	一二、八三三・八
東諸縣郡	三一、五九八・四	六四〇・八	二九、二六八・二	三一、五九八・四	六四〇・八	二九、二六八・二
兒湯郡	四〇、五五〇・四	四二五・〇	五九、〇三三・二	四〇、五五〇・四	四二五・〇	五九、〇三三・二
東臼杵郡	三四、五八五・八	一、三〇二・六	三三、二二六・〇	三四、五八五・八	一、三〇二・六	三三、二二六・〇
西臼杵郡	四一、五一七・八	二六二・一	四一、六七一・一	四一、五一七・八	二六二・一	四一、六七一・一
都城市	五、七六八・八	一〇六・八	五、六六二・七	五、七六八・八	一〇六・八	五、六六二・七
宮崎市	八、二八四・九	一八〇・七	七、二三九・九	八、二八四・九	一八〇・七	七、二三九・九
宮崎郡	一八、五四一・四	三、九〇〇・五	一四、六四一・九	一八、五四一・四	三、九〇〇・五	一四、六四一・九
南那珂郡	三〇、三三二・五	三、六〇四・〇	二六、七二八・五	三〇、三三二・五	三、六〇四・〇	二六、七二八・五
北那珂郡	三一、九〇四・二	一、四一一・八	二九、四九二・四	三一、九〇四・二	一、四一一・八	二九、四九二・四
西諸縣郡	二八、五四三・八	七六七・八	二七、七七六・〇	二八、五四三・八	七六七・八	二七、七七六・〇
東諸縣郡	一四、五三〇・三	九五、一〇五・一	一三、四二五・二	一四、五三〇・三	九五、一〇五・一	一三、四二五・二
兒湯郡	三一、五九八・四	一、〇九五・一	三〇、五〇三・三	三一、五九八・四	一、〇九五・一	三〇、五〇三・三
東臼杵郡	四〇、五五〇・四	六八九・四	三九、八六一・〇	四〇、五五〇・四	六八九・四	三九、八六一・〇
西臼杵郡	三四、五八五・八	一、一〇二・〇	三三、四八三・八	三四、五八五・八	一、一〇二・〇	三三、四八三・八
都城市	四一、五一七・八	二六二・一	四一、六七一・一	四一、五一七・八	二六二・一	四一、六七一・一
宮崎市	五、七六八・八	一〇六・八	五、六六二・七	五、七六八・八	一〇六・八	五、六六二・七
宮崎郡	八、二八四・九	一八〇・七	七、二三九・九	八、二八四・九	一八〇・七	七、二三九・九

二　官有地

		社地	内務省	大藏省	陸軍省	司法省	遞信省	農林省	鐵道省	山林原野	其他
昭和十四年	地積	二六一・七町	一・〇町	二一・六町	七一、六七四・七町	七・〇町	一・二町	二四四・五町	五六五・八町	一、八一一、六〇五・九町	一、四一五・〇町
昭和十三年		二六一・七	一・〇	二一・六	七一、三八四・〇	五・五	一・二	二四四・五	五六四・一	一七九、六八三・六	一、八五七・七
昭和十二年		二六一・七	一・〇	五・八	七一、四一六・二	五・七	一・三	二四六・六	五五五・四	一八〇、六四六・七	一、一二七・四

三　民有々租地

			田	畑	宅地	山林	原野	其他
地積	昭和十四年		四三、〇八九・一町	六四、二九三・一町	七、〇八三・二町	七二、六二五・二町	三七、六六〇・〇町	一、〇九〇・六町
	昭和十三年		四四、〇〇一・一	六四、七〇八・二	六、九六八・六	七二、三七六・三	三七、六九三・三	一九二・三
	昭和十二年		四六、〇九四・二	六四、五七四・一	七、〇〇三・四	七八、二一九・五	三七、七七三・三	一六八・一
貸付價額	昭和十四年	円	七、二〇七、六四〇	二、一五三、四九四	三、六〇三、〇一七	四五六、四五四	三、二三四、四六四	二、六五七
	昭和十三年		七、三五六、〇八四	二、三四〇、八七七	三、五四八、四一四	四五四、四七五	一〇五、九七四	一、九〇四
	昭和十二年		一〇、八五三、八〇三	三、八八二	三、四八九、四八七	五九八、五三一	一〇四、五八四	一三四

四　民有免租地

		神社地	學校敷地	用惡水路溜池井溝	道路堤塘	保安林	官公署病院敷地	其他
地積	昭和十四年	一八・三町	五〇六・二町	六二四・〇町	四二一・一町	二、九四四・八町	二一・二町	二、三五五・〇町
	昭和十三年	二四・二	六一四・九	七二〇・二	七六九・三	三、三九六・一	一一七・八	一九〇・六
	昭和十二年	一八・五	五〇一・三	六二三・一	四二四・一	二、九二三・九	五一・七	二、一〇六・四

五　年期地

			荒地	開墾地	新開地	造林地	其他
地積	昭和十四年		一、九三一・六町	五二六・八町	四二・〇町	一一一・八町	一、四二八・二九一町
	昭和十三年		九六五・二	五二二・七	四一・九	一二五・九	一、四二〇・九二四
	昭和十二年		七五一・八	五一三・七	七二・二	一五八・八	一、四一九・八六〇
貸貸價額	昭和十四年	円	二、八九九	一、一七〇・二	一、一二四・一	一、一二五・九	一一、六五四・〇
	昭和十三年		二、九八八	一、二三五・九	一、一二三・〇	一、二三五・九	一一、二八三・三
	昭和十二年		二、九六二	一、二五八・八	一、一二五・一	一、二五八・八	一〇、九二九・三

氣　象

四季を通して氣候良し

平均温度が十七度

概　說

宮崎市を中心としたる氣象

本年平均氣温は一六度三を示し平年より〇度一低く、平均濕度は一%九少さく日照時數の合計は二、三二五時あつて、平年より二四六時多く、降水總量は三、一〇四耗八に達し平年より五五七耗の多量であつた、各月に就て見るに濕度は一月より六月に至るまで少さく、温度は一月は稍低温を示したが、二、三兩月は平年より約半度高く、降水量は三月より五月まで多く。尤も五月は中旬まで天氣良好であつたが、下旬に顯著なる降雨があつた爲平年より一〇〇耗餘の多量であつた、六月は下旬に至り梅雨の狀態を現はしたるも、月總量は平年より五二耗餘少く、七月は著しき降雨なくして一一二耗餘の減少を示した、卽ち五月より七月まで日照稍多かつたが、八月は稍低温にて降水量は五三二耗に上り平年より二四五耗餘多く、九月は天氣良く日照旺盛にして降水量は一一四耗六に止まり平年二三三耗の減少を示し、蒸發も旺んであつた。

十月は上旬及下旬に寡雨であつたが、十六日に颱風の襲來に依り午後十時限界の日雨量は五八七耗二に達する未曾有の豪降あり宮崎市を中心に縣下に甚大なる風水害を起した、之が爲十月の降水總量は七二六耗五に上り平年より四九九耗餘の過多量を示した、十一月は頗る温暖にて降水稍多量であつたが、日照時數は平年並であつた、十二月は寡雨、晴燥に經過し、平均氣温は平年より〇度七低く、平均濕度は三%七の寡少であつた。

（氣　象）

氣溫　平均氣溫（最高、最低氣溫の平均）は南部の海岸は一七度餘、北部の海岸は一六度五餘を示し、內陸は一般に一五度五內外であるが、西臼杵郡の奥地では一四度五內外を示し、各地共平年と大差はない、最高氣溫の極は延岡の三七度〇で、最低氣溫の極は、三田井の(一)一四度〇下福良の(一)一五度〇にして之に次いでゐる。

降水　降水總量は南那珂郡北河內の三、九一九耗最も多く、宮崎郡田野の三、七二九耗之に次ぎ、兒湯郡東米良村中之又にても三、六八六耗を測り、其他も概れ二、五〇〇耗乃至三、〇〇〇耗を示し西臼杵郡の奥地なる三田井、三ヶ所附近は二、〇〇〇耗以下である、之を平年に比するに前記の三、〇〇〇耗以上の地域は五〇〇耗以上多く、就中田野は九三九耗多く、北河內は八〇三耗餘の多量である、一般に平年より多量であるが、奥地は却つて三〇〇耗以上の減少を示し、三ヶ所や加久藤は五〇〇耗以上も寡少である、最多日雨量（午前十時限界）は宮崎の四七二耗四最も多く、神門の四四九耗、田野の三九五耗四之に次ぎ有水の三〇六耗二、都農の三〇四耗六の順位にて起日は颱風襲來したる一〇月一六日に起つた處が多い。

本年中顯著現象

三月二十日日向灘北部の地震　三月二〇日午後〇時二二分頃美々津川河口の東北東約二〇粁の沖合に相當大規模の地震起り、宮崎の發震時刻は午後〇時二二分四〇秒二、震度は中震であつたが、縣內北部及中部では强震を感じ、宮崎市內では壁に割目を生じたる家屋多く煉瓦塀の倒潰したるもの二ヶ所あつた。

梅雨期の降水量　本年は梅雨期より盛夏の候に亙り北九州、中國、四國、近畿地方は著しき旱害を被つたが本縣に於ても六月の降水量は美々津川流域及小丸川流域の上流、一つ瀬川流域にては平年より數十耗乃至百數十耗の不足を示したが其他の地方は概れ八〇耗乃至一五〇耗の多量であつた、又七月は概れ降水少なく特に大淀川流域にては百數十耗乃至二百耗も少く其他の河川流域は上流に於て百耗乃至百數十耗の寡少であつた、之が爲一時用水の不足を感じた地方もあつたが、局部的には時々豪雨があり出水被害をさへ見た處もあつた程で、一般には大した影響はなかつた。

十月十六日の颱風被害　本年中颱風に依り多少なり被害を見たること四回あるが、其中一〇月一六日本縣南方海上を東北東に通過したる颱風の爲宮崎の最強風速度は二一米七（北々東）に達し宮崎を中心として宮崎郡、南那珂郡北部に未曾有の豪雨降り甚大なる水害を被つた、殊に清武村にては清武川の堤防決潰に依り急劇に土砂を押流して多數の家屋を流失せしめ死者三十數名を出し稻田の埋沒及流失せるもの百町歩以上に達する慘害を惹起した。

六　宮崎氣象

昭和十四年

（氣象）

		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
平均氣壓		七六六・六 粍	七六六・〇	七六一・九	七六二・二	七五九・二	七五六・五	七五七・八	七五五・八	七五九・一	七六二・四	七六四・九	七六八・八	七六一・八
平均温度		六・一 度	七・八	一〇・九	一四・六	一八・八	二二・八	二五・七	二五・九	二三・一	一八・二	一四・五	八・〇	一六・三
平均濕度		六九・九 %	六九・九	七三・三	七九・九	七七・七	八三・三	八五・七	八五・九	八二・二	八三・三	七八・八	七七・一	七九・八
平均雲量		四・九	四・九	六・四	七・四	六・八	八・二	六・二	五・〇	五・〇	六・四	五・四	二・三	五・八
日照時數		二〇六・〇 時	一八一・六	一七九・〇	一四二・三	一二二・四	一四九・七	二四五・六	二〇二・二	一四五・六	一五三・六	一六九・八	二三七・四	二、三五二・三
降水總量		一一七・一 粍	三七・八	二四四・六	三一五・四	三四六・九	三二三・〇	一六七・四	五三二・〇	一四〇・六	七二六・五	一七一・七	七〇・八	三、一〇四・八
平均風速度		二・〇 米/秒	二・一	二・三	二・六	二・五	二・〇	二・〇	二・七	一・七	一・八	一・八	一・八	二・〇一
天氣日數	快晴	一三	八	六	一	三	五	二	三	八	五	五	五	七五
	不照	三	四	六	九	七	八	二	三	二	一〇	一二	一	五六
	曇天	六	七	一四	一一	一五	一〇	一二	一一	九	一三	一六	一	一五五
降雨日數	(0.1粍以上)	八	六	一四	一〇	一四	九	一三	一八	一一	一六	一九	三	一五八

温度ハ總テ攝氏ノ度・氣壓、降水量ハ粍（三厘二毛）濕度ハ百分率、雲量ハ十分率、天氣日數中晴曇ノ區別ハ降水ノ有無ニ拘ハラス平均雲量ニヨリ、快晴トハ雲量十分ノ二未滿、曇天トハ十分ノ二以上十分ノ八以下ノモノヲ示ス、降水日數ハ一日ノ降水量零耗以上ニ及ビタルモノトス

○温度　攝氏ヲ華氏ニ換算スルニハ攝氏ノ示度ニ一、八ヲ乘ジ之ニ三十二度ヲ加フ卽チ攝氏ノ十度ハ華氏ノ五十度ナリ

○氣壓　一粍ノ重力ハ一平方粍ニ付秤量三毛六二ナレバ七百六十粍ノ氣壓ハ二匁七分五厘ニ相當シ一平方尺ハ約二百五十二貫トナル

○雨量　一粍ノ降雨ハ一坪ニ付一升八合三勺ニ當ル故十粍ハ一段歩ニ五十五石トナル

七　縣內氣象

（氣　温）　昭和十四年

月	星倉	宮崎	高岡	高鍋	延岡	都城	小林	神門	三田井	下鄕良	川南	本城
一月	度 七・〇	度 六・五	度 六・五	度 六・〇	度 五・九	度 五・〇	度 四・二	度 四・六	度 三・三	度 三・三	度 六・七	度 七・六
	九・二	八・三	七・二	七・三	六・七	六・四	四・四	六・四	三・二	三・二	七・六	九・三
	一二・〇	一一・三	一〇・八	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一〇・一	九・九	八・九	八・九	一一・二	一一・七
二月	一五・三	一五・一	一四・八	一三・八	一三・八	一三・八	一三・七	一二・八	一二・二	一二・二	一四・八	一四・八
	一九・五	一九・四	一八・五	一八・四	一八・五	一八・四	一八・四	一七・九	一七・〇	一七・〇	一九・〇	一八・八
	二三・八	二三・〇	二一・〇	二一・〇	二一・〇	二一・〇	二一・〇	二一・三	二一・〇	二一・〇	二一・六	二一・九
三月	一五・一	一五・一	一四・八	一四・〇	一四・二	一三・八	一三・七	一二・六	一二・二	一二・二	一四・七	一四・八
	一九・四	一九・四	一八・五	一八・四	一八・五	一八・四	一八・四	一七・九	一七・〇	一七・〇	一八・九	一八・八
	二三・〇	二一・一	一〇・八	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一〇・一	二一・三	二一・三	二一・三	二一・二	二一・九
四月	一五・一	一五・一	一四・八	一四・〇	一四・二	一三・八	一三・七	一二・六	一二・二	一二・二	一四・七	一四・八
	一九・四	一九・四	一八・五	一八・四	一八・五	一八・四	一八・四	一七・九	一七・〇	一七・〇	一八・九	一八・八
	二三・〇	二一・一	一〇・八	一〇・一	一〇・一	一〇・一	一〇・一	二一・三	二一・三	二一・三	二一・二	二一・九
五月	一四・八	一四・八	一四・六	一三・八	一四・二	一三・八	一三・七	一二・六	一二・二	一二・二	一四・七	一四・八
	一九・〇	一八・五	一八・四	一八・四	一八・五	一八・四	一八・四	一七・九	一七・〇	一七・〇	一九・〇	一八・八
	二一・一	二一・〇	二一・〇	二一・〇	二一・〇	二一・〇	二一・〇	二一・三	二一・三	二一・三	二一・六	二一・九
六月	一五・九	一五・六	一五・四	一五・〇	一五・〇	一四・八	一四・七	一三・六	一三・二	一三・二	一五・七	一五・六
	二一・一	二一・〇	二〇・八	二〇・一	二〇・一	二〇・一	二〇・一	二〇・三	二〇・二	二〇・二	二一・六	二一・九
	二六・二	二六・二	二五・九	二五・八	二五・九	二五・八	二五・七	二五・〇	二四・九	二四・九	二六・三	二六・三
七月	二五・九	二五・六	二五・四	二五・二	二五・一	二五・一	二五・一	二四・六	二三・九	二三・九	二五・四	二五・七
	二八・一	二八・一	二七・九	二七・七	二七・五	二七・五	二七・四	二六・九	二六・〇	二六・〇	二七・三	二七・五
	三二・六	三二・七	三二・四	三二・二	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三一・〇	三一・〇	三二・三	三二・四
八月	二五・九	二五・八	二五・六	二五・五	二五・四	二五・四	二五・四	二五・二	二四・九	二四・九	二五・四	二五・五
	二八・一	二八・一	二七・九	二七・八	二七・六	二七・六	二七・六	二七・四	二六・九	二六・九	二七・三	二七・五
	三二・六	三二・七	三二・四	三二・二	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三一・〇	三一・〇	三二・三	三二・四
九月	二五・九	二五・六	二五・四	二五・二	二五・一	二五・一	二五・一	二四・六	二三・九	二三・九	二五・四	二五・七
	二八・一	二八・一	二七・九	二七・八	二七・六	二七・六	二七・六	二七・四	二六・九	二六・九	二七・三	二七・五
	三二・六	三二・七	三二・四	三二・二	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三一・〇	三一・〇	三二・三	三二・四
十月	二五・九	二五・六	二五・四	二五・二	二五・一	二五・一	二五・一	二四・六	二三・九	二三・九	二五・四	二五・七
	二八・一	二八・一	二七・九	二七・八	二七・六	二七・六	二七・六	二七・四	二六・九	二六・九	二七・三	二七・五
	三二・六	三二・七	三二・四	三二・二	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三二・〇	三一・〇	三一・〇	三二・三	三二・四
十一月	一九・五	一八・八	一八・六	一七・九	一七・九	一七・五	一七・五	一七・六	一六・二	一六・二	一八・七	一八・七
	二三・六	二四・〇	二三・七	二三・二	二三・〇	二三・〇	二三・〇	二三・〇	二二・〇	二二・〇	二三・三	二三・四
	二七・三	二八・一	二八・〇	二七・五	二七・四	二七・四	二七・四	二七・四	二六・七	二六・七	二七・七	二七・九
十二月	一七・八	一七・八	一七・六	一七・五	一七・五	一七・五	一七・五	一七・六	一六・二	一六・二	一八・七	一八・七
	二一・一	二一・一	二〇・八	二〇・一	二〇・一	二〇・一	二〇・一	二〇・三	二〇・二	二〇・二	二一・六	二一・九
	二四・五	二四・五	二四・二	二三・八	二三・七	二三・七	二三・七	二三・七	二二・七	二二・七	二四・二	二四・四
全年	一九・五	一九・四	一八・八	一八・四	一八・四	一八・四	一八・四	一八・四	一八・二	一八・二	一九・四	一九・四

八　縣內氣象

（降水量）　昭和十四年

月	星倉	宮崎	高岡	高鍋	延岡	都城	小林	神門	三田井	下鄕良	川南	本城
一月	耗 一二七・五	耗 一一七・七	耗 一〇七・八	耗 一〇八・〇	耗 一二六・一	耗 九〇・九	耗 一二六・一	耗 八二・〇	耗 九二・五	耗 七六・五	耗 一〇六・一	耗 一二二・〇
	五七・六	五八・〇	四三・四	四一・六	四三・四	四六・一	四三・四	五九・〇	七六・五	七九・六	四一・一	四九・三
	二三四・二	二三四・三	一六七・四	二四一・七	二〇五・〇	一四九・一	二一八・九	二〇七・三	一九五・五	二四八・八	四七・一	一八五・七
二月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・三	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
三月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
四月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
五月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
六月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
七月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
八月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
九月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
十月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
十一月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
十二月	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
全年	四二三・二	三一二・五	二九六・七	三五九・〇	二〇八・二	一八〇・六	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	四一九・四	三四四・四	三三二・〇	二九三・八	一九九・六	一六九・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九
	三五八・六	三五八・九	三六八・六	四三四・七	二八八・二	二一二・四	二三五・一	二〇五・一	一六八・六	一六八・六	二三五・六	二三五・九

全 十十十 九八七

一一

年 月月月 月月月

	本城	川南	下鶴貴	三田井	蒲門	小林	都城	延岡	高鍋	高岡	宮崎	是倉
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	四一一	四一一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一
	一〇六	四三一	一六六	四三一	一〇一	一三七	一三一	一三一	一四一	一四一	一三一	一三一

戶口

戶數十五萬六千（現住）

人口八十七萬餘（現住）

概說ノ一（國勢調査）

現在人口

昭和十年十月一日に執行せる國勢調査の結果に依る本縣人口の總數は八二四、四三一人にして之を從來の調査の結果と比較するときは先づ前回、卽ち昭和五年に比し六三、九六四人（八分）、大正十四年に比し一三三、三三七人（一割六分）、大正九年の第一回國勢調査に比し一七三、三三四人（二割七分）の增加を示してゐる。

常住人口

昭和十年十月一日に執行せる國勢調査の結果に依る本縣常住人口の總數は八二三、五四五人（男四一五、〇七三人、女四〇八、四七二人）にして之を現在人口と對比するときは八八六人減きた觀る。

結果の概要

昭和十年十月一日に執行せる國勢調査の結果による本縣三市八郡の總人口は前述の如く八二四、四三一人にして、全國總人口六九、二五四、一四八人の一、一九%に該り府縣中第三十三位を占む。之を既往に就き

（戸口）

見るに大正九年は一、一六%第四十一位、昭和五年は一、一八%第三十八位、昭和十年は一、一六%第三十八位、大正十四年は一、一八%第三十五位にして本縣人口の全國總人口に對する割合は大正九年及大正十四年は同率なるも昭和五年には稍增加し昭和十年に至りては更に增加を示した。尙之れを從來の調査に比較するときは先づ前回昭和五年に比し六三、九六四人(八分)、大正十四年に比し一三三、三三七人(一割六分)、大正九年の第一回に比し一七三、三三四人(二割七分)の增加である。

人口の縣內分布を見るに六四、七二六人(七、九%)は宮崎市に五六、四二一人(六、八%)は延岡市に其の他は郡部に在るを以て市部の人口の占むる割合は一九、一%に當つて居る。而して郡市中人口の最も多きは東臼杵郡の一一七、六六四人(一四、二%)にして北諸縣郡の一〇八、七〇九人(一三、二%)、兒湯郡の九六、四五〇人(一一、七%)、南那珂郡の九〇、五五二人(一一、〇%)之に相亞ぎ、西諸縣郡の八二、〇五九人(一〇、〇%)、宮崎郡の六七、五七七人(八、二%)、宮崎市の六四、七二六人(七、九%)、西臼杵郡の六二、六八九人(七、六%)、延岡市の五六、四二一人(六、八%)東諸縣郡の四一、〇〇九人(五、〇%)の順位にして都城市の三六、五七五人(四、九%)が最も少ない。

九　國勢調査人口

縣郡市	昭和十年 世帶	昭和十年 人口	昭和五年 世帶	昭和五年 人口	大正十四年 世帶	大正十四年 人口	大正九年 世帶	大正九年 人口
縣	一五八、四三五	八二四、四三一	一四六、六三〇	七六〇、四六七	一三八、六五三	六九一、〇九四	一三二、三一一	六五一、〇九七
宮崎市	一三、七五一	六七、五七四	一三、四六九	六五、七二四	一三、〇〇四	六〇、五八五	一二、九四〇	五九、九〇九
都城市	一七、二六二	七九、五三二	一六、二九五	八五、三五八	一五、六六七	七九、四九六	一五、四一四	七六、七〇四
延岡市	一九、一一六	一〇八、七〇九	一八、三二〇	一〇四、三七八	一七、三七九	九七、五九四	一六、三三九	九〇、二四九
南那珂郡	一六、〇一三	八二、〇五九	一五、二〇七	七八、五六四	一四、三九四	七二、四二八	一四、〇四〇	六七、九三五
北諸縣郡	一九、一一六	一〇八、七〇九	一八、三二〇	一〇四、三七八	一七、三七九	九七、五九四	一六、三三九	九〇、二四九
西諸縣郡	一六、〇一三	八二、〇五九	一五、二〇七	七八、五六四	一四、三九四	七二、四二八	一四、〇四〇	六七、九三五
兒湯郡	二一、一四四	一〇七、一四四	二〇、七三〇	一〇七、七六五	一九、二六〇	一〇〇、三一八	一九、二三三	九八、六九一
東臼杵郡	二三、五九五	一一七、六六四	二一、八八一	一〇七、九六〇	二〇、一五一	一〇〇、三一八	一九、二三三	九八、六九一
西臼杵郡	二一、一四四	一〇七、一四四	二〇、七三〇	一〇七、七六五	一九、二六〇	一〇〇、三一八	一九、二三三	九八、六九一
宮崎市	一二、九二五	六四、七二六	一一、五二五	五八、九二一	九、五九〇	四六、七八七	七、九二三	三八、一二一
都城市	七、二〇一	三六、五七五	六、九九五	三五、六一二	六、二九三	三〇、四二一	五、一三八	二五、七四一
延岡市	一〇、〇八九	五七、四二一	九、〇四八	五一、九九五	八、四九二	四一、二四〇	七、三三五	三〇、一四六

二　出生地別人口ノ一

（昭和五年國勢調査）

總數		三八七四	三六〇	三五一四	三四六	三五〇〇	三四七	四〇八七	三五七
自市町村生	男	二七七四	二五〇	二七二四	二五〇	二七〇〇	二四七	四〇七	三五七
	女	三六六〇	二七〇	三四一〇	二六六	三四〇〇	二六五	四〇八	三五七
縣内他市町村生	男	三五〇〇	二四七	三四一〇	二四六	三四〇〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三六六〇	二七〇	三四一〇	二六六	三四〇〇	二六五	四〇八	三五七
他府縣生	男	三四七	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三五一	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇八	三五七
內地外生	男	三四〇	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三四一	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇八	三五七

總數		三八七四	三六〇	三五一四	三四六	三五〇〇	三四七	四〇八七	三五七
自市町村生	男	二七七四	二五〇	二七二四	二五〇	二七〇〇	二四七	四〇七	三五七
	女	三六六〇	二七〇	三四一〇	二六六	三四〇〇	二六五	四〇八	三五七
縣内他市町村生	男	三五〇〇	二四七	三四一〇	二四六	三四〇〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三六六〇	二七〇	三四一〇	二六六	三四〇〇	二六五	四〇八	三五七
他府縣生	男	三四七	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三五一	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇八	三五七
內地外生	男	三四〇	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三四一	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇八	三五七

二　配偶關係別人口

（昭和十年國勢調査）

總數		三八七四	三六〇	三五一四	三四六	三五〇〇	三四七	四〇八七	三五七
未婚	男	二七七四	二五〇	二七二四	二五〇	二七〇〇	二四七	四〇七	三五七
	女	三六六〇	二七〇	三四一〇	二六六	三四〇〇	二六五	四〇八	三五七
有配偶	男	三五〇〇	二四七	三四一〇	二四六	三四〇〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三六六〇	二七〇	三四一〇	二六六	三四〇〇	二六五	四〇八	三五七
死別	男	三四七	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三五一	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇八	三五七
離別	男	三四〇	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇七	三五七
	女	三四一	二四七	三四一	二四六	三四〇	二四五	四〇八	三五七

三、出生地別人口（昭和五年國勢調査）

（人口）

出生地	総数	男	女	都城市 総数	都城市 男	都城市 女	宮崎市 総数	宮崎市 男	宮崎市 女	宮崎縣 総数	宮崎縣 男	宮崎縣 女
北海道	一、一九七	六〇二	五九五	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
青森縣	一、〇一九	五一〇	五〇九	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
岩手縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
秋田縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
山形縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
福島縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
茨城縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
栃木縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
群馬縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
埼玉縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
千葉縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
東京府	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
神奈川縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
新潟縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
富山縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
石川縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
福井縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
山梨縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
長野縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
岐阜縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
静岡縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
愛知縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
三重縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
滋賀縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
京都府	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
大阪府	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
兵庫縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
奈良縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
和歌山縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
鳥取縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
島根縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
岡山縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
広島縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
山口縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
福岡縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
佐賀縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
長崎縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
熊本縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
大分縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
鹿兒島縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
沖縄縣	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
樺太	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
朝鮮	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
台湾	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
関東州	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
南洋群島	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
外國	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五
不詳	一、〇一〇	五一〇	五〇〇	一〇	五	五	一〇	五	五	一〇	五	五

	宮崎縣			宮崎市			都城市			郡部		
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
廣島縣	一、三八〇	七六三	六一七	三二八	一四八	一八〇	一一四	五三	六一	九四八	五三一	四一七
山口縣	八八四	四七七	四〇七	二〇五	九〇	一一五	七〇	三四	三六	六〇九	三二八	二八一
德島縣	二、三二一	一、二五二	一、〇六九	五〇五	二三九	二六六	四七	二六	二一	一、七六九	九六〇	八〇〇
香川縣	二、九四〇	一、五七五	一、三六五	五四〇	二五四	二八六	五一	二七	二四	二、三四九	一、二六二	一、〇八七
愛媛縣	九、九七五	五、一四一	四、八三四	二、二五二	一、〇三四	一、一八	四四三	二〇三	八六	八、九五九	四、六五九	四、三〇三
高知縣	五、八一三	三、〇六一	二、七五二	一、一七四	四九五	六六一	四四三	二〇三	一九六	四、六五九	二、七一八	一、九四一
福岡縣	五、三二九	二、九三八	二、三九一	一、一〇	五三	一五九	五八七	二三六	三八一	三、五六八	一、九五一	一、六一七
佐賀縣	一、一二三	六二六	四九六	二八九	一三〇	一五九	一一二	六〇	五一	七一二	四〇七	三〇五
長崎縣	一、九四六	九七九	九六七	五六六	二八〇	二八六	一一八	五四	六四	一、二九二	六二九	六六三
熊本縣	八、八四六	四、七二九	四、一二〇	一、九二三	五五六	一、三六七	三五五	一三〇	九二	七、一一九	三、八〇七	三、三一二
大分縣	一〇、六七四	六、二三二	四、四四二	二、〇六四	一、〇二九	一、〇三五	二二三	八四	一三八	八、八〇三	五、二一三	三、五九一
鹿兒島縣	二七、〇六〇	一三、六七〇	一三、三九〇	三、四六九	一、六四四	一、八二五	二、八四一	一、〇一七	一、八二四	一八、〇三六	九、四六五	八、五七一
沖繩縣	二一九	一三九	八〇	三八	二一	一七	三八	一三	二五	一三五	九七	三八
外地	三、八九六	二、八一〇	一、〇八六	三六二	二四九	一一三	三、三八二	二、四九八	八八四	三、一二四	二、三七六	七四八
朝鮮	三、五一三	二、六二四	八八九	三四三	二四三	一〇〇	三、二二八	二、三六五	八六三	二五〇	一八五	六五
臺灣	三七五	一八二	一九三	一四	七	七	一八	一一	七	八	四	四
樺太	八	四	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關東州(州內)	一四三	七一	七二	三	二	一	一	一	一	一	一	一
南洋群島	七	三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
外國人	五三八	三一	二〇七	一四三	八八	五五	四二	二一	二一	一九	一一	八
水上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

概說ノ二

（現住人口）

靜態現象

現住戶數及人口　昭和十四年十月一日現在に於ける現住戶口は戶數一五五、八八六、人口八七四、八三五人にして、之を前年同期の人口と對比すれば戶數六三五戶、人口五、六三〇人の增加を示した。

人口密度　本縣の人口密度は一方里に付僅かに一、七四四人に當り、帝國內地の人口昭和十年國勢調査密度二、七九二人に對比すれば遙かに稀薄である。而して、之を郡市別に觀れば次表の如く市部に於ては宮崎市の一六、七四九人を首位とし都城市の一四、〇八〇人、延岡市の八、〇八六人の順となり郡部に於ては宮崎郡の二、五九〇人が最も稠密であり北諸縣郡の二、〇〇九人之に亞ぎ南那珂郡の一、七五三人、東諸縣郡の一、六九〇人、杵郡の九〇五人の順位にして、最も疏なるは西臼杵郡の六七四人である。尙一戶平均人口は五・六人に當り、內地の一世帶平均人口の五・一人に對比すれば僅に多い。されど之を地方別に觀るときは一樣でない。卽ち西臼杵郡の六・一三人、東臼杵郡の五・八四人之に相亞ぎ、宮崎市が最も少くして五・〇〇人である。

	面積（方里）	現住戸數	一方里當現住戸數	現住人口	一方里當現住人口	一戸當平均人口（人）
宮崎市	二七・二六	二一、八二二	七〇、五九〇	一、九二〇、一九〇	七〇、五九〇	五・四八
南那珂郡	五四・〇九	一六、五六八	三〇六	一、七五三、一七一	三二、四八五	五・七二
北諸縣郡	四四・八八	一四、六三九	三二八	二、〇〇九、一三一	四五、四二二	六・一三
西諸縣郡	六〇・七五	一五、二三一	二五一	一、三八五、一〇七	二三、〇九二	五・五二
東諸縣郡	二四・九〇	七、八六六	三一六	一、六九〇、六六五	四二、〇九二	五・三五
兒湯郡	七五・八八	一八、九五三	二五〇	一、三六六、〇四九	一七、六四一	五・〇四
東臼杵郡	一〇三・五七	一七、六五六	一七三	一、七四五、一〇四	一〇、一二〇	六・二〇
西臼杵郡	九一・五七	九、九六〇	一〇九	六七四	六・一〇	六・一〇
宮崎市	四・〇〇	一三、三九七	三、三四九	一、六九〇、六六五	四二、〇九二	五・三五
都城市	四・七四	一二、三三一	二、六〇一	一、三六六、〇四九	一七、六四一	五・〇四
延岡市	二一・二九	一六、四七〇	一、四五九	六七四	六・一〇	六・一〇

蓋し上述の如く人口の密度と一戸平均人口關係は全國的に觀るも等しく同樣の現象を示してゐるが之れ卽ちその地方の社會狀態及經濟事情等の然らしむる所であり、宮崎市、都城市等に於て人口稠密なるに一戸當りの人口僅少なるは人口の都會集中經濟組織の變遷に伴ふ小家族制度の反映と見ることが出來、之に反し西臼杵郡其他山間部地方に於て人口稀疎なるに一戸當り人口の多數なるが如きは如實に其の邊の關係を物語つて居る。

男女の權衡　現住人口に就き男女の權衡を見るに男四三六、二四二人に對し女四三八、五九三人なるを以て女の男を超過すること二、三五一人にして之が割合は女一〇〇人に付男九九・四六となる。尙郡市に就き之が狀況を見るに大體に於て權衡を保てるも兒湯郡の一〇四・〇九、西臼杵郡の一〇二・一〇東臼杵郡の一〇一・六一、西諸縣郡の一〇〇・〇六は何れも男子の數多きも其の他の郡市は女子の數多く就中都城市の如きは女一〇〇人に付男九四・五一人に當つて居る。

增加率　既往二十箇年間に於ける本縣人口增加の狀況を觀れば次表の如く逐年著しき增加を示してゐる。

（戸口）	本籍人口	現住人口		增加實數		增加率（千に付）	
	總數	男	女	本籍人口	現住人口	本籍人口	現住人口
昭和十四年十月一日	八九二、二九八	四三六、二四二	四三八、五九三				
昭和十三年十月一日	八八二、六九九	四三三、四四一	四三五、七六四	九、五九八	五、六三〇	一〇・七六	六・四四
昭和十二年十月一日	八六二、七三一	四三一、六五五	四三一、〇七六	八、六一三	八、〇八〇	一〇・〇一	一〇・〇六
昭和十年十月一日	八四八、一四七	四二六、七七八	四二一、三六九	九、〇八〇	三、三三七	一〇・六六	三・九三
昭和九年十月一日	八四二、五八一	四二七、一一三	四二一、〇六二	一、一〇七	一、一六〇	一三・三二	四・九三
昭和八年十月一日	八三一、五〇八	四二五、三六四	四一八、六五一	一三、三七七	一二、一〇二	一六・三五	一四・八五
昭和七年十月一日	八一八、一三一	四一一、二三八	四〇六、一一三	一四、七三三	一四、五七二	一八・三九	一七・二五
昭和六年末	八〇二、六三六	四〇三、七二四	三九八、九一二	一五、〇四四	一八、二五六	一九・四二	二三・二七
昭和五年末	七八九、七三八	三九九、八五二	三八三、八八六	一二、七一四	一二、七二四	一六・四九	一六・四五
昭和四年末	七七四、六九四	三九〇、三五八	三七六、一九三	一四、七七六	一四、六二七	一九・一二	一八・九三
昭和三年末	七六二、九二〇	三八七、八三六	三七四、〇八四	一二、〇二六	一三、六三三	一五・七四	一七・四五

昭和二年末	七三四、二六九	七一七、七四五	七〇三、二九五	六九四、五二六	六八〇、四九二	六六九、一五六	六五七、五五九	六四六、八四二	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七
昭和元年末	七一七、七四五	七〇三、二九五	六九四、五二六	六八〇、四九二	六六九、一五六	六五七、五五九	六四六、八四二	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七	三五四、七一一
大正十四年末	七〇三、二九五	六九四、五二六	六八〇、四九二	六六九、一五六	六五七、五五九	六四六、八四二	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七	三五四、七一一	三五三、八八七
大正十三年末	六九四、五二六	六八〇、四九二	六六九、一五六	六五七、五五九	六四六、八四二	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七	三五四、七一一	三五三、八八七	一四九、〇二四
大正十二年末	六八〇、四九二	六六九、一五六	六五七、五五九	六四六、八四二	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七	三五四、七一一	三五三、八八七	一四九、〇二四	一四六、一五七
大正十一年末	六六九、一五六	六五七、五五九	六四六、八四二	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七	三五四、七一一	三五三、八八七	一四九、〇二四	一四六、一五七	一四三、〇一〇
大正十年末	六五七、五五九	六四六、八四二	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七	三五四、七一一	三五三、八八七	一四九、〇二四	一四六、一五七	一四三、〇一〇	一四〇、九七九
大正九年末	六四六、八四二	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七	三五四、七一一	三五三、八八七	一四九、〇二四	一四六、一五七	一四三、〇一〇	一四〇、九七九	一三七、九四八
大正八年末	六三六、〇六九	三七五、一五一	三六七、一四九	三六〇、五四五	三五九、九六〇	三六九、七二二	三六一、一一七	三五四、七一一	三五三、八八七	一四九、〇二四	一四六、一五七	一四三、〇一〇	一四〇、九七九	一三七、九四八	一三四、九一八

動態現象

現在人に對する人口動態は死産に關するものを除く外、內閣統計局の調査に屬し未だ昭和十四年の事實を知り得ざるを以て玆に本縣に於て調査したる本籍人口の動態に付其の概說を試みんとす。但し死亡に就ては其の最も重要なる死因等を知るの必要あるに付參考のため內閣統計局調査にかゝる昭和十三年の事實に據ることゝした。

婚姻 昭和十四年中に於ける婚姻總數は六、八四〇件にして前年に比し五四三件の減少を示した、而して其の種類別は普通婚姻六、五三三件、入夫婚姻一四四件、婿養子婚姻一六三件にして婚姻百中普通婚姻九六、入夫婚姻二、婿養子婚姻二の割合となり人口千に對する婚姻率は七・六七に當り前年に比し〇・六九の低率を示した。尙郡市中右婚姻率の概して高きは都城市の八・六四にして宮崎市の八・三六、西諸縣郡の八・三〇、宮崎郡の七・九六之に相亞ぎ、最も低率なるは東諸縣郡の七・二二である。更に婚姻者の年齡を見るに先づ男に在りては二五歲以上三〇歲未滿の者最も多く、總數の四割一分を占め、三〇歲以上三五歲未滿二割四分、二〇歲以上二五歲未滿一割一分之に亞ぎ、卽ち男子婚姻の大部分は上記の年齡に於て行はれ爾餘の二割四分は三五歲以上及二〇歲未滿の者の婚姻に屬す。次に女に在りては二〇歲以上二五歲未滿の者最も多く、總數の四割二分を占め、二五歲以上三〇歲未滿の二割九分は一九歲以下及三〇歲以上の者の婚姻に屬す。離て之を全國平均の事實に就き見るも大體本縣と同樣の現象にして、男の最も多きは二五歲以上三〇歲の者にして之に亞ぐは二〇歲以上二五歲未滿の者とし、女に在りては二〇歲以上二五歲未滿の者最も多數を占め、二五歲以上三〇歲未滿の者之に亞ぐ、卽ち本縣婚姻年齡の第一階級にある男の二五歲以上三〇歲未滿の者、女の二〇歲以上二五歲未滿の者は共に全國平均年齡と同一の狀態にあるも第二階級に屬する男三〇歲以上三五歲未滿、女の第三階級に屬する三〇歲以上三五歲未滿の者は共に全國平均年齡に比しその率高く卽ち晩婚の傾向顯著なるを觀る。尙既往十箇年間に於ける婚姻率を見るに、年に於て消長あるとは云へ概して逐年低下の傾向にあり。

離婚 昭和十四年中に於ける離婚の件數は五五二件にして前年に比し三五件の增加を示し人口千に對する離婚率は〇・六二にして前年に比し〇・三の高率を示し之を最近十箇年間に就き觀るときは前年に亞き低率を示して居る。而して離婚の種類別は妻が夫の家を去るもの三〇件(五分)、戶內離婚一四件(三分)である。郡市中離

婚率の最も高きは宮崎市の〇・八六にして、南那珂郡の〇・七七、兒湯郡の〇・七〇之に相亞ぎ、北諸縣郡の〇・四一が最も低い。

出生

昭和十四年中に於ける出生數は二八、〇三二人（男一四、三三一人、女一三、七〇一人）にして前年に比し四人（男一二四人減少、女一二八人增）の增加を示し、人口一、〇〇〇に對する出生率は三一、四二に當り、前年に比し〇・三三の低率を示してゐる。而して其の身分別は各性出生百中男は嫡出子九一・九三、庶子四・六五、私生子三・四二に當り、女子は嫡出子二九・〇七、庶子四・二六私生子三・六七の割合にして之を既往に比較せば、嫡出子は男女共に逐年增加し、庶子及私生子の割合は漸減の趨勢にあり。尙出生を季節的に見れば一月の（三、〇三八人）、二月（二、七七九人）、十二月（二、五二八人）、九月（二、〇九二人）、十一月（二、四九二人）、八月（二、〇〇一人）、七月（一、九五一人）、五月（一、八八九人）、六月（一、六五〇人）の順位となる。郡市中出生率の最も高きは西諸縣郡の三六・八八にして西臼杵郡の三三・三九、北諸縣郡の三三・二一之に亞ぎ、最も低率なるは宮崎市の二六・五六である。

死産

昭和十四年中に於ける死產數は一、一一五件にして前年に比し二五件を減少し、人口一、〇〇〇に對する割合は一・二五に當る。而して其の身分別は各性死產一、〇〇〇中男は嫡出子七七三・〇四、庶子七一・六七、私生子一五五・二九に當り、女は嫡出子七七八・八三、庶子五二・九三、私生子一六八・二四の割合にして、私生子の死產割合に高きは注目すべき現象なるも、之を既往十箇年に就き見るときは最低の率を示し逐年低下の傾向を辿りつゝあり。尙之が體性別は女一〇〇に付男一一〇・七八にして出生兒の割合に比し男兒遙に多きもこの現象は漸次出生兒の割合に近づきつゝあることが窺はる。而して郡市中死產の最も多きは延岡市の二・二一にして兒湯郡の一・五〇、東臼杵郡の一・四七、西臼杵郡の一・四五、都城市の一・三七之に相亞ぎ、最も低率なるは南那珂郡の〇・七一である。更に懷孕月數により各月の死產を見るに四箇月迄のもの（月不詳の者を含む）は僅かに一二人にして、月數を重ねるに從ひ漸次死產を增し卽ち五箇月三三人、六箇月一四五人八箇月一八七人、九箇月二〇二人、十箇月四五七人となる。

死亡

昭和十四年中に於ける本籍人死亡者の總數は一七、九四一人（男一〇、二七七人、女七、八六四人）にして前年に比し一、九九八人（男一、四一二人、女五八六人）を增加し一日平均死亡數は四九人強に當り、男女の比は女一〇〇に付男一二八・一四なり。尙人口一、〇〇〇に對する死亡率は二〇・一一（男二三・一〇、女一七・九三）にして全國內地の一七・四四（尤も昭和十三年の事實なるも）に比較すれば僅かに高率なるを觀る。死亡數は人口の增加に伴ひ逐次增加するは自然の現象なるも、死亡率は必ずしも實數と正比しない、卽ち今既往に於ける死亡率を見るに十年前たる昭和五年は一六・八九人にして翌昭和六年は一七・〇〇人鏖なりしが、昭和十一年には再び一七・二二人、昭和十二年には一七・三三人、前年は更に增加して一八・〇六人になつてゐる。而して郡市中死亡率の最も高きは西臼杵郡の二一・七一にして宮崎市の二一・一二、西諸縣郡の二〇、七四東諸縣郡の二〇・二八之に相亞ぎ、北諸縣郡の一八・五五が最も低い。尙死亡

總數一七、九四一人中六歲未滿の小兒の死亡は五、三四一人(男二、八二〇人、女二、五二一人)にして死亡總數の三〇%に當つてゐる。

人口の自然增加　出生、死亡の差增たる人口の自然增加は次表に示す如く逐年增加の傾向を辿りつゝあるも本年は實數一〇、〇五一人、人口一、〇〇〇に對する割合一一・三一にして最近十箇年間に於ける最低率を示してゐる。

	出生	死亡	死亡ニ對スル出生ノ超過	人口千ニ付出生死亡ノ差
昭和十四年	二八、〇三二	一七、九四一	一〇、〇九一	一一・三一
昭和十三年	二八、〇二八	一五、九四三	一二、〇八五	一三・六九
昭和十二年	三一、四九二	一四、九四八	一六、五四四	一九・一八
昭和十一年	二八、八三一	一四、〇七七	一四、二三四	一六・七七
昭和十年	三〇、四一七	一三、九四五	一六、四七二	一九・五五
昭和九年	二八、〇四九	一三、五九二	一四、四五七	一七・三九
昭和八年	二九、〇〇三	一三、六五三	一五、三五〇	一八・七六
昭和七年	二八、七三九	一三、六二三	一五、一一七	一八・八二
昭和六年	二七、四八五	一三、八九六	一三、四九九	一七・〇一
昭和五年	二七、二四八	一三、〇九〇	一四、一五八	一八・二八

郡市に於ける增加率は次表に示す如く西諸縣郡の一六・一四最も高く北諸縣郡の一四・六六之に亞ぎ最も尠きは宮崎市の五・四四である。

	出生	死亡	死亡ニ對スル出生ノ超過	人口千ニ付出生死亡ノ差
宮崎市	二、五七一	一、四六七	一、一〇四	九・四一
南那珂郡	三、一七三	一、九一一	一、二六二	一〇・六〇
北諸縣郡	三、六四七	二、三〇三七	一、三四〇	一一・二六
西諸縣郡	二、一八一	一、七八九	一、三九二	一六・一四
東臼杵郡	一、五五一	一、〇四七	五〇四	九・九七
兒湯郡	三、一二八	二、〇八五	一、〇四三	一〇・六〇
諸塚村	三、五三七	二、三六二	一、一七五	一〇・二六
西臼杵郡	二、一六九	一、四二〇	七五九	一一・六九
東臼杵郡	一、二七〇	一、〇一〇	二六〇	五・四四
西都市	一、八八二	一、二一六	六六六	一一・九九
宮崎市	一、七二四	一、一六四	五六〇	九・三八

産業別現住戸數　昭和十四年十一月一日現在に於ける現住戸數一五五、八八六人口を業態別に見れば、農業八三、〇三二(五三%)、水產業四、二六三(三%)、鑛業一、二八四(一%)、工業一九、八五一(一三%)、商業二一、五九〇(一四%)、交通業五、七二七(四%)、公務自由業一一、六二四(七%)、家事一一〇(〇%)、其の他の產業五、八一三(三%)、無業二、五九二(二%)にして之を前年と對比すれば、農業六四戸、水產業二四六戸、鑛業二一六戸、商業七八〇戸、無業一三六戸は何れも減少を示せるも工業一、二一六戸、交通業七六戸、公務自由業四八六戸、家事三三戸は何れも增加して

(戸口)

ゐる。

職業別現住人口　昭和十四年十月一日現在に於ける現住人口八七四、八三五人の中業務に従事する者四四九、三五一人を業態別に見れば農業二六九、七五五人(六〇%)、水産業三、一四九人(一%)、工業六一、〇六七人(一三%)、商業五七、二二一人(一三%)、交通業八、五二二人(二%)、公務自由業二一、三七四人(五%)、家事使用人二、六八四人(一%)、其の他の有業者一一、四〇四人(二%)、無業四、一七二人(一%)にして之を前年に比すれば、農業二七六人、水産業二一一人、鑛業一、〇一三人、商業一〇六人、工業三、三〇五人、交通業一二九人、公務自由業六人、無業三六五人は何れも減少を示せるも、工業各業態別の被扶養者の數は農業二三三、九四六人、水産業一五、二四一人、鑛業三、四四九人、工業五〇、五二〇人、商業五一、八六〇人、交通業一六、一七五人、公務自由業三一、四四二人、家事三五三人、其の他の有業者一五、〇四五人、無業七、四一三人、總數四二五、四八四人にして、前年に比し二、二八九人の増加である。

三　戸數及人口

本籍人口	現住戸數	現住人口 總數	現住人口 男	現住人口 女	百ニ付	現住人口 一方里平均	現住人口 増加歩合
昭和十四年	八九二、二九八	四三六、二四二	四三八、五九三	九九・四六	一〇〇・〇一	一、七四四	六・四四
昭和十三年	八八二、六九九	四三三、四四一	四三五、七六四	九九・四七	一〇〇・六八	一、七三二	
昭和十二年	八六二、七三一	四三一、六五五	四二八、九三七	一〇〇・六三		一、七一五	

郡市別　昭和十四年十月一日現在

	本籍人口	現住戸數	現住人口 總數	現住人口 男	現住人口 女	百ニ付	現住人口 一方里平均	現住人口 増加歩合
宮崎郡	八二、三七五	一五五、八八六	四三六、二四二	四三八、五九三	九九・四六	一〇〇・〇一	一、七四四	六・四四
南那珂郡	一〇八、五六八	一五五、二五一	四三三、四四一	四三五、七六四	九九・四七	一〇〇・六八	一、七三二	
北諸縣郡	一〇九、八〇〇	一五三、八八九	四三一、六五五	四二八、九三七	一〇〇・六三		一、七一五	
西諸縣郡	八六、二五三	一五二、一三一	四二、四四〇	四二、八九七	九八・一八	(一)	五・四二	
東諸縣郡	五〇、五四七	七一、八六六	二一、二八七	二〇、八〇五	九七・七四	一・八五	一、六九〇	
兒湯郡	一〇七、八四四	一八、九五三	五〇、七九四	五二、八七一	一〇四・〇九	三五・三三	一、三六六	
東臼杵郡	一一四、四七八	一七、六五六	五一、一一二	五二、九三七	一〇一・六一	一二・四二	九〇五	
西臼杵郡	六四、九五四	九一、九六〇	三〇、五四七	三一、一八八	一〇二・一〇	(一)五九・七四	六七四	
宮崎市	四七、八二一	一三、三九七	六六、九九八	三四、二四二	九五・六六	一一・七九	一六、七四九	
都城市	五九、九四八	一二、三三一	六六、七四一	三三、四二五	九九・六七	一二・〇八	一四、〇八〇	
延岡市	五九、七一二	一六、四七〇	九一、二九六	四四、三五九	九四・三二	三二・三三	八、〇八六	

（一）印ハ減ヲ示ス

（戸口）

一四　産業別現住戸數

昭和十四年十月一日現在

	總數	農業	水產業	鑛業	工業	商業	交通業	公務自由業	家事使用人	其他ノ有業者	無業
總數	八三、〇三二	四、二六三	一、二八四	一九、八五一	二一、五九〇	五、七二七	二一、六二四	一一〇	五、八一三	二、五九二	
宮崎市	八、〇八四	三七〇	五一	八七三	一、三五三	二、七五四	一、三四七	一九	七一五	一七四	
都城市	九、〇〇七	一、四九二	一二	五一一	一、〇五六	二、七五四	二、〇四三	二四	七九三	一八一	
延岡市	一一、四六五	一	一二	五一一	一、〇五六	二、七五四	一、六六一	三	一七七	二七八	
宮崎郡	一〇、三二〇	五	一九	一、〇五六	一、〇五六	二、七五四	一、五三二	一	四九三	二五八	
南那珂郡	八、〇八四	三七〇	一二	八七三	一、三五三	二、七五四	一、三四七	一九	七一五	一七四	
北諸縣郡	九、〇〇七	一、四九二	五一	一、〇五六	二、七五四	二、〇四三	一、〇六二	二四	七九三	一八一	
西諸縣郡	一一、四六五	一	一二	五一一	一、〇五六	二、七五四	一、六六一	三	一七七	二七八	
東臼杵郡	一〇、三二〇	五	一九	一、〇五六	一、〇五六	二、七五四	一、五三二	一	四九三	二五八	
兒湯郡	一、九三一	五三	七	二、三一二	二、九七三	九三六	二、九七三	一〇	二、一三五	七〇七	
東臼杵郡	四、二三五	二三	一	一、三五三	二、七五四	六六三	二、三六四	一〇	七九三	一九六	
西臼杵郡	二、〇八五	五五六	六〇	七〇四二	七〇四二	九四〇	二、九九二	三〇	一、二九〇	一七五	
延岡市	一一、四六五	一	一二	五一一	一、〇五六	二、七五四	一、六六一	三	一七七	二七八	
宮崎郡	一〇、三二〇	五	一九	一、〇五六	一、〇五六	二、七五四	一、五三二	一	四九三	二五八	
南那珂郡	八、〇八四	三七〇	一二	八七三	一、三五三	二、七五四	一、三四七	一九	七一五	一七四	
北諸縣郡	九、〇〇七	一、四九二	五一	一、〇五六	二、七五四	二、〇四三	一、〇六二	二四	七九三	一八一	
西諸縣郡	一一、四六五	一	一二	五一一	一、〇五六	二、七五四	一、六六一	三	一七七	二七八	
東臼杵郡	一〇、三二〇	五	一九	一、〇五六	一、〇五六	二、七五四	一、五三二	一	四九三	二五八	
兒湯郡	一、九三一	五三	七	二、三一二	二、九七三	九三六	二、九七三	一〇	二、一三五	七〇七	
東臼杵郡	四、二三五	二三	一	一、三五三	二、七五四	六六三	二、三六四	一〇	七九三	一九六	
西臼杵郡	二、〇八五	五五六	六〇	七〇四二	七〇四二	九四〇	二、九九二	三〇	一、二九〇	一七五	

一五　職業別現住人口

昭和十四年十月一日現在

（本表ハ本業從事者ノミニシテ被扶養者及副業從事者ヲ除ク）

（戸口）

	總數	農業	水產業	鑛業	工業	商業	交通業	公務自由業	家事使用人	其他ノ有業者	無業
總數	二五五、八三六	一〇、〇〇三	三、一四九	六一、〇六七	五七、一二一	八、五三三	二一、三七四	二、六八四	一一、四〇四	四、一七三	
宮崎市	二六、三九五	二八三	四、三五一	六二	一、二七一	一、三九一	二四三	一、三九一	一、四四九	二一一	
都城市	二八、三三三	三	三	一三〇	一五〇	一、八六八	一、三一六	一、四六七	一、三五三	四〇一	
延岡市	三六、五三四	六	五六	二五	二九	一、〇〇一	一、一七七	三四二	一、一五三	五三三	
宮崎郡	三一、四八九	五七四	一七	五一	一、一六九	五七四	一、九一六	六四二	一、一六九	五〇四	
南那珂郡	二、八六八	五五〇	一、二七一	二四三	一、三九一	一、四四九	二一一	二四三	一、三九一	二一一	
北諸縣郡	五、八〇四	七一四	一、八六八	一五〇	一、四六七	一、三五三	四〇一	一五〇	一、四六七	四〇一	
西諸縣郡	二、八四七	七〇六	一、〇〇一	二五	三四二	一、一七七	五一三	二九	三四二	一五三	
東臼杵郡	三、九六一	五七四	一、〇〇一	五一	一、一六九	一、一六九	五〇四	六四二	一、一六九	五〇四	
兒湯郡	二、三三一	四〇五	九七七	一五	二四三	二四三	二八七	五	二四三	二八七	
東臼杵郡	五、九七五	五七四	一、七五二	八	一、二五二	一、二五二	五七三	一八	一、二五二	五七三	
西臼杵郡	三、七八八	一、一四一	一、三八六	八〇〇	二四〇	四三三	二四〇	四〇二	四三三	二四〇	
宮崎市	二、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
都城市	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
延岡市	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
宮崎郡	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
南那珂郡	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
北諸縣郡	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
西諸縣郡	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
東臼杵郡	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
兒湯郡	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
東臼杵郡	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	
西臼杵郡	一、一三一	二九七	八六七	一七	一、八八二	一、一三一	三五五	一三	一、一三一	三五五	

郡市別	他へ出 男	他へ出 女	他ヨリ入 男	他ヨリ入 女	本籍人口百ニ付他へ出	現住人口百ニ付他ヨリ入	他へ出ノ人口百ニ付他ヨリ入
	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年十月一日現在		
宮崎郡	一二、一六六	九九、六二七	九八、六八二	九五、六四八	二三・七四	二三・二一	九一・七五
南那珂郡	一〇六、二四三	九六、八三三	九五、〇一九	九四、五六五	二三・〇〇	二一・八一	九三・三六
北諸縣郡	九七、五四四	九一、七三二	九四、八七七	九二、二六〇	二一・九四	二一・六九	一〇一・一四
西諸縣郡	一一、〇六五	一〇、七五二	一〇、八六九	九、八六二	二六・四七	一四・二一〇	四五・九六
東臼杵郡	一五、八五六	一二、八八二	一二、八二六	一〇、七四七	二六・四五	一五・七七	五二・〇五
兒湯郡	一四、一四六	一〇、九六一	一二、八二〇	九、六七九	二四・五六	一三・七三	二五・七二
西臼杵郡	一一、六六二	一〇、一五六	九、三〇二	八、九二六	二四・三〇	一二・三七	八九・七六
市部	二一、〇六五	一〇、七五二	一二、八二〇	一〇、七四七	二六・四七	一四・二一〇	四五・九六
宮崎市	一五、八五六	一二、八八二	一二、八二六	一〇、七四七	二六・四五	一五・七七	五二・〇五
延岡市	一四、一四六	一〇、九六一	一二、八二〇	九、六七九	二四・五六	一三・七三	二五・七二
都城市	一一、六六二	一〇、一五六	九、三〇二	八、九二六	二四・三〇	一二・三七	八九・七六
郡部	一一、〇六五	一〇、七五二	一〇、八六九	九、八六二	二六・四七	一四・二一〇	四五・九六
宮崎郡	一五、八五六	一二、八八二	一二、八二六	一〇、七四七	二六・四五	一五・七七	五二・〇五
南那珂郡	一四、一四六	一〇、九六一	一二、八二〇	九、六七九	二四・五六	一三・七三	二五・七二
北諸縣郡	一一、六六二	一〇、一五六	九、三〇二	八、九二六	二四・三〇	一二・三七	八九・七六
西諸縣郡	六、八四〇	五、八七四	六、八六三	五、九四八	二三・七四	一四・二一〇	四五・九六
東臼杵郡	一二、四二三	一〇、九六一	一二、八二〇	一〇、七四七	二六・四五	一五・七七	五二・〇五
兒湯郡	七、三八三	六、一二六	七、三三一	六、一四二	二四・五六	一三・七三	二五・七二
西臼杵郡	一一、二八七	九、三〇二	一一、六六二	九、三〇二	二四・三〇	一二・三七	八九・七六
市部	七、七六七	六、九八四	七、九〇五	六、八四七	二六・四七	一四・二一〇	四五・九六
宮崎市	八、〇五三	六、八五二	八、二五二	六、八四七	二六・四五	一五・七七	五二・〇五
延岡市	七、二五三	六、一四二	七、三三一	六、一四二	二四・五六	一三・七三	二五・七二
都城市	一一、二八七	九、三〇二	一一、六六二	九、三〇二	二四・三〇	一二・三七	八九・七六

郡市別	婚姻 組數	婚姻 人口千ニ付	離婚 組數	離婚 人口千ニ付	婚姻百ニ付離婚
	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年
宮崎郡	六、八四〇	七・六七	五五二	〇・六二	八・〇七
南那珂郡	七、三八三	八・三六	五一七	〇・五九	七・〇〇
北諸縣郡	八、三三一	九・六六	五六〇	〇・六五	六・七三
西諸縣郡	六、五五八	七・九六	五〇	〇・六一	七・六二
東臼杵郡	八、一二	七・四八	八三	〇・七六	一〇・二二
兒湯郡	七、四四	七・二三	四五五	〇・四一	五・六七
西臼杵郡	七、一六	八・三〇	五五	〇・六四	七・六八
市部	三、六五五	七・二二	三三	〇・六五	九・〇四
宮崎市	八〇三	七・四五	七五	〇・七〇	九・三四
延岡市	七、一三	七・二七	六九	〇・六〇	八・二一
都城市	四、七一二	八・一一	三二	〇・四九	六・七八
郡部	四〇〇	八・三六	三六	〇・八四	一〇・〇〇
宮崎郡	五一八	八・六四	三四	〇・六〇	六・九五
南那珂郡	四六四	七・七七	三四	〇・五七	七・三三

（戸口）

（出生及死亡）

| | | |

生産額

總額二億八千三百萬(圓)

戸當り一千八百圓

概說

一、總額

本年の本縣總生產額は二億八千二百九十六萬餘圓にして實に置縣以來の最高額である。之を種類別に觀るときは

農產	七七、四九〇、七一六圓	（二七％）
畜產業	二九、五七一、七五三圓	（一〇％）
畜產	七、五六三、八五六圓	（三％）
林產	四七、七一八、五八〇圓	（一八％）
水產	一一、五七三、一六六圓	（四％）
工產	一〇一、六三四、六〇〇圓	（三六％）
鑛產	七、四〇八、三九六圓	（二％）

となり之に依つて本縣產業界分野の梗概を窺ふことが出來る。

二、前年との比較

之を前年と比較するときは

（生產額）

總額	八六、〇〇二、八九〇圓	(四割三分七厘) 增
農産	一九、六四四、九二七圓	(三割四分　) 増
蠶業	一四、五五五、九九七圓	(九割六分九厘) 増
畜産	一、七六三、九二三圓	(三割〇分四厘) 増
林産	一七、五九六、〇二六圓	(五割八分四厘) 増
水産	一、三四二、〇八六圓	(一割三分一厘) 増
工産	三〇、七二八、八二三圓	(四割三分三厘) 増
鑛産	三七一、一〇八圓	(　五分三厘) 増

右の如く何れの産業も増加したるは主として各種生産物の價額騰貴に基くものなりと想はるるも一面又各種工業の活況と増産奨勵の結果も蓋し亦その一因なるべし。

今其の種類別に増減の著しきものを拾つてみると増加したるものとしては【農産】に於ては米の六、四五五、四三八圓(一割九分)、麥の二、七二二、五五九圓(六割五分七厘)、甘藷の四、三一九、八一三圓(一一割九分六厘)、葉煙草の七二一、四三五圓(八割二分四厘)、甘藷切干の九一九、二三九圓(一四割八分一厘)、大根切干の五八六、〇二一圓(四割五分八厘)、柑橘の二八二、一四三圓(五割六分八厘)、南瓜の二三三、三七二圓(三割四厘)、大根の四四〇、九六六圓(二割九分六厘)、里芋の三九二、三六五圓(四割六分八厘)、漬物の三二七、六〇八、九九九圓(八割一分三厘)、繭の七、七〇九、七七四圓(一四割四厘)【畜産】に於ては産牛の三七八、六一九圓(三割五分八厘)、産馬の三三一、二三八圓(二割八分五厘)、鶏卵の四八四、一一八圓(三割二分七厘)【林産】に於ては丸及角材の九、一二八、一七二圓(八割四分八厘)、挽材の五、〇八一、四五五圓(六割九分九厘)、木炭の一、六九〇、六〇七圓(三割三分六厘)、椎茸の八六二、八一七圓(八割九分三厘)【水産】に於て魚類の五〇七、八二九圓(六分三厘)、素乾の一五九、四九六圓(一八割八分二厘)、塩藏の二二二、六一九圓(八割二分五厘)【工産】に於て旭味の五二一、七七九圓(六割三分二厘)、チツソロイドの?圓(一七割)、レザーの六〇四、三五二圓(三八割五分七厘)、澱粉の一、二八六、七一〇圓(八割七分二厘)、火薬及同製品の?圓(二九割五分三厘)、木製品の一、〇三六、〇六六圓(六割六分五厘)、製茶の三六一、七一五圓(三割三分二厘)、電力の?圓(五分九厘)、醬油の二一七、四六三圓(二割四分)【鑛産】に於ては銅鑛の?圓(一割五分二厘)、硫黄の一三四、五三一圓(四割九分三厘)、錫の?圓(一割三分五厘)等を擧げ得べく、又減少せるものとしては農産に於て菜種の五〇、八五五圓(四分一厘)桑苗の二四、六九五圓(二割八分一厘)、工産に於て菓子の一一六、八三〇圓(九分七厘)、人造絹絲の一、九二〇、〇五九圓(六分六厘)、酒類の一八六、四二〇圓(五分)等なり。

三、既往十ヶ年間の趨勢

昭和五年を百として指數を以て既往十ヶ年間に於ける趨勢を種類別に觀れば

【農産】に於ては翌六年は物價下落に加へて米作不況の爲七六に下りたるも七年には九三に昇り八年には一〇六となりて基準線を突破し九年には幾分下りて一〇一以降好調にして十年には一一八、十一年には一四

三となり十二年には一六一に昇り十三年の一七七より本年は一躍二三七と好調を辿り最近十ヶ年間に於ける最高の指數を示すに至つた。

【畳表】は他の產業に比し常に經濟界の影響を蒙ること頗る微妙且つ甚大なるものある爲翌六年には七四に轉落續いて七年も大體同樣な現象を保ちその前途を憂慮されしが八年には稍好轉して九八となり幾分愁眉を開きしも九年には再び七六に逆轉したり、然るに十年には糸價の上騰を見るに至り斯業の蘇生は勢ひ九六に盛返し以降漸次上昇本年は一八七となり基準線を遥に突破したり。

【蚕糸】又經濟界の不況により翌六年には八三に下り尙も不振の一途を辿り七年には七六となり九年に至り漸く前途に光明現れ九五に昇り以降他の產業と並行して上昇十年には一〇四、十一年には一一二、十二年には一三四となり、十三年には一七二を示し、本年更に昇りて二二四となり、最近に於ては最高の指數である。

【林產】は翌六年には九〇に低落し一時前途を憂へられたるも七年よりは稍上昇の氣配をみせて九四を示し翌八年には一一八と好轉し以後漸次高騰の一途を辿り、本年は實に四五三に達し林業王國の面影を如實に示してゐる。蓋し本業は近年交通機關の整備と相俟て愈々向上の氣運に惠まれ本縣斯業の前途は實に嘱望大なるものがある。

【水產】は翌六年九一に下りたるも八年の一〇四の基準線突破以後は逐增して本年は約二倍に當る二一一に昇つてゐる。

【工產】躍進日向のシンボルたる本業は翌六年の一〇五、七年の一二〇以降は昇騰の一途を辿り、本年は前年の四八〇を遥かに突破して六八八に達した。

右は特殊化學工業の躍進に因るものにして例年同樣依然として總生產額中の王座を保持してゐる。

【鑛產】は翌六年には九四に低下したが七年には一躍一三八となり其の後に於ても逐年漸騰して本年は五一六と云ふ指數を示してゐる。

四、郡市別生產額の概況

生產額を郡市別に觀ると工業地として誇る延岡市の七五、七〇六、四四六圓が筆頭にして總生產額の二割七分を占め之に亞ぐは豐富なる飫肥杉の產額と遠洋漁業の根據地油津港の水產額とを包藏する南那珂郡の三四、五八六、〇〇四圓にして兒湯那の二六、七九二、六三一圓、東臼杵郡の二五、〇六〇、六九二圓、西諸縣郡の二一、〇一〇、二一五圓、北諸縣郡の一九、六八九、一六四圓、宮崎郡の一八、〇六三、七〇一圓、宮崎市の一七、六〇五、〇四五圓、都城市の一七、五八五、七二五圓、西臼杵郡の一六、〇〇六、三四三圓の順位にして東諸縣郡の一〇、八五五、一〇一圓が最下位となつてゐる。而して各郡市とも之を前年の生產額と對比するときは著しき增加を示してゐる。

更に現住戶數一戶當の生產額を觀ると延岡市の四、五九七圓が最高にして南那珂郡の二、〇八八圓が之に亞ぎ、西臼杵郡の一、六〇七圓、都城市の一、四二六圓、東臼杵郡の一、四一九圓、兒湯郡の一、四一四圓、宮崎郡の一、四〇九圓、東諸縣郡の一、三八〇圓、西諸縣郡の一、三七九圓、北諸縣郡の一、三四一圓が最下位にして宮崎市の一、三一四圓が最下である。

（生產額）

而して縣平均の一戸當生産額は一、八一五圓にして前年の其れに比し五四六圓の增加となつてゐる。

五、町村別生産額

八十六ヶ町村中首位を占むるは本邦第一に位する鮪の水揚地油津町の九、五九二、七三一圓にして日向米の主産地小林町の六、七九二、一八五圓之に亞ぎ、特殊工場の生産額を有する吾田村の五、八七三、九六八圓縣下鑛業生産額の約四割を占むる産額を有する東臼杵郡北方村の五、〇七一、〇六四圓又何れも五百萬圓以上の部類に屬してゐる。

更に高崎町の四、二三六、二六四圓、高鍋町の四、〇二一、六一〇圓、飯野町の三、九六三、七六一圓、門川町の三、七二三、九二八圓、川南村の三、六六九、七三九圓、岩戸村の三、六一七、五六五圓、南鄉村(南)の三、四一六、九三四圓、高岡町の三、四一二、八四五圓、高原町の三、三八五、六七四圓、都農町の三、二五六、八九一圓、赤江町の三、〇四七、五九三圓之に相亞ぎ、何れも三百萬圓以上の産額を有してゐる。

而して以上掲記の町村の多くは何れも特殊の生産額を有する結果にして先づ油津町は近接町村より搬出する飫肥杉の集散地として、之による用材の産額と他面遠洋漁業による漁獲物の産額とが同町生産額の大部分を占め更に吾田村はパルプ工場による生産があり、岩戸村は鑛業に依る生産、南鄉村は遠洋漁業の根據地として漁港榮松港の水産額があり、高崎町、高岡町又何れも發電力による生産がある爲めである。

尙此の外百萬圓以上の産額を有する町村數は五六、百萬圓未滿の町村數は一五にして前年の五六に比するときは實に四一を減少して町村生産狀況の躍進を窺ふことが出來るが町村の平均總生産額は二、〇〇〇、七四二圓なるを以て第二五位の中鄉村が之に當る依つて殘りの六一ヶ町村は未だ平均生産額に達せざることになり鞍岡村の四四七、九四二圓が最下位となつてゐる。

尙現住戸數一戸當生産額は油津町の四、四四七圓を筆頭として吾田村の四、〇五一圓之に亞ぎ北方村(東)の二、八九三圓、諸塚村の二、八二三圓、南浦村の二、八一三圓、南鄉村(南)の二、三九二圓、岩戸村の二、一三三圓、南鄉村(南)の二、一二二圓、鵜戸村の二、〇五二圓、高崎町の二、〇一七圓の順位にして以上の外千圓を突破するものは穆佐村、川南村、須木村、生目村、北鄉村(東)、西鄉村、赤江町、高千穗町、岩井川村、西嶽村、三納村、門川町、高岡町、志和池村、大東村、本城村、那珂村、上穗北村、都農町、高原町、三財村、上野村、富田村、都於郡村、住吉村、飯野町、新田村、青島村、北浦村、高鍋町、清武村、綾町、瓜生野村、田野村、加久藤村、野尻村、八代村、細田村、木脇村、中鄉村、都井村、小林町、山田村、庄內町、妻町、廣瀨村、三ヶ所村、福島町、北鄉村(南)、南方村、西米良村、倉岡村、田原村、三股村、木花村、市木村、椎葉村、眞幸村、東鄉村(東)、高城町、東鄉村(南)、七折村、榎原村、岩脇村、本庄町、北川村の六六となつてゐる。

九百圓臺にあるものは東米良、鞍岡、南鄉(東)の三ヶ村、八百圓臺にあるものは山之口、木城の二ヶ村七百圓臺に屬するものは美々津、富島の二町、六百圓臺は飫肥町にして最下位は佐土原町の六二〇圓となつてゐる。

六、重要物産

生産額品目中百萬圓以上の産額を有する品目を拾つて見ると第一位は米の四〇、四二三、〇一七圓にして依然として日向米の名聲を博し次は林業王國を誇る木材の三二、二三八、九一三圓、人造絹絲の?圓、工業藥品の?圓、蠶糸類の一四、七四一、七一七圓之に相亞いで何れも千萬圓以上の産額を擧げ魚類の八、五七八、五〇四圓、火藥及同製品の?圓、甘藷の七、九三二、六、七二六、二三八圓、電力の?圓は何れも五百萬圓以上の産額を有し其の他パルプは四百萬圓臺に酒類、薪は三百萬圓臺にチツソロイド、澱粉、木製品が二百萬圓臺に鷄卵、生大根、切干大根、椎茸、葉煙草、蠶種、甘藷切干、大豆、製茶、産牛、機械器具類、裁縫仕立品、漬物、肥料、旭味、里芋、菜種、醬油、菓子類、南瓜は何れも百萬圓以上の産額を有てゐる。而して千萬圓以上の産額を有する品目につき其の主産地を觀ると米に於ては都城市(二、一八一、五〇三圓)、小林町(二、〇一四、九〇九圓)、宮崎市(一、八二五、三一五圓)となつてゐるが六五〇圓)、木材に於ては油津町(六、一二五、九〇三圓)、延岡市(一、五八七、木材は其の調査方法が製材地を以て之が産額を調査することになつてゐる關係である。人造絹糸及工業藥品は共に延岡市のみの産額であり蠶絲類は都城市(六、八〇四、九四五圓)、宮崎市(六、〇五〇、〇〇九圓)に於て總産額の大部分を占め繭は都城市(一、〇五一、五七八圓)、志和池村(七三六、二二九圓)が主産地である。

尙從來より本縣重要物産として數へらるる米、木材、蠶糸類、魚類、繭、木炭の六種に就き昭和五年を百

としたる指數を以て其の消長を示せば何れも其の所屬する種類別産業の消長と同一線を描き夫々農産、林産蠶業、水産各業の樞軸をなし延いては之等が本縣産業の生命線と觀得る事が出來何れも年々著しき上昇の氣運にあることは喜ばしき現象である。

七、特産物

日向特産物として著名なるものにつき觀ると日向蜜柑(五六、二二四圓)の約二割に當る一二、六五〇圓は清武村の生産に屬し椎茸(一、八二九、三五〇圓)は東、西臼杵郡地方に多く産し就中諸塚村(二一三、七二〇圓)、高千穗町(一二五、七七三圓)が主産地であり又夙に日向白として名聲ある碁石は富島町(一〇、七九二圓)、岩脇村(四、六二〇圓)、延岡市(一、八五〇圓)の生産である。

尙竹製品(四〇八、七九五圓)は宮崎市(一五三、七二七圓)、都城市(一五三、七五六圓)が其の主産地にして豐富なる材料を有する本業は之が指導と相俟て將來有望の産業である。

之を要するに生産額より觀たる本縣産業界は逐年旺盛に赴きつつあるを以てそれだけ縣民の經濟を潤しつつあることは喜ばしき現象なりと雖も一歩退きて其の生産價額と同一歩調を辿らず大部分は減少の傾向を示しつつある現象を觀れば事變下物資の增産を强調せらるる折柄上述の如く生産數量に眼を轉すれば必ずしも生産價額と同一段の拍車をかくべきものあるを想はしむ。

(生産額)

生産價額

(累年比較)

	總價額	農産	蠶絲	畜産
昭和十四年	二九九、一〇七、〇〇〇円	七四、四九〇、〇〇〇円	二九、一七一、〇〇〇円	七五、八三六、〇〇〇円
昭和十三年	二九九、八七九、〇〇〇	七六、九四五、〇〇〇	三〇、一〇七、〇〇〇	七五、〇一〇、〇〇〇
昭和十二年	二八四、七三、〇〇〇	七三、〇〇八、〇〇〇	二九、五四九、〇〇〇	七四、一〇七、〇〇〇
昭和十一年	二六〇、四九八、〇〇〇	六五、〇〇八、〇〇〇	二六、〇〇〇、〇〇〇	六九、〇〇〇、〇〇〇
昭和十年	二三、三三、〇〇〇	五八、〇〇〇、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇	六一、〇〇〇、〇〇〇
昭和九年	二〇一、七四二、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	五三、〇〇〇、〇〇〇
昭和八年	一八四、〇〇〇、〇〇〇	四六、〇〇〇、〇〇〇	一八、四〇〇、〇〇〇	四八、〇〇〇、〇〇〇
昭和七年	一六五、〇〇〇、〇〇〇	四一、〇〇〇、〇〇〇	一六、五〇〇、〇〇〇	四三、〇〇〇、〇〇〇
昭和六年	一四五、〇〇〇、〇〇〇	三六、〇〇〇、〇〇〇	一四、五〇〇、〇〇〇	三八、〇〇〇、〇〇〇
昭和五年	一三五、〇〇〇、〇〇〇	三三、〇〇〇、〇〇〇	一三、五〇〇、〇〇〇	三五、〇〇〇、〇〇〇

(生産額)

百分比例（生産額）

市町村別	昭和十四年								
	総額	農産	畜産	蚕糸業	林産	水産	工産	鉱産	雑産
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
宮崎市	一〇、七〇一、三四〇	九、六八二、〇〇〇	七七〇、〇〇〇	一、一四二、三四〇	四七、〇〇〇	一一、五六〇	一〇一、六〇〇	四〇、一〇〇	九、〇〇〇
東諸県郡	三、四〇〇、〇〇〇	二、九〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
西諸県郡	一、四〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
北諸県郡	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
南那珂郡	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
北那珂郡	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
児湯郡	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
東臼杵郡	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
西臼杵郡	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
延岡市	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
都城市	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
日南市	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
小林市	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
日向市	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
高鍋町	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
新富町	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
佐土原町	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
国富村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
穆佐村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
高岡町	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
清武村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
木花村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
大淀村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
大宮村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
田野村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
山之口村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
高城町	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
勝岡村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
都城町	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
山田村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三股村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
北郷村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
西都原村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
妻村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
都農町	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
川南村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
東郷村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
北方村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
美郷村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
北郷村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
椎葉村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
諸塚村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
五ヶ瀬村	一、一〇〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

	延岡市	都城市	宮崎市	西都市	東臼杵郡	西臼杵郡	北諸県郡	南那珂郡	宮崎郡
百分比	岡城		臼杵		臼杵	湯	諸縣	諸縣	那珂
例									到
林産	三九五、六四八円	三九五、九〇八円	三八五、九三六	三九九、三一二	五七、七三九	四四三、〇九二	五七、七三九	三九九、三一二	三九五、六四八
水産	五六、九三五円	三五、八四四	三四、七〇二	三五、一九二	三五、六四〇	三五、六四〇	三五、六四〇	三五、六四〇	三五、六四〇
工産	四五	一、七四九、〇七四円	六、八二三、四三二	一、七四九、〇七四円	一、七四九、〇七四円	一、七四九、〇七四円	一、七四九、〇七四円	一、七四九、〇七四円	一、七四九、〇七四円
鑛産		四五、一八四円	一五〇、六一四	三七、六五三円	四、〇一五、〇六〇	三七、六五三円	三七、六五三円	三七、六五三円	三七、六五三円

農業

耕地九萬五千町

耕作農家八萬二千(戸)

概說

本縣は氣候温暖地味肥沃にして最も農作物の生育に適し農を以て主業と爲すもの現在戸數の五割六分本業有業者の六割五分を占む、從て農業は本縣主要の産業にして之れが盛衰は直に本縣の經濟界に影響を及ぼすこと甚大である。

耕地面積　本縣耕地の總面積は九三、九五五町九反歩にして内田反別四六、〇三四町四反歩(四割七分)である、而して郡市中最も廣いのは兒湯郡の一五、八四七町七反歩にして北諸縣郡の一四、九八六町九反歩之に亞ぎ、西諸縣郡の一三、六〇三町七反歩、宮崎郡の九、九一四町一反歩、南那珂郡の九、五〇四町五反歩、東臼杵郡の八、五六一町二反歩、東諸縣郡の六、四七六町八反歩、西臼杵郡の五、七四二町七反歩にして何れも五千町歩以上に屬しそれ以下は三市卽ち都城市の四、四九二町八反歩、宮崎市の二、五三一町五反歩、延岡市の二、二九四町歩となつてゐる。

尙各郡市に於ける耕地の田畑の割合を示すと宮崎、南那珂、東諸縣、東臼杵の各郡及宮崎、都城、延岡の各市は共に田の反別若干多く卽ち五割以上を占むるが其の他の郡は夫れと反對の現象を示し就中西臼杵郡の如きは畑六割田四割の比例を示して居る。

更に一方里當の耕地面積を見ると市郡に於ては都城市の九四七町八反歩を首とし、宮崎市の六三二

町九反歩之に亞ぎ、延岡市は二〇三町二反歩で郡部に於ては宮崎郡の三六三町七反歩、北諸縣郡の三三五町四反歩が多く、東諸縣郡の二六〇町一反歩、西諸縣郡の二二三町九反歩、兒湯郡の二〇八町九反歩之に相亞ぎ、南那珂郡は一七五町七反歩、東臼杵郡は八三町五反歩にして、西臼杵郡は僅に六二町七反歩に過ぎない。

米は本縣農產物中首位を占むる重要物產にして本年に於ける收穫高は九六二、七二九石、價額四〇、四二三、〇一七圓に達し農產物生產總額の五割二分に當り、而も其の品質に於ても夙に全國に日向米の聲價を博するに至つた。而して本年稻作は插秧以來天候究めて順調にして病蟲の被害も尠かりしを以て九月二十日現在に於ける第一回豫想調査に於ては一、〇七八、八〇〇石の收穫を豫想せられたるも偶々十月中旬に及び暴風雨の襲來を見、一朝にして其の豫想も覆へされ十月末日現在に於ける第二回豫想調査に於ては九三六、六六〇石の收穫を豫想せらるゝに至つた。然るに被害見積過大なりし地方ありしため實收に於ては其の第二回豫想より水稻二五、五三八石、陸稻五二六石、計二六、〇六四石（二分八厘）、平年作に比し水稻三六、六〇七石（四分三厘）、陸稻九、六一六石（一割六分二厘）、計四六、二二三石（五分）の增收を示し實收の結果は九六二、七二九石となりて前年收穫高に比し八一、四三二石の減少となつた。

尙之を平年作に比較するときは四六、二二三石の增收を示し、價額は米價の高騰により前年に比し六、四五五、四三八圓（一割九分）の增加を示した。而して本年米作農家戶數は七七、〇三二戶であるからその一戶平均の米作狀況は作付反別六反九畝、收穫高一二石四斗九升、價額五二五圓に相當する。

麥

麥は本縣農產物中米に亞ぐ第二位を占むる重要農產物にして昭和十四年に於ける作付反別竝收穫高は次の如くである。

作付段別		數			前年に比し		
總	麥	二九、〇四九町五反	同	四五町六反（四分）增	九四四町三反（三分）增
大麥	麥	一、一九三町四反	同	五三〇町八反（四分）增	四五町六反（四分）增
小麥	麥	一五、二七五町〇反	同	三七七町九反（三分）增	五三〇町八反（四分）增
		一二、五八一町一反	同		三七七町九反（三分）增

收穫高		數			前年に比し		
總	麥	三一五、二七六石	前年		八五、八〇五石（四分）增		
大麥	麥	二一、五二九石	同	六、四三七石（四分）增			
小麥	麥	一六六、七九三石	同	四〇、六四一石（三分）增			
		一二六、九六四石	同	三八、七二七石（四分）增			

價額		額			前年に比し		
總	麥	六、八六八、三七四圓	前年		二、七三三、五五九圓（七分）增		
大麥	麥	二九一、一七九圓	同	一一〇、七五四圓（六分）增			
小麥	麥	三、三二九、四五五圓	同	一、二五二、九〇八圓（六分）增			
		三、二四七、七四〇圓	同	一、三五八、八七四圓（七分）增			

而して前年に比し作付反別は九四四町三反歩、收穫高は八五、八〇五石の增收を示した。尙之を平年作と比較するときは作付反別に於て二、〇三一町三反歩（七分）、收穫高三二、三五〇石（一割一分）、價額二、九〇二、五七四圓（四割三分）の何れも增加を示してゐる。

次に最近十箇年間に於ける趨勢を觀ると作付段別は昭和十一年に亞ぎ第四位、收穫高は昭和九年に亞ぎ第三位、價額は第一位にある。尙之を種類別に觀るときは何れも漸增の傾向を辿りつゝあり。

食用農産物　昭和十四年に於ける食用農産物は

總作付段別　二八、五五五町九反　前年に比し　二、六五六町九反（九　分）増

同　五、二〇五、三四三圓（八割八分）増

總價額　二一、二一〇、九三三圓

にしてその主要なるものに就き前年との比較を觀ると

甘藷　作付段別　一二、三九四町〇反　前年に比し　一、一〇〇町〇反（一　割）増
收穫高　五二、五〇九、九五九貫　同　七、六二〇、三七〇貫（一割七分）増
價額　七、九三二、二六九圓　同　四、三一九、八一三圓（一割二分）増

大豆　作付段別　四、七五二町六反　前年に比し　一、〇三三石（三　分）減
收穫高　四三、六六〇石　同　五一〇、六六一圓（五割一分）増
價額　一、五一二、四八八圓

蕎麥　作付段別　三、二六七町六反　前年に比し　四八六町三反（一割三分）減
收穫高　二三、三六一石　同　六、六七三石（二割二分）減
價額　四三六、〇六六圓　同　九三、六三三圓（二割七分）増

粟　作付段別　一、八〇六町三反　前年に比し　五八一町〇反（二割四分）減
收穫高　一九、八七石　同　六、一〇六石（二割三分）減
價額　三五二、六〇三圓　同　八、九六九圓（二三　分）増

園藝農産物　本縣は耕地廣く氣候温暖にして園藝經營上有利なる天惠を有し一面又海陸運輸の便開かるゝと共に販路も著しく擴張せられ今や面目を一新し躍進的發達を見るに至つた。就中早熟蔬菜の栽培は温暖なる天惠を利用し、品種の統一、栽培並荷造法の改善に全力を注ぎ販賣斡旋に努めたる結果愈愈長足の進歩を見るに至り、而して之が販路は京濱、北陸、京阪神及中國を始めとし北九州遠くは滿鮮方面にも及び六、七月の收穫盛期には臨時列車に依り或は汽船の船腹を滿して輸送するの盛況を呈し今や將に全國に其の覇を稱ふるに至つた。

今本年の概況を觀るとは

總價額　六、九四一、〇六六圓　前年に比し　一、六一八、一七圓（三　割）増

にして今の主要なるものに就き前年との比較を觀るに

南瓜　作付反別　九四八町五反　前年に比し　四町四反（一　分）減
收穫高　三、三九五、八七九貫　同　三四、一三八貫（一　分）増
價額　一、〇〇二、八八一圓　同　三五、三七三圓（三割一分）増

南瓜は他の府縣に魁け四月には　出荷するを以て本縣早熟蔬菜中の覇を握り需用地に於て最も歡迎せられ前途益々多望である。而して之が出荷に就ては縣は縣農會及郡市農會と共に出荷團體の指導に努め容器並品質の檢査及出荷の統制等に徹底的改善を促し又一面鐵道省、商船會社等と協議の上輸送の圓滑を期しつゝある。

西瓜　作付段別　五四五町一反　前年に比し　三四町四反（六　分）減
收穫高　一、九五五、四六〇貫　同　四二、五三三貫（二　分）減
價額　五二一、七六八圓　同　七三、五〇圓（一割四分）増

西瓜は生産の增加と共に品質も改良統一せられ關西市場は勿論近時東京地方へも移出せらるゝに至り六月上旬には既に市場に現はれ臺灣、沖繩の産に次ぎ初夏の嗜好品として各都市に歡迎せられ將

來益々有望の産業である。

里芋　作付反別　一、四七四町七反（一分減）
　　収穫高　五、二六三、七四六貫（五分増）
　　価額　一、二三一、三三二圓（四割七分）増

里芋は最も栽培容易にして且つ本縣はその早熟栽培に適するを以て縣の奨勵と相俟つて近來著しく増殖の傾向を辿り京阪神及北九州地方の市場に於て歡迎せられ品種は石川早生、愛媛早生、赤芽を主とし西臼杵郡、宮崎市、北諸縣郡、東臼杵郡の諸地方が主産地である。

藷藺　作付段別　二、九九九町九反（六分減）
　　収穫高　三四、一五〇、三二一貫（六分減）
　　価額　一、九二五、九〇二圓（三割）増

果實　昭和十四年中に於ける果實は

総価額　七七八、七五六圓　前年に比し　一五九、四六九圓（二分）増

今その主なるものにつき前年との比較を觀るさ

柑橘類　収穫高　一、七七六、九六七貫　前年に比し　五三七、六二四貫（三割六分）増
　　価額　七三二、五五八圓　同　三〇一、二七四圓（二割四分）増

梨　収穫高　三五七、六二七貫　同　一一五、六二六貫（二割四分）減
　　価額　一七七、六九〇圓　同　二六、二三八圓（一割三分）減

生柿　収穫高　一、二三三、一七二貫　同　二四四、四七八貫（一割七分）減
　　価額　二四六、五五五圓　同　一五、九八七圓（七分）増

葡萄　収穫高　二一、六五六貫　前年に比し　二、五九六貫（一割四分）増
　　価額　一四、六七二圓　同　三、六八一圓（四割四分）増

工藝農産物　昭和十四年に於ける工藝農産物は

総価額　四、〇〇五、〇八六圓　前年に比し　一、一〇五、〇四〇圓（三割八分）増

にして其の主要なるものに就き前年との比較を觀るさ

菜種　作付反別　三、七五〇町九反　前年に比し　一、一六六町八反（一割六分）増
　　収穫高　五〇、七六六石　同　八、九〇〇石（一割八分）減
　　価額　一、二〇四、三六八圓　同　五〇、八五五圓（四分）減

蒟蒻芋　作付反別　一三二町五反　前年に比し　六町九反（五分）増
　　収穫高　二一五、一五九貫　同　三〇、六三三貫（一割七分）増
　　価額　一五五、八九七圓　同　六三、〇九七圓（七分）増

葉煙草　作付反別　六七六町　前年に比し　八〇町（一割三分）増
　　収穫高　一、三七三、四一七瓩　同　二〇四、八六六瓩（一割九分）増
　　価額　一、五九六、六四九圓　同　七二一、四三五圓（八割二分）増

昭和十四年十二月末日現在

郡市別	昭和十年	昭和十三年	昭和十四年	田	畑	總耕地面積ノ二割對スル%
延都宮市	二四、九九三町	二四、九九三町	二四、九九三町	四四七、九二三町	四四、〇四三町	〇、二三
西東兒郡	二、四三五、二一一	二、四三五、二一一	二、四三五、二一一	四三三、四二一	二、〇〇二、七九〇	〇、二三
東兒郡	一、九二五、〇一一	一、九二五、〇一一	一、九二五、〇一一	四二一、一一一	一、五〇三、九〇〇	〇、二三
北南宮郡	二、四三五、二一一	二、四三五、二一一	二、四三五、二一一	四三三、四二一	二、〇〇二、七九〇	〇、二三
白河郡	三、二四九、九一一	三、二四九、九一一	三、二四九、九一一	四四七、九二三	二、八〇一、九八八	〇、二三
岡崎町	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
白河町	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
湯本村	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
諸岡村	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
諸沢村	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
那須村	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
崎村	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
藤田村	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
藤縣村	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
那珂郡	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
那珂郡	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三
那珂郡	二四、九九三	二四、九九三	二四、九九三	四四七、九二三	四四、〇四三	〇、二三

（農業）

二　農産物價額（累年比較）

		昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
總價額		七七、四九〇、七一六円	七七、四二七、六一四円	五七、八四六、三一三
		五七、八四六、三一三	五七、七五八、五一六	五三、五一〇、八一四
農產	米	四〇、四二三、〇一七円	三三、九九七、五七九	三〇、九六六、一〇九
	大麥	二九一、一七九円	一八〇、四一五	一六八、六九七
	稗	三、三二九、四五五円	二、〇七六、五四七	二、二八五、八七三
	麥	三、二四七、七四〇円	一、八八八、八四三	二、一三四、一七八
	小麥	七七、四二七、六一四円	五七、七五八、五一六	五三、五一〇、八一四
	燕麥	四四、八九一円	二四九、八一二	二四〇、五八三
	食用農產物	一一、一一〇、九三三円	五、九〇五、五八九	五、六〇五、〇一五
	園藝農產物（果實）	一、四四二、五五九円	一、一五、九一五	一、〇一一、五九二
	園藝農產物（蔬菜及花卉）	六、九四一、〇六六円	五、三二、九四九	四、五七八、七二四
	工藝農產物	四、〇〇五、〇八六円	二、九〇〇、五五五	二、五五五、〇二五
	農產製造物	四、八六九、四二四円	三、〇二五、九三四	一、九一七、二九九
	飼料用作物	一五八、五〇六円	一五二、四八七	？
	桑苗	六三、一〇三円	八七、七九七	九二、〇三一
	果樹苗	七、五三一円	一〇、四八二	九、五〇七
	綠肥用作物	一、一二六、二二八円	九六二、三九九	一、〇一八、二一二

三　經營耕地廣狹別農家戶數（昭和十五年五月末日現在）

		昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
郡市別	總數	八二、六四九	八二、四九三	八二、六一四
	五段未滿	二七、二一三	二六、四七九	二七、一六七
	五段以上	二五、四九四	二五、二四〇	二五、九六二
	一町以上	二三、四八五	二三、一三三	二二、一七五
	二町以上	六、〇二六	六、一一一	五、六二七
	三町以上	一、三四四	一、四四四	一、五七三
	五町以上	八七	九五	一一〇
宮崎郡		八、五一二	八、四九九	八、五一〇
南那珂郡		九、一八八	九、一八八	九、一八八
北諸縣郡		一一、二二八	一一、二二八	一一、二二八
西諸縣郡		一〇、一五七	一〇、一五七	一〇、一五七
東諸縣郡		五、〇四〇	五、〇四〇	五、〇四〇
兒湯郡		一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
東臼杵郡		六、四八四	六、四八四	六、四八四
西臼杵郡		一、六八七	一、六八七	一、六八七
宮崎市		四〇、〇〇七	四〇、〇〇七	四〇、〇〇七
都城市		一、五六八	一、五六八	一、五六八
延岡市		三、三四六	三、三四六	三、三四六
宮崎郡	五段以上	二、七三八	二、七三八	二、七三八
南那珂郡	五段以上	二、〇九四	二、〇九四	二、〇九四
北諸縣郡	五段以上	三、七三九	三、七三九	三、七三九
西諸縣郡	五段以上	二、六二九	二、六二九	二、六二九
東諸縣郡	五段以上	一、五九九	一、五九九	一、五九九
兒湯郡	五段以上	三、〇二二	三、〇二二	三、〇二二
東臼杵郡	五段以上	二、九五四	三、九五四	三、九五四
西臼杵郡	五段以上	二、三九五	二、三九五	二、三九五
宮崎市	五段以上	四五三	四五三	四五三
都城市	五段以上	九三二	九三二	九三二
延岡市	五段以上	一、一二六	一、一二六	一、一二六
宮崎郡	一町以上	二、七三八	二、七三八	六八七
南那珂郡	一町以上	二、〇九四	二、〇九四	三四九
北諸縣郡	一町以上	三、一五六	三、一五五	四三
西諸縣郡	一町以上	二、六二九	二、六二九	二三三
東諸縣郡	一町以上	一、五九九	一、五九九	三四九
兒湯郡	一町以上	一、七四〇	一、七四〇	一三
東臼杵郡	一町以上	三、三〇四	三、三〇四	三五八
西臼杵郡	一町以上	一、八八一	一、八八一	一九
宮崎市	一町以上	一、四七六	一、四七六	三九
都城市	一町以上	四四八	四四八	四
延岡市	一町以上	一、一四五	一、一四五	一
宮崎郡	二町以上	一、一二三	一、一二三	一三
南那珂郡	二町以上	九〇一	九〇一	九六
北諸縣郡	二町以上	三四九	三四九	二三三
西諸縣郡	二町以上	一、一二五	一、一二五	三四九
東諸縣郡	二町以上	五一〇	五一〇	一三五
兒湯郡	二町以上	一、五三四	一、五三四	三四
東臼杵郡	二町以上	一四六	一四六	一九
西臼杵郡	二町以上	一七三	一七三	三九
宮崎市	二町以上	二八四	二八四	四
都城市	二町以上	三〇九	三〇九	一
延岡市	二町以上	八	八	—
宮崎郡	三町以上	六八七	六八七	一五〇
南那珂郡	三町以上	三四九	三四九	四三
北諸縣郡	三町以上	九〇一	九〇一	二三三
西諸縣郡	三町以上	一、一二五	一、一二五	三四九
東諸縣郡	三町以上	五一〇	五一〇	八二
兒湯郡	三町以上	一、五三四	一、五三四	三五八
東臼杵郡	三町以上	一四六	一四六	一九
西臼杵郡	三町以上	一七三	一七三	三九
宮崎市	三町以上	二八四	二八四	四
都城市	三町以上	三〇九	三〇九	一
延岡市	三町以上	八	八	—

三　米

昭和十二年	作付段別 総数	水稲 糯米	水稲 粳米	陸稲	収穫高 総数	収穫高 水稲糯米	収穫高 水稲粳米	収穫高 陸稲	一段歩収穫高 水稲糯米	一段歩収穫高 水稲粳米	一段歩収穫高 陸稲	価額
	町	町	町	町	石	石	石	石	石	石	石	円
昭和十年	三五、三五五	三、六九五	四四、三三五	三、一八〇	五六、二一〇	九、四四〇	七九、三六〇	一、八〇〇	一・五九	一・八〇	一・〇〇	一〇一、七九〇
昭和十一年	三五、三五五	三、六九五	四四、三三五	三、一八〇	五六、二一〇	九、四四〇	七九、三六〇	一、八〇〇	一・五九	一・八〇	一・〇〇	一〇一、七九〇
昭和十二年	三五、三五五	三、六九五	四四、三三五	三、一八〇	五六、二一〇	九、四四〇	七九、三六〇	一、八〇〇	一・五九	一・八〇	一・〇〇	一〇一、七九〇

三　米

昭和十二年	作付段別 総数	水稲 糯米	水稲 粳米	陸稲	収穫高 総数	収穫高 水稲糯米	収穫高 水稲粳米	収穫高 陸稲	一段歩収穫高 水稲糯米	一段歩収穫高 水稲粳米	一段歩収穫高 陸稲	価額
	町	町	町	町	石	石	石	石	石	石	石	円
昭和十年	三五、三五五	三、六九五	四四、三三五	三、一八〇	五六、二一〇	九、四四〇	七九、三六〇	一、八〇〇	一・五九	一・八〇	一・〇〇	一〇一、七九〇
昭和十一年	三五、三五五	三、六九五	四四、三三五	三、一八〇	五六、二一〇	九、四四〇	七九、三六〇	一、八〇〇	一・五九	一・八〇	一・〇〇	一〇一、七九〇
昭和十二年	三五、三五五	三、六九五	四四、三三五	三、一八〇	五六、二一〇	九、四四〇	七九、三六〇	一、八〇〇	一・五九	一・八〇	一・〇〇	一〇一、七九〇

三四　大麦

昭和十二年	作付段別	収穫高 総数	収穫高 田	収穫高 畑	価額	収一段歩	収穫高
	町	石	石	石	円	石	石
昭和十年	一一、一四九	一三、三五一	一〇、四四七	二、九〇四	一二、一四九	一・一三	一二、八〇三
昭和十一年	一〇、四四七	一三、三五一	一〇、四四七	二、九〇四	一二、一四九	一・一三	一二、八〇三
昭和十二年	一〇、四四七	一三、三五一	一〇、四四七	二、九〇四	一二、一四九	一・一三	一二、八〇三

三五　小麦

昭和十二年	作付段別	収穫高 総数	収穫高 田	収穫高 畑	価額	収一段歩	収穫高
	町	石	石	石	円	石	石
昭和十年	一二、三五五	一三、六九五	一〇、四四七	三、二四八	一三、六九五	一・一四	一三、八〇三
昭和十一年	一二、三五五	一三、六九五	一〇、四四七	三、二四八	一三、六九五	一・一四	一三、八〇三
昭和十二年	一二、三五五	一三、六九五	一〇、四四七	三、二四八	一三、六九五	一・一四	一三、八〇三

（農業）

二七　燕麥

作付段別		收穫高 總數	田	畑	價額	一段歩收穫高
昭和十四年	町	二、三〇五・七	二、一五三	一五二	四二、七六六 円	一・七〇八
昭和十三年	町	二、一〇一・六	一、九六三	一三七	三三、七八五	一・三三
昭和十二年	町	一、九四六・九	一、八四一	一〇五	二七、六三一	一・四一九

二八　食用農產物

作付段別		收穫高 價額		作付段別		收穫高 價額	
總數 昭和十四年	町	二五、一八二・二	二、一一〇、九三二 円	小豆 昭和十四年	町	八二〇・六	一一九・一
昭和十三年	町	二五、八九九・〇	五、九〇五、五八九	昭和十三年	町	九二一・八	一三二・〇
昭和十二年	町	二六、一七八・六	五、六〇五、〇一五	昭和十二年	町	八七二・三	一二六・〇
大豆 昭和十四年	石	四、七五二・六	四三、六六〇 石	紅豆 昭和十四年	石	九〇七	一、五一二、四八八
昭和十三年	石	五、二〇一・一	四五、〇六三	昭和十三年	石	九三九	一、〇〇一、八二七
昭和十二年	石	五、二一〇・三	四五、〇六四	昭和十二年	石	八五〇	九三三、三七二

二九　園藝農產物

樹數　收穫高　價額

		樹數	收穫高	價額
蜜柑	昭和十四年	一、四四二、五五九	四五〇、九七九 本	六二〇、六一六 円
	昭和十三年	一、一五、九一五	四三八、六七〇	三四八、四一〇
	昭和十二年	一、〇二一、五九二	四三二、七七二	四〇四、五七二

（果實）　樹數　收穫高　價額

		作付段別	收穫高	價額
玉蜀黍	昭和十四年	一、四七二・九 町	一四、八一三 石	三五二、六〇三 円
	昭和十三年	一、五五五・〇	一六、四三六	三四三、六一四
	昭和十二年	一、五五三・九	一五、八八四	三〇八、一六七
馬鈴薯	昭和十四年	三二三・一	七一九、六一七 貫	一五、八八九
	昭和十三年	二九七・三	六八〇、九四六	一二、六五一
	昭和十二年	二七六・二	六四八、〇二四	一四、九三六
甘藷	昭和十四年	一二、三九四・〇	五二、五〇九、九五九	七、九三二、二六九
	昭和十三年	一一、二九四・〇	四四、八九九、五八九	六、六一二、四五六
	昭和十二年	一一、八二〇・九	四七、〇一七、七五五	三、五五〇、六二〇

作付段別	町	收穫高	石	價額	圓
總數 昭和十四年					
昭和十三年					
昭和十二年					
琉球豆 昭和十四年	二五八・四		三〇〇・二		一、八三九
昭和十三年	三〇四・七		二、二一七		二、二九一
昭和十二年					
甘藷 昭和十四年	一三五・四		一三七・三		五七七、一七六
昭和十三年	一三九・三		二〇六・二		六二七、六三八
昭和十二年	一三九・九		二六七・八		六二一、三五一
蠶豆 昭和十四年	一五七・三		一、三二〇		一、三五四
昭和十三年	二〇六・二		一、六八一		二、二五四
昭和十二年	二六七・八		二、一五四		二、二五四
菜豆 昭和十四年	二八九		二三七		六、六五〇
昭和十三年	三二・二		二八八		七、三五九
昭和十二年	三六・〇		二七五		六、六三二

（農　業）

（蔬菜及花卉）

作付段別	町	收穫高	斤	價額	圓
落花生 昭和十四年	二二・九		七七、五七三		一七、二六八
昭和十三年	二六・六		八六、七一九		一二、一四八
昭和十二年	二九・一		九五、〇三六		一二、四六六
南瓜 昭和十四年	九四八・五		三、三九五、八七八		一、〇〇三、八八一
昭和十三年	九五九・九		三、〇五四、四四一		七六七、五〇九
昭和十二年	一、〇六九・四		三、二七、四〇七		七〇四、三五八
西瓜 昭和十四年	五四五・一		一、九五五、四六〇		五一一、七六八
昭和十三年	五七九・五		一、九九八、〇〇三		四三八、二五九
昭和十二年	六六一・〇		一、八六六、五七七		三五五、九六〇
甜瓜 昭和十四年	四〇・四		九九、九八四		二五、〇六三
昭和十三年	四八・三		一二四、八一一		二六、四七一
昭和十二年	四四・五		一〇一、七六一		二三、七八三
胡瓜 昭和十四年	二八七・二		九六五、一五九		三九二、五一〇
昭和十三年	二九三・八		九七〇、一五六		二八〇、二六六
昭和十二年	二八六・六		九三五、五二七		二五〇、八〇〇

作付段別	町	收穫高	貫	價額	圓
ネーブルオレンジ 昭和十四年	一六、〇六五		三七、〇七九		二四、〇八八
昭和十三年	一五、八七五		三一、五〇三		一六、七六七
昭和十二年	一八、二〇六		三四、四六九		一五、八六五
日向蜜柑 昭和十四年	四四、七八二		七〇、三九七		五六、二二四
昭和十三年	四七、三三四		一八、一六一		七一、一五八
昭和十二年	四六、六七七		七四、五七四		四四、四〇〇
其ノ他柑橘類 昭和十四年	七四、二五一		一二〇、七六六		五五、七一八
昭和十三年	七二、七〇四		一九三、四三七		四一、五八四
昭和十二年	六六、四六七		一九一、五六五		三六、三〇九
柿 昭和十四年	三一三、五一四		一、二三一、一七二		二四六、五五五
昭和十三年	二九二、四八一		一、四六七、六五〇		二三〇、五六八
昭和十二年	二九一、五八五		一、五二一、八八八		二〇三、三三一
橙 昭和十四年	一六、〇〇七		五九、〇一八		二一、一一〇
昭和十三年	一六、三二五		六〇、四九九		一八、六九四
昭和十二年	一六、三〇五		五六、四五五		一五、八七一
梨 昭和十四年	一二〇、八二四		三五七、一七八		五五、七一八
昭和十三年	一一八、五九五		四四七、三五六		四一、五八四
昭和十二年	一一九、二八一		三五七、六三四		三六、三〇九
梅 昭和十四年	八二、一六七		一、〇六四		一七六、〇一五
昭和十三年	八〇、五〇三		一〇、七〇二		一三六、一九九
昭和十二年	七九、三六四		九、五六六		一〇八、一八九
桃 昭和十四年	四五、六一四		五九、九七二		二九、〇九〇
昭和十三年	四五、四五一		六〇、四三二		三三、〇八一
昭和十二年	四六、七五一		六〇、六三六		二一、三三四
葡萄 昭和十四年	九、四二一		一、八六六		一四、六七二
昭和十三年	一〇、八一八		一九、〇六〇		一〇、九九一
昭和十二年	一一、二〇一		一九、二五五		一〇、七三三
枇杷 昭和十四年	二二、六一五		三三、一〇三		一九、七八一
昭和十三年	二三、二一五		三四、〇九八		一四、九八六
昭和十二年	二三、七〇四		三三、一四四		一五、二七一
其ノ他 昭和十四年	一一〇		八六		四二
昭和十三年	五六		三〇		一五
昭和十二年	六		一		—

		作付反別	收穫高	價額
茄	昭和十四年	町 三九三・二	貫 一、三五九、〇二五	円 二七四、〇九四
	昭和十三年	四一五・〇	一、四八四、一七九	二四三、七七七
	昭和十二年	四三八・四	一、四九三、一五九	二三〇、七四四
蕃茄	昭和十四年	一二四・一	四二一、四〇二	一二六、〇八四
	昭和十三年	一三四・〇	五三四、〇七〇	一二五、五〇三
	昭和十二年	一四〇・〇	五三八、六九一	一一五、二四二
胡瓜	昭和十四年	二〇九・六	四一六、〇五六	一〇七、四八八
	昭和十三年	二二七・四	四四八、七九二	九九、五八五
	昭和十二年	二三〇・〇	四六六、〇九五	九六、五六八
越瓜	昭和十四年	二七・二	六八、一五四	一七、六二一
	昭和十三年	二八・四	六八、二九八	一五、二六三
	昭和十二年	三〇・七	七三、一一六	一五、三二一
百合根	昭和十四年	〇・一	三、五〇〇	三五
	昭和十三年	〇・一	三、五〇〇	三五
	昭和十二年	〇・一	三、五〇〇	三五
蘿蔔	昭和十四年	二、九九九・九	二四、一五〇、三二一	一、九二五、八〇二
	昭和十三年	二、一七七・五	二五、五六四、八四七	一、四八四、九二五
	昭和十二年	二、八五〇・二	二〇、九二三、九五三	一、〇四九、六二五
蕪菁	昭和十四年	一五九・八	六六一、七五五	八九、五〇二
	昭和十三年	一七七・二	七二三、七九一	六四、二五五
	昭和十二年	一八二・八	七二九、八三四	六三、九七八
胡蘿蔔	昭和十四年	一五六・二	六六一、七五五	八九、五〇二
	昭和十三年	一六二・九	七二三、七九一	六四、二五五
	昭和十二年	一六三・二	七二九、八三四	六三、九七八
牛蒡	昭和十四年	二一八・一	七五四、五二九	二六〇、五九七
	昭和十三年	二三五・二	八一五、二六五	二一三、七三八
	昭和十二年	二四二・五	八二七、四五六	一九九、九二五
青芋	昭和十四年	一、四七四・七	五、二六三、七四六	一、二三一、三三二
	昭和十三年	一、四八二・七	五、二三九、九六二	八三八、九六七
	昭和十二年	一、五八四・五	五、五五九、七三六	七八五、四四四
慈姑	昭和十四年	一七四・〇	四二七、三九三	一二八、一〇四
	昭和十三年	一七四・〇	四二一、一八七	八九、九〇七
	昭和十二年	一七七・六	四二八、〇三六	八〇、八七三
慈頭	昭和十四年	一八一・三	四二七、三九三	一二八、一〇四
	昭和十三年	一七四・〇	四二一、一八七	八九、九〇七
	昭和十二年	一七七・六	四二八、〇三六	八〇、八七三
蕗	昭和十四年	一五九・八	六六一、七五五	八九、五〇二
	昭和十三年	一七七・二	七二三、七九一	六四、二五五
	昭和十二年	一八二・八	七二九、八三四	六三、九七八
蓮根	昭和十四年	九・八	二三、六〇〇	八、四七九
	昭和十三年	一〇・九	二六、九五二	七、八三二
	昭和十二年	一二・四	二七、三七〇	七、五三三
生姜	昭和十四年	一六・〇	四七、一五二	二五、三二九
	昭和十三年			
	昭和十二年			
濱菜	昭和十四年	四五八・一	一、八三〇、〇二一	四五四、〇八六
	昭和十三年	四五九・二	一、八二五、三四三	四五二、八八八
	昭和十二年	四六四・四	一、八二〇、三五七	四五一、八二七
芋麻	昭和十四年	六六三・五	二二二、六六六	四、〇〇五、〇八六
	昭和十三年	三九六・二	一三七、四二一	二、九〇〇、五五五
	昭和十二年	三一七・五	一〇〇、九五三	一、五五五、〇二五
大麻	昭和十四年	二三五・二	五六、三五八	一、二〇四、三六八
	昭和十三年	一八一・九	四〇、五七三	一、一五五、二三五
	昭和十二年	一八一・〇	三九、六八二	一、三五七、九八〇
蘭（備後ノ他ハ朝丸其ノ朝）	昭和十四年	二・四	六、一二九	六、七二二
	昭和十三年	三・三	五、三八一	五、一五一
	昭和十二年	二・三	三、八六一	三、五三五

三　工藝農産物

	作付反別	收穫高	價額
胡麻 昭和十四年	三六・二 町	二八 石	一一、五三六 円
昭和十三年	三五・一	二一七	九、八八三
昭和十二年	四〇・〇	二四三	九、七八五
三極 昭和十四年	七三・一	一七、五七五 貫	四八、六八一
昭和十三年	五七・七	一八、七二五	二八、三〇九
昭和十二年	六四・五	三〇、九八七	二八、三〇九
苧麻（七島藺） 昭和十四年	一六・二	二四、二七九	二一、三六〇
昭和十三年	一八・二	二五、九六三	一七、七九九
昭和十二年	二四・四	三四、一〇五	一八、八九〇
葉煙草 昭和十四年	六七六・〇	一、三七三、四一七	一、五九六、六四九
昭和十三年	五九六・〇	一、〇六八、五三一	八七五、二一四
昭和十二年	四八八・八	九三二、九〇八	七一〇、八二三
甘藷 昭和十四年	三〇・七	一三七、五〇〇	一七、五八七
昭和十三年	五五・二	二八九、九四八	二一、六四八
昭和十二年	六〇・〇	二七〇、八二〇	一九、六五九

	作付段別	收穫高	價額
櫨 昭和十四年	一〇〇・一 町	五一、一二二 貫	二二、八五四 円
昭和十三年	八九・〇	五七、一三七	一七、一七五
昭和十二年	八六・八	六九、二七一	二四、〇〇〇
椿 昭和十四年	一六〇・一	七二、五二三	一五、〇九八
昭和十三年	一五四・四	六九、九六九	一四、四九七
昭和十二年	一七二・四	七六、五四一	一五、九八八
蒟蒻芋 昭和十四年	一三二・五	二二五、一五九	一五五、八九七
昭和十三年	一二五・六	一八四、五二七	九二、八〇〇
昭和十二年	一二二・一	一九五、五六四	八九、三九六
杞柳 昭和十四年	四、一	二、八五〇	二、〇七九
昭和十三年	四・五	二、六六〇	一、五八六
昭和十二年	四・九	二、八二〇	二、〇六一
其ノ他 昭和十四年			
昭和十三年			
昭和十二年			

三　農産製造物

	數量	價額
總數 昭和十四年		円
昭和十三年		
昭和十二年	一、八九四、六四九 貫	四、八六九、四二四
大根切干 昭和十四年	二、〇二一、〇三六	三、〇三五、九三四
昭和十三年	一、一八五、六二三	一、九二七、二九九
甘藷切干 昭和十四年	五、〇〇二、六〇九	一、八六六、四七九
昭和十三年	二、五六〇、七七四	一、二八〇、四五四
昭和十二年	四三〇、〇〇一	九〇四、五七一

三　桑畑及茶畑

六月末日現在

			數量	價額
桑畑	總數	昭和十四年	五、九〇一・〇 町	一、七七三・一 町
		昭和十三年	六、六二四・一	一、七一七・八
		昭和十二年	七、〇七五・五	一、六六六・七
	本畑段別	昭和十四年	五、八八〇・一 町	一、七一七・八 町
		昭和十三年	六、五二〇・八	一、六六六・七
		昭和十二年	七、〇一六・八	
	見積段別	昭和十四年	一二・九 町	
		昭和十三年	一一・三	
		昭和十二年	五八・七	
茶畑	總數	昭和十四年	五二、一〇六 貫	五八、七八一 円
		昭和十三年	四六、四〇〇	四五、七二〇
		昭和十二年	四九、六五七	四七、〇七三
	本畑段別	昭和十四年	六一九・三 町	四七九・八 町
		昭和十三年	五七四・〇	四七一・〇
		昭和十二年	五六六・一	四三九・五
	山茶段別	昭和十四年		
		昭和十三年		
		昭和十二年		
	其他	昭和十四年		
		昭和十三年		
		昭和十二年		

			數量	價額
干柿		昭和十四年		円
		昭和十三年		
		昭和十二年		
漬物		昭和十四年		
		昭和十三年		
		昭和十二年	一、四〇六、三一五	一、〇七九、一四六
				八五七、三五四

三四　綠肥用作物

		作付段別	收穫高	價額
蠶豌豆及豆	昭和十四年	七七九・七町	一、九六四、〇五〇貫	四〇、二一〇円
	昭和十三年	七〇六・四	一、七五四、二一〇	二八、七六七
	昭和十二年	九八三・三	二、六八八、〇八九	四〇、六六八
其ノ他	昭和十四年	二、二五六・三	六、六一四、一〇九	一四五、六三五
	昭和十三年	二、二八一・六	六、〇三九、三一六	一一〇、二三一
	昭和十二年	二、〇七八・五	五、六六七、五九五	九八、四八七

三五　飼料用作物

		作付段別	收穫高	價額
總數	昭和十四年	二、八五五・五町	七、九八五、一四九貫	一五八、五〇六円
	昭和十三年	三、五〇七・四	八、四二九、七三四	一五一、四八七
	昭和十二年	？	？	？
紫雲英	昭和十四年	二、二三六・一	六、一二九、三九九	一〇七、二三三
	昭和十三年	二、七八一・〇	六、四八一、四二三	一一三、二〇八
	昭和十二年	？	？	？
青刈大豆	昭和十四年	二八九・四	九八四、五二〇	二四、一九〇
	昭和十三年	二六一・四	五八三、五三〇	九、九三二
	昭和十二年	？	？	？

三六　小作爭議ノ一

（件數別）

關係者			發生件數
地主	小作人	總數	昭和十四年 二四
			昭和十三年 二六
			昭和十二年 二四
		田	昭和十四年 九四
			昭和十三年 五二
			昭和十二年 三四
		畑	昭和十四年 三四
			昭和十三年 二四
			昭和十二年 一二

三七　小作爭議ノ二

（原因別）

		件數
小作料	自作目的ニ地主ノ土地ヲ引上請求スルモノ	昭和十四年 六
		昭和十三年 四
		昭和十二年 三
	地主ノ小作人不信頼又ハ嫌忌ニヨル土地引上	昭和十四年 五
		昭和十三年 六
		昭和十二年 四
	新地主ノ土地引上	昭和十四年 四
		昭和十三年 四
		昭和十二年 七
小作料値上ノタメ小作人ノ更變		昭和十四年 一
		昭和十三年 一
		昭和十二年 一
其ノ他		昭和十四年 一
		昭和十三年 三
		昭和十二年 六

三八　小作爭議ノ三

（調停者別）

		件數
總件數		昭和十四年 二四
		昭和十三年 二六
		昭和十二年 二六
調停委員會		昭和十四年 五
		昭和十三年 三
		昭和十二年 一〇
裁判所及小作官ニヨル調停		昭和十四年 一
		昭和十三年 一
		昭和十二年 一
小作官法外調停		昭和十四年 二
		昭和十三年 一
		昭和十二年 二
當時者ノ示談解決		昭和十四年 七
		昭和十三年 一
		昭和十二年 三

蠶業

收繭百二十三萬七千(貫)

生絲千四百七十四萬(圓)

蠶業

概說

蠶種 本縣の氣候風土は蠶の飼育に適するを以て本縣に生産する蠶種が品質優良強健無比の稱あるは蓋し偶然にあらず、殊に多年の經驗と本縣氣候の巧妙なる利用とに依りて生産せらるゝ夏秋期製造春蠶種は最も新しき品種を採用し得る點に於ては他府縣の追隨を許さない。而して其の製造高は例年數百萬瓦を超へ、殊に本年に於ける製造高は六、〇七四、七九七瓦に達し獨り縣内の需用を充すのみならず他府縣の製絲業者に競つて歡迎せられ稱讃を博して居る。尚縣南海岸地方に於ては四月一日原蠶種を掃立五月二十日前後蠶種製造をなし得るを以て其の年東北地方春蠶の掃立に充當し得るの天惠がある。而して本年に於ける製造狀況を觀るに

製造者數	三〇戸	前年に比し	二戸 減
製造(檢査合格高)	六、〇七四、七九七瓦	同	八二九、五五七瓦(一割二分)増
價額	一、五七五、九四九圓	同	二〇四、一八四圓(一割五分)増

にして最近十箇年間に於ける趨勢を觀るに製造者數は逐年減少の傾向を辿り製造高は昭和十年迄は逐年增加の趨勢を示してゐる。

養蠶戸數 昭和十四年中に於ける養蠶戸數は

春蠶 二七、八三三戸 前年に比し 二、六三〇戸(九 分)減

(蠶絲)

夏秋蠶　二八、一一一戸　同　九七三戸（三　分）減
實戸數　二八、五六八戸　同　二、一九〇戸（七　分）減

にして最近十箇年間に於ける趨勢を觀るに昭和五年迄は漸増の傾向にありしも昭和六年以後は之と反對の現象を示し漸減の傾向がある蓋し右は主として小規模養蠶家の減少した結果であらう。

蠶種掃立數量　昭和十四年中に於ける蠶種掃立數量は

總數　一、五七二、五六五瓦　前年に比し　三六、六三〇瓦（三　分）増
春蠶　六二九、六一〇瓦　同　九、七八二瓦（二　分）増
夏秋蠶　九四二、九五五瓦　同　七六、八四八瓦（九　分）増

にして其の最近十箇年間に於ける趨勢は昭和五年以降漸減の傾向を示してゐる。

繭産額　昭和十四年中に於ける繭産額は

總數　一、二三七、八三八貫　前年に比し　四九三貫（一割四分）増
　　（一三、二〇二、六九〇圓　　七〇九、七七四圓）（一割四分）増
春蠶　五四一、八八五貫　同　一九、六〇八貫（四　分）増
　　（五、一二七、九五〇圓　　七一〇、四四六圓）（二割五分）増
夏秋蠶　六九五、九五三貫　同　一三四、八八五貫（二割四分）増
　　（八、〇七四、七四〇圓　　九九九、三二八圓）（六割三分）増

である。蓋し本年蠶兒發育の狀況は

春蠶の五月末日現在の豫想收繭高は五〇六、七五二貫にして前年の實收高に比し四、四七五貫（一分）の増收を豫想されたるも實收の結果は五四一、八八五貫となり之を前年の收繭高と比較するときは一九、六〇八貫の増收を示すに至つた。その原因は主として繭増産確保奬勵の徹底と絲價暴騰に依る掃立數量増加の結果にして尚價額は絲價の暴騰により五、一二七、九五〇圓となり前年に比し實に二、七一〇、四四六圓（二割二分）の驚異的増收を示した。

夏秋蠶は九月二十五日現在に於ける豫想收繭高は六六八、二九六貫にして前年の實收高に比し一〇七、二二八貫（一割九分）の増收を豫想されたが實收の結果は六九五、九五三貫にして前年の收繭高に比し一三四、八八五貫の増收を示すに至つた。尚價額は絲價の活況により前年に比し一一八、六三八圓の増加となつてゐる。

製絲業　昭和十四年中に於ける製絲業は

製絲場數　一〇九　前年に比し　五三戸（三割三分）減
繰絲釜數　三、一〇九　同　七〇一（二割九分）増
職工數（男　二二八　同　九人（四　分）減
　　（女　三、四三四　同　六〇人（二　分）減

製絲額産額

總價額　一四、七四一、七一七圓　前年に比し　六、六〇八、九九九圓（八割一分）増
眞綿昭和十四年中に於ける製造場數は一五にして前年に比し一戸を増加し生産數量は七四六貫にして前

年に比し三八七貫、價額は四六、七六〇圓にして前年に比し三〇、九六〇圓の何れも增加を示してゐる。

三九　蠶種

種別			昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
製造戸數			三〇	三三	三三
原蠶種	製造高	總數	六、〇九二、七七八瓦	六、九一八、七四五	六、七七六、七七三
		檢査合格高	六、〇七四、七九七瓦	六、九〇四、三五四	六、七五〇、六四八
	檢査合格高		六五、五四七瓦	二三五、六六〇	一九三、八六六
	檢査合格率		九九、四瓦	九九、六	九九、八
普通蠶種	製造高	總數	六、〇三七、二三一瓦	六、八八三、〇八五	六、五八二、九〇七
		檢査合格高	六、〇〇九、九五一瓦	六、八七六、六一五	六、五七〇、九五七
	檢査合格率		九九、七瓦	九九、八	九九、八

四〇　養蠶戸數

種別		昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
戸數	春蠶	二七、八九三	二八、一一一	二八、五六八
	夏秋蠶	三〇、四六三	二九、〇八四	三〇、七五八
	實戸數	三三、七八〇	三四、三三四	三五、一一四
蠶種掃立數量	總數	一、五七二、五六九瓦	一、四八五、九三五	一、五九九、三七一
	春蠶	六二九、六一〇瓦	六一九、八二八	六六七、三七三
	夏秋蠶	九四二、九五五瓦	八六六、一〇七	九三一、九九九

（蠶絲）

四二　蠶絲類及眞絹

		生絲（屑物ヲ含ム）價額	繰絲數量	繰絲價額
昭和十年		八四、七三二、七八七円	一、〇八五、三四二瓩	一、三五〇、七二四円
昭和十一年		七四、一三五、七〇〇	一、〇〇〇、七〇五	一、二五〇、〇五四
昭和十二年		八四、一三五、七〇〇	一、〇八五、三四二	一、三五〇、七二四
昭和十三年		七四、一三五、七〇〇	一、〇〇〇、七〇五	一、二五〇、〇五四
昭和十四年		八四、一三五、七〇〇	一、〇八五、三四二	一、三五〇、七二四

		生絲				屑物			
		黃絲				繰絲			
		數量	價額			數量	價額		
昭和十年		一、九一九、三七八瓩	二、三〇四、五四五円			七三、九一四、七二〇瓩	一八四、七八〇円		
昭和十一年		二、〇四四、九三七	二、四五三、五二四			七九、一〇〇、〇六三	一九七、七五二		
昭和十二年		一、九一九、三七八	二、三〇四、五四五			七三、九一四、七二〇	一八四、七八〇		
昭和十三年		二、〇四四、九三七	二、四五三、五二四			七九、一〇〇、〇六三	一九七、七五二		
昭和十四年		一、九一九、三七八	二、三〇四、五四五			七三、九一四、七二〇	一八四、七八〇		
昭和十年		一、九一九、三七八瓩	二、三〇四、五四五円			七三、九一四、七二〇瓩	一八四、七八〇円		
昭和十一年		二、〇四四、九三七	二、四五三、五二四			七九、一〇〇、〇六三	一九七、七五二		
昭和十二年		一、九一九、三七八	二、三〇四、五四五			七三、九一四、七二〇	一八四、七八〇		
昭和十三年		二、〇四四、九三七	二、四五三、五二四			七九、一〇〇、〇六三	一九七、七五二		
昭和十四年		一、九一九、三七八	二、三〇四、五四五			七三、九一四、七二〇	一八四、七八〇		

		生絲									
		繰絲									
		白絲									
		數量	價額								
昭和十年		一、三五〇、七二四瓩	一、三五〇、七二四円								
昭和十一年		一、二五〇、〇五四	一、二五〇、〇五四								
昭和十二年		一、三五〇、七二四	一、三五〇、七二四								
昭和十三年		一、二五〇、〇五四	一、二五〇、〇五四								
昭和十四年		一、三五〇、七二四	一、三五〇、七二四								
昭和十年		一、三五〇、七二四瓩	一、三五〇、七二四円								
昭和十一年		一、二五〇、〇五四	一、二五〇、〇五四								
昭和十二年		一、三五〇、七二四	一、三五〇、七二四								
昭和十三年		一、二五〇、〇五四	一、二五〇、〇五四								
昭和十四年		一、三五〇、七二四	一、三五〇、七二四								

四三　繭　　產　　額

		收繭高									
		總數				上繭				玉繭	
		數量	價額			數量	價額			數量	價額
昭和十年		一、一〇八、三五八瓩	一、三五〇、七二四円			一、〇一九、三七八瓩	一、二三四、五四五円			八四、一三五瓩	一〇二、七二四円
昭和十一年		一、〇〇〇、七〇五	一、二五〇、〇五四			九四四、九三七	一、一八〇、五二四			七九、一〇〇	九九、〇五四
昭和十二年		一、〇八五、三四二	一、三五〇、七二四			一、〇一九、三七八	一、二三四、五四五			八四、一三五	一〇二、七二四
昭和十三年		一、〇〇〇、七〇五	一、二五〇、〇五四			九四四、九三七	一、一八〇、五二四			七九、一〇〇	九九、〇五四
昭和十四年		一、〇八五、三四二	一、三五〇、七二四			一、〇一九、三七八	一、二三四、五四五			八四、一三五	一〇二、七二四
昭和十年		一、一〇八、三五八瓩	一、三五〇、七二四円			一、〇一九、三七八瓩	一、二三四、五四五円			八四、一三五瓩	一〇二、七二四円
昭和十一年		一、〇〇〇、七〇五	一、二五〇、〇五四			九四四、九三七	一、一八〇、五二四			七九、一〇〇	九九、〇五四
昭和十二年		一、〇八五、三四二	一、三五〇、七二四			一、〇一九、三七八	一、二三四、五四五			八四、一三五	一〇二、七二四
昭和十三年		一、〇〇〇、七〇五	一、二五〇、〇五四			九四四、九三七	一、一八〇、五二四			七九、一〇〇	九九、〇五四
昭和十四年		一、〇八五、三四二	一、三五〇、七二四			一、〇一九、三七八	一、二三四、五四五			八四、一三五	一〇二、七二四

		收繭高									
		玉繭				屑繭				價額	
		價額				數量	價額				
昭和十年		一〇二、七二四円				一〇、〇一七瓩	一、〇一七円			一、三五一、四四一円	
昭和十一年		九九、〇五四				七、八七二	七八七			一、二五一、〇一四	
昭和十二年		一〇二、七二四				一〇、〇一七	一、〇一七			一、三五一、四四一	
昭和十三年		九九、〇五四				七、八七二	七八七			一、二五一、〇一四	
昭和十四年		一〇二、七二四				一〇、〇一七	一、〇一七			一、三五一、四四一	
昭和十年		一〇二、七二四円				一〇、〇一七瓩	一、〇一七円			一、三五一、四四一円	
昭和十一年		九九、〇五四				七、八七二	七八七			一、二五一、〇一四	
昭和十二年		一〇二、七二四				一〇、〇一七	一、〇一七			一、三五一、四四一	
昭和十三年		九九、〇五四				七、八七二	七八七			一、二五一、〇一四	
昭和十四年		一〇二、七二四				一〇、〇一七	一、〇一七			一、三五一、四四一	

年	生皮		毛皮		其ノ他ノ物		真綿			
	数量	価額	数量	価額	数量	価額	製造場数	数量	価額
昭和十二年	一四、二七九、〇〇〇貫	三九、〇三五、六四四円	一、三五六、七八八貫	一三、四一九、三五一円	一三五	九、四三七貫	四、七六八、〇〇〇円
昭和十三年	一四、八二七、九〇〇貫	三八、四三五、〇〇〇円	一、三五七、〇七八貫	一三、五七四、一四二円	一三四	九、四四四貫	四、七〇二、〇〇〇円
昭和十四年	一二、八一七、〇〇〇貫	三一、〇五〇、〇〇〇円	一、三五七、八八貫	一三、四一九、三五一円	一三五	九、三五四貫	四、六八一、〇〇〇円

畜産業

駒は日向の誇りの一つ

牛も五萬一千頭

概說

緒說

九州の驒足を以て其の名を謳はるゝ本縣は往古より各代の爲政者何れも畜産殊に産馬の奬勵に努め縣民亦よく其の意を體し所謂官民一致斯業に精勵したると廣袤五百餘方里の縣内には實に數萬町歩の牧野を包含し加之氣候温暖にして雨量亦多きを以て草生豐富に天地の利と人の和とを得たる本邦有數の畜産縣として當路者は固より汎く一般の認むる所となつた。

馬

産馬は前述の如く本縣畜産の王座にして古く藩制時代に於て藩牧の制を設け蕃殖に又乘馬に各藩主鋭意馬事の奬勵に力を致し明治中葉に至りては各郡に畜産組合の設立を見各競うて優良馬の出産に努めつゝあるので、これが爲め各郡共各特色を發揮し益々斯業の隆盛を期しつゝある。殊に昭和八年十月競馬法實施十周年記念全國馬匹博覽會に於ける本縣よりの出品馬は何れも入賞し更に本縣産馬の名聲を博するに至つた。

馬匹は中間種なるアングロノルマン種系とアングロアラブの如き輕種系馬とにしてこれよりの産駒は從來九州各縣、四國に顧客を有し移出先に於て育成せられて軍馬となるもの實に全九州に於ける陸軍購買馬の約五割に達し今やその供給源としては實に國家的であるばかりでなく其の他競馬場裡に於ても秀れたる能力は北海道、青森縣産アラブ系馬と共に全國屈指の成績を示し輓近機關東地方に役馬若くは蕃殖基礎馬として移出せられ又本縣産馬の市價は優に東北地方のそれを凌駕するに

至つた。

牛　畜牛の改良は明治の初年に初まり其の後幾多の變遷があつたが、役肉用牛の需要増加に鑑み、黑毛改良和種の生産を期し血種及體型の固定に努め居る結果資質年と共に向上し、而して本年に於ける飼養戸數は三七、三四八戸で前年に比し二、六三一戸を増加し飼養頭數は五〇、八七一頭で前年に比し三、三二〇頭を増加した。從つて生産頭數も逐年増加し本年の如きは實に一四、二二一頭に達し前年に比し一、四一四頭の増加を示した。而も性質温良、肉質可良なるため當業者に歡迎せられその大半は大分、愛媛、德島、大阪、愛知、和歌山、鹿兒島等の地方へ移出せられてゐる。主たる産地としては西臼杵、兒湯、東臼杵、西諸縣、北諸縣の各郡及延岡市である。

乳牛　昭和十四年末に於ける搾乳場數は四九戸にして乳牛頭數は二九二頭で之が搾乳高は二、五三四石である。而して價額は一八二、二〇四圓にして前年に比し一九、二一九圓の増加である。

豚　豚は農漁村の副業として飼養せられるもの多く本年末現在に於ける飼養戸數は六、七二一戸にして前年に比し二三一戸を減少し飼養頭數は一二、九五九頭にして前年に比し一七二頭の減少を示してゐる。尚都城市に産する「ハム」は中流以上の家庭向として名聲を博し今や滿洲國方面へもその輸出を見るに至つた。飼養の盛なる地方は南那珂、東臼杵及兒湯、北諸縣の地方である。

緬羊及山羊　昭和十四年末現在に於ける緬羊飼養戸數は四〇二戸にして前年に比し三四五戸を減少し飼養頭數は一、二七二頭にして前年に比し二七八頭を減少した。種類は採毛專用種たるメリノ種を主とし只僅かに毛肉兼用種コリデール種がある。尚ほこれが飼育は大正八年頃に始まり現在に於ては四諸

縣の三六〇頭、兒湯郡の一八五頭、北諸縣郡の二九七頭、南那珂郡の二三七頭を主なる飼育地として各地に漸次増加の傾向に在る。縣では益々飼養技術の練磨と羊毛加工の家庭化を奬勵し緬羊飼養經濟の向上を計つてゐる。

山羊　昭和十四年末現在に於ける飼養戸數は七七四戸にして前年に前し二五四戸を増加し飼養頭數は一、四六二頭で前年に比し五一四頭を増加し逐年増加の傾向を示してゐる。

家禽　昭和十四年六月三十日現在に於ける家禽飼養狀況は、先づ之を鷄に付觀ると十羽未滿に於て三戸、百羽未滿に於て二一戸を減少するも五十羽未滿に於て一、二〇二戸、百羽以上に於て一五六戸を増加した。

尚飼養羽數が前年に比し減少したのは飼養戸數の減少に伴ふ自然の現象と見なければならぬ。之を要するに本縣の養禽事業の現況は鷄、鴨、吐綬鷄にありては逐年減少の歩調を辿りつゝあるが、鷄に於ては逐年旺盛に趣きつゝあることを示してゐる。然れども之を本邦に於ける養鷄先進地たる千葉、愛知等の諸縣に比すれば尚及ばざること遠く、されど養鷄は本縣に於ける主要産業であり旁々卵肉の需用は益々夥多を加へ殊に本縣は土地廣濶氣候亦適順天惠の好適地なるを以て縣は之が飼養増殖を圖る爲め養鷄生産物の共同販賣を主たる目的とする養鷄組合の設立を必要とし昭和元年以降奬勵金を交付して組合の設立を促進し又既設組合に對しても奬勵金を交付して組合の堅實なる發達を期し以て大いに之が増殖を圖りつゝある。

蜜蜂　昭和十四年末現在に於ける飼養戸數は總數一、七四九戸にして、前年に比し四戸を増加し箱數は六、

（家畜及家禽）

五五三に及び採蜜量亦二〇、五二七貫に達しその價額は五二、四一六圓さなつた。而して本縣は四季を通して蜜源植物に富む關係上比較的飼養容易なるが故も尚遠く岐阜、北海道、靜岡地方にも轉地飼養をなすものがある。

四三　畜産物價額（累年比較）

（家畜及家禽）

昭和十二年	緬羊及山羊	畜産	屠殺	總額	牛	馬	豚	養兎	牛乳
昭和十二年	一一、〇四九円	總價額	總額	五七九、七二円	三四四、一五七円	一四四、七六八円	二三四、〇九〇円	二三、一八五円	二七、二〇四円
昭和十三年	五四、二五九円	四五七、五三、八〇円	五五、四〇四、九七四円	五七九、七四〇円	四九、六七四円	一〇四、五三五円	八五、三五〇円	一〇、八五〇円	一七、九七四円
昭和十四年	元	四三五、九三〇円	四九、一五七円	四六	九、五三七円	一〇、七六九円	八五	九〇	四

| | | 總額 | | |

牧場名	所在地	創立年月	面積	牛	馬	役夫延人員
荒場牧場	北諸縣郡高崎町	昭和九年四月	四〇町	五二頭	？	三〇
迫間放牧場	全上	昭和十三年四月	一四〇・〇	七五	？	五〇
炭床放牧場	全上	昭和十一年二月	三〇〇・〇	九一	？	六五
共和放牧場	全上	昭和十年六月	三九〇・〇			八三
霧島牧場	西諸縣郡小林町	昭和九年七月	一五〇・〇	一三	？	五、二五〇
末永牧場	全	大正七年九月	一五一・〇	一〇	？	一、〇〇〇
大河平放牧場	全	昭和十年十二月	三六〇・〇	一八	？	二、七六〇
下大河平牧場	全	昭和九年十二月	一一四・〇			
	郡飯野町	昭和十年一月	四五〇・〇	三	？	一、六〇四
	全上	昭和九年十二月	一〇〇・〇	三	？	四三五
南方西木牧場	西諸縣郡小林町	大正七年四月	一五〇・〇	一三	？	五、二五〇
西原種畜牧場	全	大正九年五月	一五一・〇	一〇	？	一、〇〇〇
内山牧場	郡高原町	昭和十一年五月	三五五・八	一八	？	二、〇〇〇
	郡須木村	昭和十年三月	一二八・三			
荒田川牧場	全	昭和十年一月	四一・〇	二	？	四五〇
八幡牧場	全	昭和十年一月	四〇・〇	二	？	三〇〇
加久藤放牧場	郡加久藤村	昭和四年六月	三五二・〇	一五	？	四五〇
	全上	昭和十年一月	一二五・〇			
高久保放牧場	全	昭和十年一月	四〇・〇	二	？	三〇〇
山明ケ尾放牧場	郡眞幸村	昭和十年一月	五六・〇	一	？	一五〇
尾立個人經營牧場	全上	昭和十年一月	二〇・〇			
二反個人經營牧場	東諸縣郡綾町	昭和十一年二月	六〇・〇			二
唐津第一牧場	全	昭和八年三月	二二五・〇			
唐津第二牧場	兒湯郡川南村	昭和九年二月	二一〇・〇			
唐津第三牧場	全上	昭和八年二月	三〇・〇			
登利口牧場	全	昭和八年三月	二〇・〇			
大内牧場	全	全	二〇・〇			
掛迫牧場	全	昭和九年二月	二〇・〇			
小池第一牧場	全上	昭和八年二月	二〇・〇			
小池第二牧場	全	昭和九年二月	二五・〇			
鵜戸本牧場	全	全	二〇・〇			
市納放牧場	全	昭和十三年二月	二五・〇			
番丘放牧場	全上	昭和九年二月	二〇・〇			
井手平放牧場	郡都農町	昭和十二年四月	八〇・〇	七	？	二三五
青鹿第一牧場	全上	昭和九年二月	一〇・〇			
青鹿第二牧場	全	昭和十一年四月	一〇・〇			
川牧場	東臼杵郡門川町	昭和十年二月	七一・〇			
坂牧場	全	昭和八年二月	二〇・〇	一八	？	五五
石牧場	全	全	五〇・〇	一三	？	四五〇
飛深瀬牧場	郡北川村	昭和九年二月	五五・〇	一三	？	四〇〇
瀬口放牧場	全上	全上	六〇・〇	一二	？	六〇〇

牧場名	所在地	創立年月	面積	牛	馬	役夫延人員
本村放牧場	東臼杵郡北川村上	昭和九年二月	六・〇町	二八六頭	?	六三
俵野牧場	全	昭和十年二月	二〇・〇〇	九五	?	六〇
飯干牧場	西臼杵郡諸塚村上	明治以前ニ付不詳	一五〇・〇〇	九五	?	三〇
七ツ山放牧場	全	昭和十年五月	三〇・〇〇	一八	?	三五
小原井牧場	全	昭和十二年十二月	五〇・〇〇	六五	?	四〇〇
高千穂牧場	全	昭和十四年五月	五〇・〇〇	一七三	?	一五
向山牧場	西臼杵郡高千穂町上	昭和十年五月	六〇・〇〇	六二	?	八九
不土野牧場	西臼杵郡椎葉村上	昭和十二年四月	五〇・〇〇	一七三	?	八〇
古枝尾牧場	全	昭和十一年三月	五〇・〇〇	三九	?	二八三
揚賀牧場	全	昭和二年五月	五〇・〇〇	五九	?	三一〇
古祖母嶽放牧場	全	大正九年六月	一四〇・〇〇	二〇五	?	一一〇
神之上放牧場	全	昭和十年六月	一五〇・〇〇	一三	?	四〇〇
管原尾野放牧場	全	昭和十年六月上	一五〇・〇〇	一三	?	一一〇

四五　獸醫師及蹄鐵工

獸醫師

		總數	試驗及第
昭和十四年	官立學校卒業	二七八	一五
昭和十三年	官立學校卒業	二九四	二六
昭和十二年	官立學校卒業	三五五	二九

蹄鐵工

		總數	試驗及第
昭和十四年	縣立學校卒業	二三〇	一八
昭和十三年	縣立學校卒業	二三三	一四
昭和十二年	縣立學校卒業	二一一	一五

		總數	試驗及第
昭和十四年	官立學校卒業	二六六	四六
昭和十三年	官立學校卒業	二七八	三三
昭和十二年	官立學校卒業	二七七	三

		總數	試驗及第
昭和十四年	縣立學校卒業	一三六	一九七
昭和十三年	縣立學校卒業	一五一	一八六
昭和十二年	縣立學校卒業	一五二	一八五

		總數	試驗及第
昭和十四年	認可私立獸醫學校卒業	七	七
昭和十三年	認可私立獸醫學校卒業	七	七
昭和十二年	認可私立獸醫學校卒業	七	七

		總數	試驗及第
昭和十四年	陸軍蹄鐵術卒業	一九七	一八五
昭和十三年	陸軍蹄鐵術卒業	一八六	一七五
昭和十二年	陸軍蹄鐵術卒業	一八五	一七五

四六　家畜

（家畜及家禽）

牛、緬羊及山羊ハ満一年未満、豚ハ満十ケ月未満ノモノ、各年末現在数ニ対スル価額ナリ

		羊山	羊緬	豚	牛	飼養戸数	年末現在 総数	年末現在 牝	年内移動 生産	年内移動 斃死	価額
		昭和十二年	昭和十二年	昭和十二年	昭和十二年						
牛	昭和十三年	四、五三〇	一、六〇五	一、九九六、五二二	四四五、〇八七頭	三一、八四八	四四、〇八七頭	一〇、二四七頭	一一、二二四頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
	昭和十三年	四、五三〇	一、六〇五	一、九九六、五二二	四四五、〇八七頭	三一、八四八	四四、〇八七頭	一〇、二四七頭	一一、二二四頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
	昭和十四年	四、五三〇	一、六〇五	一、九九六、五二二	四四五、〇八七頭	三一、八四八	四四、〇八七頭	一〇、二四七頭	一一、二二四頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
豚	昭和十二年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
	昭和十三年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
	昭和十四年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
緬羊	昭和十二年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
	昭和十三年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
	昭和十四年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
山羊	昭和十二年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
	昭和十三年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円
	昭和十四年	一、四九六、八五五	四、一六〇	一、九九六、五二二	一、二二三、九五二頭	三一、八四八	一、二二三、九五二頭	一〇、二四七頭	一、一二四、八九五頭	三九、四二一頭	一、四三五、〇五七円

（家禽及家禽）

		鶏絞吐	鶩	鵞	鶏	飼養戸数	鶏 羽数	鶏 価額	雛 羽数	雛 価額	産卵往復一年間
		昭和十二年	昭和十二年	昭和十二年	昭和十二年						
鶏	昭和十三年	一〇、九〇	一、二五四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇
	昭和十三年	一〇、七〇	一、二五四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇
	昭和十四年	一〇、七〇	一、二五四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇
鶩	昭和十二年	二、二六三、五二	一、二四四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇
	昭和十三年	二、二六三、五二	一、二四四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇
	昭和十四年	二、二六三、五二	一、二四四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇
鵞	昭和十二年	二、二六三、五二	一、二四四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇
	昭和十三年	二、二六三、五二	一、二四四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇
	昭和十四年	二、二六三、五二	一、二四四	三、四四〇	六、五五二、一一九	一、一八、三五九	三、四二九、〇八四	四、三五四、四五八円	四、四〇〇、一四四	三、三四〇、〇九五円	一、一四九、三二五、四四〇

昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
四九 蜜蜂		
飼養戸数	一一、一八〇	一一、七四九
年末現在 箱数	六六、五五五	六七、三五三
蜂蜜 数量	一九八、七五五貫	二一〇、七五三貫
蜂蜜 価額	三六七、四二六円	三四五、〇三五円
蠟 数量	一四九、三五二貫	一三五、三五一貫
蠟 価額	二三五、三六円	二〇〇、三七五円
五〇 牛乳		
搾乳牛末現在頭数	三五五	三五四
搾乳高	二一二、八四〇石	二一二、七〇〇石
価額	二五七、四四四円	二五七、八四四円

林業

産額用材三千二百萬(圓)

木炭六百七十萬(圓)

椎茸百八十三萬圓

共に日向の主産物

概說

森林分布　本縣は氣温風土最も樹木の生育に適し植物帶上極帶より掬帶に亘り林相甚だ複雜にして劃然たる區分をなすことは出來ないが其の主たる林木により分布の狀況を區分するときは海岸部は海濱砂地の松林を除けば楠、椎、椿の常綠濶葉樹林にして之より西北山岳地帶は檜、樅、栗、欅、櫻、楓、槭地等の落葉に樅、栂、赤松等混生し縣界の山頂は山毛欅、檜、楓を以て覆はれ林相密にして斧鉞を加へざる箇所が頗る多い。而して森林の狀況は南那珂郡地方の杉の人工造林地を除くの外は大體に於て海岸部、中央部、山間部に區別することが出來る。

造林施設

(イ)諸縣縣有林　本林は森林經營の模範を示し且縣基本財產造成の目的を以て明治三十五年諸縣御料林の全面積二、四七三町歩餘並之に附隨する立木建物一切價額八萬二千五百九十五圓を十ヶ年賦にて購入し地勢其の他の關係上縣有林として經營に不便なる地は縣立宮崎農學校實習林其他の公共團體に拂下げ要存置面積一、九五〇町歩餘に對し特別會計を以て經營してゐる。

(ロ)愚陽慈惠救濟基本林　明治天皇並昭憲皇太后の御大喪に際し慈惠救濟の思召を以て內帑の資を全國に下し賜ひ本縣亦其慈命を拜したので其一半千四百圓を以て基本林を造成し後世子孫をして永く其の惠澤に浴せしむる爲め內金五千六百十四圓七十六錢六厘を以て二回に亘り國有林の拂下を受け設置

（林　業）

せるもので大正十年度を以て新植事業を完了し專ら保護撫育に努めてゐる。

(八)慣習縣有林　秩序的林業經營の模範を示し併て所在地方林野開發に資せんが爲め大正六年十二月椎葉村をして一、〇二五町歩餘の林野を提供せしめ村と分收の方法を採り設置せるものにして大正七年以降三十ヶ年を以て植栽完了の豫定である。

林野面積　毎三年調査に依る昭和十四年末現在（國有林昭和十一年末現在）に於ける林野總面積は五七三、〇〇八町五反にして之を前回調査の昭和十一年末に比すれば四、七一六町三反歩の增加を示してゐる。而して之を所有別に觀ると國有一六八、四三〇町六反歩（三割）、公有七〇、六五〇町八反歩（一割二分）、社寺有一、一八九町五反歩（〇）、私有三三二、七三七町六反歩（五割八分）の割合となつてゐる。

保安林　昭和十四年三月末日現在に於ける保安林は一二五箇所面積二、六九八町七反歩にして前年に比し一町歩の減少である。

林產物　昭和十四年に於ける林產物總價額は四七、七一八、五八七圓にして本縣總生產額の一割六分を占め前年に比し一七、五八六、〇三三圓（五割八分）の增加を示してゐるが、之を各種類別に主要なるものを擧げて觀ると

丸及角材	一九、八八九、四九三圓	前年に比し（八割五分）增
木炭	六、七二六、二三八圓	同（三割四分）增
挽材	二二、三四九、四二〇圓	同（七割）增
薪	三、〇一七、六九七圓	同（七分）增

椎茸　一、八二九、三五八圓　同　八六二、八四四圓（八割九分）增

等で艦船及建築材として殊に艦船用材としては他に其の類を見ない特質を有する杵肥杉がある。而も其の需用は遠く滿支方面へも進出の機運を示したると他面又多年空しく死藏された千古斧鉞を加へざる無限の寶庫も近時道路の開發、林道及軌道の敷設等交通機關の整備に伴ひ愈々其の眞價を表はすに至つた等本縣林業界の前途は益々多望なるを思はしむるものがある。

尙木炭は縣下到る所優良炭材に富み炭質堅密にして火力强きを以て日向炭として全國に賞揚せられ尙又椎茸は本縣特產品の一にして其の生產額も全國第一位を占め品質良好なるを以て日向椎茸として各地に名聲を博してゐる。最後に產額は特質すべき程の事もないが竹材、筍も本縣の特產品であり殊に筍は溫暖なる氣候、肥沃なる地味の天惠に浴し奬勵の結果と相俟て近時速成栽培に成功し產額も亦逐年增加し其の大量を中央市場に移出し普く歡迎せられ將來眞に有望となつた。

三〇　林野面積

（毎三年調査）　年末現在

	総数	国有	公有	社寺有	私有
昭和十四年	四五七、〇九八、二四八・五町	一六八、八九、四三〇・六町	六七、四三五、九〇八・五町	一一、一八九・五町	二三三、七四九・〇町
昭和十四年	四五七、〇〇二、八四八・五町	一六八、八九、四三〇・六町	六七、四三五、九〇八・五町	一一、一八九・五町	二三三、七四九・〇町

三一　林産物

（林業）

	総価額	丸及角材 数量	丸及角材 価額	挽材 数量	挽材 価額
昭和十二年	二六、一三八、四五〇、二四七円	二二、三五一、三六五、三五三石	九、八六二、四三一、四九円	二、八五四、五四四、四八石	五、六四九、八五五、〇一〇円
昭和十三年	二七、一三八、五五六、四四〇円	二三、五五二、七三五、三五三石	一〇、七八一、四三二、四九円	二、九〇九、〇五五、四八石	五、八四九、八五五、〇一〇円
昭和十四年	三四、七八一、七三二、〇四七円	二二、三五一、三六五、三五三石	九、八六二、四三一、四九円	二、八五四、五四四、四八石	五、六四九、八五五、〇一〇円

三　國有林野箇所面積

(一)　年末現在

		昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
總數	箇所	五、四二八	五、四二八	五、四二八
	面積	一七、九三、九七八・七町	一七、九三、九七八・七町	一七、九三、九七八・七町
保安林（昭和十四年三十一日現在）	箇所	二、三五	二、三五	二、三五
	面積	二、九七八・七町	二、九七八・七町	二、九七八・七町
供用林	箇所	四、六二〇	四、六二〇	四、六二〇
	面積	一、五九、一〇七、三町	一、五九、一〇七、三町	一、五九、一〇七、三町

(二)　林業

			昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
部分林	箇所		四、五三、〇八四	四、五三、〇八四	四、五三、〇八四
	面積		一七、一、三九七、八・一町	一七、一、三九七、八・一町	一七、一、三九七、八・一町
原野	箇所		二、八五六	二、八五六	二、八五六
	面積		六三、〇二町	六三、〇二町	六三、〇二町
森林附屬地	箇所		二、七二一	二、七二一	二、七二一
	面積		三、九三、八四町	三、九三、八四町	三、九三、八四町
造林用苗木	數量		一、五、七三、四〇四本	一、五、七三、四〇四本	一、五、七三、四〇四本
	價額		三四、七、四九一・〇円	三四、七、四九一・〇円	三四、七、四九一・〇円
椎茸	數量		六四一、〇〇〇貫	六四一、〇〇〇貫	六四一、〇〇〇貫
	價額		一、九六、三四一円	一、九六、三四一円	一、九六、三四一円
雜類價額			三、七、三四、〇九八円	三、七、三四、〇九八円	三、七、三四、〇九八円
樹木	數量		七三、三四、九七五貫	七三、三四、九七五貫	七三、三四、九七五貫
	價額		一、九、〇七、六九三円	一、九、〇七、六九三円	一、九、〇七、六九三円
薪	數量		一、八二、七〇〇棚	一、八二、七〇〇棚	一、八二、七〇〇棚
	價額		三、一、七九二円	三、一、七九二円	三、一、七九二円
木炭	數量		一、八三、四三五貫	一、八三、四三五貫	一、八三、四三五貫
	價額		一、九、四七、四三五円	一、九、四七、四三五円	一、九、四七、四三五円
竹材	數量		三、八二、三七束	三、八二、三七束	三、八二、三七束
	價額		八六、〇〇四円	八六、〇〇四円	八六、〇〇四円
樽丸	數量		二、一、九三、九八〇個	二、一、九三、九八〇個	二、一、九三、九八〇個
	價額		一、七、五、七四二円	一、七、五、七四二円	一、七、五、七四二円
屋根板	數量		九三、七五、〇枚	九三、七五、〇枚	九三、七五、〇枚
	價額		一、九、四三、五四円	一、九、四三、五四円	一、九、四三、五四円

三三　國有地施業按　（昭和十五年四月一日現在）

事業區名	面積	蓄積			
		總數	針葉樹	濶葉樹	竹
	ヘクタール		立方米	立方米	東
總數	一七八、二〇六・八五		一四、七一六、九九六		四二、九〇〇
人吉營林署	一、七二四・八一	一四、〇〇六			
高千穗鄉	一三、二九九・一三	一、七五一、七九一			
東臼杵郡	一、四七九・八九	一八、三三七			
男鹿石河	八、二三三・六六	二五四、〇四七			
吹山營林署	九、五〇六・四五	六八〇、〇八八			
鈴鹿山脈	九、七九二・四六	五六五、八二五			
宮崎營林署	一五、一三七・〇八	九三三、六五五			
高千穗鄉	八、〇一〇・三六	七三四、八三七			
西臼杵郡	五、三〇六・〇三	五四二、七六八			
高須營林署	一八、四九九・一三	三七〇、五六九			
茶臼原	七、七四八・二〇	二、一五九、八三七			
		四五〇、五一五			

小林營林署	八、四八一・〇二	二五一、八〇九			
矢岳鄉	五、三四七・一七	四〇五、八八七	七八〇、一一三		
白鳥山脈	四、〇六〇・八五	三三八、一三五	三六五、四〇八	七、三一一	
霧島營林署	九、九四一・六六	二八二、九六五	三一〇、四一五	二、八九三	
高都鄉	九、三一九・七〇	四〇七、九三八	七五三、六一五	一三五	
都城營林署	四、六八二・四三	一三二、八八四	九七五、五二七		
都城山脈			四八五、六八〇		
飫肥營林署	三、一六八・三五	一四、一九三	一、九五五、七八八	二〇三	
福島鄉	一〇、〇六六・四〇	五八五、九九六	三五五、〇〇四		
大口營林署	二四三・八八	一四、一九三	二八、八七一		

西保安林面積　（年末現在）

	總數	土砂扞止林	水源涵養林	水害防備林	墜石防止林	其ノ他
昭和十四年	七、二〇六・一 町	二、〇九四・三 町	三、〇五五・三 町	一四・七 町	二・〇 町	二、〇二九・〇 町
昭和十三年	七、一九九・八	二、〇八九・二	三、〇五五・三	一四・七	二・八	二、〇二七・八
昭和十二年	七、一八二・六	二、〇六七・四	三、〇五四・八	一四・七	二・七	二、〇三〇・〇

（林業）

三五 造林用苗木（年末現在）

昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
一五、七五三、四一〇本	一五、七五三、四一〇本	九、三七五、四三本
四五、一四八、九一六本	四五、一四八、九一六本	四五、七五七、〇一〇本
一三四、六四九円	一三四、六四九円	一三、四五九、二六円
一三、一〇一、四五九円	一三、一〇一、四五九円	一三、四七、三五円

三六 造林用苗圃面積（年末現在）

昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
総数 二四二、八四三坪	二四二、八四三坪	二四二、七三、二四三坪
縣有 一一、三〇〇坪	一一、三〇〇坪	三、三〇〇坪
市町村有 四五、六、五七〇坪	四五、六、五七〇坪	四五、六、三五〇坪
部落有 四五、〇九、七一坪	四五、〇九、七一坪	四五、〇八、五一坪
一、組森合有林 一五〇	一、組森合有林 一五〇	一、四八三坪
會個社人及有 九四九坪	會個社人及有 九四九坪	二三、六、七七九坪
國其他ノ 五五、九〇〇坪	國其他ノ 五五、九〇〇坪	一、七四〇坪

三七 國有林植栽（林業）

昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度
新植 面積 七九、一四 ha	新植 面積 七九、一四 ha	新植 面積 一〇一、三〇 ha
新植 數量 二、一〇一、九四九、〇〇〇本	新植 數量 一、九五七、八五〇、〇〇〇本	新植 數量 二、三九、八三五、〇〇〇本
新植 經費 三、三四	新植 經費 三、三四	三五、三九五円
補植 面積 八三、三 ha	補植 面積 一〇四、五九 ha	一〇四、五一 ha
補植 數量 三八、六五、一一三本	補植 數量 三三、一八〇本	三八、〇〇〇本
補植 經費 ？	補植 經費 ？	？

松

昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
數量 一一、七三、三〇一本	數量 一一、七三、三〇一本	數量 一一、七四、二三〇本
價額 一八、四九、五三二円	價額 一八、四九、五三二円	價額 一八、四七、三二円

檜

昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
數量 二、九六、三〇〇本	數量 二、九六、三〇〇本	數量 二、九六、三〇〇本
價額 二、四七五円	價額 二、四七五円	價額 二、四七五円

其ノ他

昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
數量 一、八五三、五七〇本	數量 一、八五三、五七〇本	數量 一、八五三、五七〇本
價額 五五、〇三一円	價額 五五、〇三一円	價額 五五、〇三一円

五八　公私有林野植栽

			昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
公有	總數				
	面積數量	面積	三、六七五・三町	三、二一七・二	三、一七九・〇
		數量	八、九二三、四一四本	九、三六七、七四三	八、一〇八、三二七
社寺有	公有	面積	五五八・四町	五九七・三	四四八・二
		數量	一、一〇八、〇〇〇本	一、四六六、二七〇	一、一七五、六四五
	社寺有	面積	二四・〇町	一二・九	三・七
		數量	五九、五〇〇本	二八、六四〇	七、三五〇
私有	公有	面積	三、〇九三・一町	二、九〇七・〇	二、七二七・一
		數量	七、六五五、九一四本	七、八二、八三五	六、九二五、三三三
	社寺有	面積	七、六五五、九一四町	七、八二、八三五	六、九二五、三三三
		數量	二、〇四〇、三九〇本	一、九五四、七五八	一、五二二、五〇一
	私有	面積	二八、三〇〇・六町	三一、八八四・五	三三、九二四・八
		數量	二、八三〇、四二七・〇本	三、〇四、四二七・〇	二、四三、〇八六

五九　公私有林野天然造林

			昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
總面積			三六四、一〇三・三町	三四八、〇七一・八	二九七、〇〇〇・六
公有	立木地		四〇、四七四・六町	四三、八三〇・〇	四五、〇二七・三
	無立木地		五八、五三九・〇町	四六、四九九・〇	五二、五〇七・六
社寺有	立木地		一、二六八・九町	一、〇五八・二	八二八・七
	無立木地		六二・六町	二〇・九	一八・五
私有	立木地		三〇四、四三七・〇町	三〇〇、五一四・六	二四三、六六四・三
	無立木地		二八、三〇〇・六町	三一、八八四・五	三三、九二四・八

六〇　國有林伐採

			昭和十四年度	昭和十三年度	昭和十二年度
用材	總額		二、三五四、二六三円	二、三六三、二六七	一、七六五、二四八
	針葉樹		一、七九七、八九一円	二、〇六四、七六一	一、二六三、五五一
	濶葉樹		五五六、一九九円	五六九、三〇一	五〇一、三九七
	竹材		一七三円	二〇五	三〇〇
薪炭材	總額		四四六、七九六円	四一八、九五三	四〇五、〇三一
	針葉樹		二、六二三円	二、九六六	九四五
	濶葉樹		四四五、一七四円	四一三、九八七	四〇四、〇八六

六一　公私有林伐採

			昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
總額			一六、一六五、〇六七円	九、〇三七、二〇五	七、三三〇、七三九
用材	材積		二、四〇〇、三九〇石	一、九五四、七五八	一、五二二、五〇一
	價額		一〇、三六六、五〇〇円	五、三六一、五八九	三、九五〇、六八八
薪炭材	材積		九六七、八七六棚	三、六二、八四一	三、三三、七〇八
	價額		五、七二一、七二四円	三、三三、七〇八	一、〇二三、一〇五
竹材	材積		二一八、一三三束	八六、八四三	一七〇、三一六
	價額		一八四、四〇一円	六二、七七五	五七、三四三

六　公私有林野放牧

（毎三年調査）

昭和十八年	総面積	公有 総面積	公有 市町村	公有 部落	公有 公共ノ團体ノ	私有	放牧頭数 牛	放牧頭数 馬
	一、二三三、〇七六町	一、三五四、五二町	八四、七町	九九、〇町	一、〇三〇、一八四町	四四七、四町	一、三五四	？？？
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	
	一、二三五、三四六町	一、二六八、七町	八四、〇町	八九、二六町	一、〇三五、一八四町	四四七、四町	一、三四二	

六　公私有林野被害

昭和十四年	面積 総数	価額
	二三七、〇八九町	二三、八〇七、五四二円

昭和十四年	立木地 面積	立木地 価額
	二三六、〇七五町	二三、四〇七、三二円

昭和十四年	無立木地 面積	無立木地 価額
	五五三、〇五町	一〇、九二〇、四九五円

漁業

七十七里の海岸線

漁穫がザット九百十九萬(圓)

概　說

總　說　本縣は東南一帶海に面し海岸は概して平凡にして島嶼の散在せるものなきも南北兩端は稍漁礁に富み魚族の棲息多く且つ沿岸は古來鰤の如き洄游性魚族の要路に當る等好條件を具備し一面又遠洋漁業の發達に依り例年八百萬圓内外の漁穫があるので、水產業は亦本縣の主要產業である。卽ち從來一般に沿岸漁場に跼蹐せる漁業を營みしも近時漁業能率の增進に自覺し小型發動機漁船の如き逐次增加し今や漁場、漁法、漁獲物配給の三方面より基本的研究を行ひ各海區に應じ適種漁業を選擇實行してゐる。

沿岸漁業の外沖合漁業も亦沿岸を去る遠からずして暖流浣洗し暖海性洄游魚族の來泳多く、加ふるに鯖、鰹の好漁場とも稱すべき奄美大島海區に近く且又一面に於ては宮の浦、目井津の兩船溜の築造をはじめ油津港の修築、漁業用の無線電信の完備とに依り遠洋漁業の經營に對して絶好の位置と條件とを備ふるを以て年と共に發達の機運を示し、更に飜つて大小の河川を見るに輓近水利事業勃興のため、幾分河川魚族の減退は免がれざると云へ、元來何れの河川も魚族の蕃殖に適し鮎、鯉、鰻等例年二十萬圓内外の漁利を擧げてゐる。而して又各所に散在せる溜池利用の粗放的養殖事業又は鯉、鰻の集約的養殖事業も亦逐年增加しつゝあるので相當將來を囑望せらる。

水產業者　昭和十四年末現在に於ける水產業者は總數八、〇七二人にして前年に比し一人の減少を示しその

従業の種類別は漁撈に従事するもの七、〇一三人(八割七分)、製造に従事するもの九九二人(一割三分)、養殖に従事するもの六七人(〇)にして其の中業主は總數の三割を占め雇余の七割は被用者である。更に之を郡市別に觀れば東臼杵郡の三、二五七人首位を占め之に亞ぐは南那珂郡の二、三五七人、延岡市の八一〇人、宮崎郡の六三三人等の順位にして最も少きは西臼杵郡の一人である。

漁船　昭和十四年末現在に於ける漁船數は三、四八五隻にして前年に比し一二二隻を增加し其の中年内新造船數は一六五隻にして前年に比し二二隻を減少す。尚年内の廢用船數は一二〇隻にして前年に比し二四隻を減少す。而して年末現在船數中動力を有する漁船は四二九隻(一割二分)にして動力を有せざる漁船は三、〇五六隻(八割八分)である。

漁場及漁法　(鰹)　四月より十月を漁期とし距岸十數浬乃至二、三十浬の本縣沿岸及び薩南諸島の近海に於て竿釣される、從漁する發動機付漁船は百噸二百馬力の大型鋼船を始め百五十隻に近く漁獲物の水揚地は油津、南郷(南)最も盛にして門川、細島、内海、島野浦、大堂津、土々呂等之に亞ぐ。(鯖)　漁期は十一月より三月に及び(キヌダは夏期)漁場は距岸二、三十浬より遠きは二百浬を超え延繩或は曳繩を以て釣獲され油津、南郷が主たる水揚地である。(鰯)　鮪延繩にて混漁される外細島、折生迫には之を專業とするものありて相當の漁獲をあげてゐる。(鰤)　東臼杵郡南浦、北浦、伊形、門川、南那珂郡油津、南郷、市木、都井等の沿海に好漁場あり一月より四月に亙り大謀網及落網にて漁獲され縣北に於ては市振、縣南に於ては油津が其の主なる集散地である。(鯛)　十二月より三月を盛期とし沿岸五浬乃至十浬附近を漁場とし一本釣及底延繩にて漁獲されマダイ、チダイは細島、レンコダイは川南、折生迫、アマダイは油津、大堂津方面に多く水揚される。(鰆、鯖)　土々呂、方財島、細島、川南、都農、折生迫、南郷等を主とし沿岸到るところに於て周年漁獲され、漁具は地曳網、棒受網、夜焚一本釣を主とす。(鰡)　沿岸到る處に春秋を盛期とし周年地曳網、揚繰網、巾着網、二艘張網、棒受網、流網、小臺網等にて漁獲されるも最近焚火巾着の勃興により著しく漁獲を增した。(鰯)　盛期は十一月乃至四月にして殆んど沿岸到る處に於て其漁獲あり、漁具としては地曳網、曳繩網等が使用せらるゝ外鰯大謀網にて混獲されるもの亦尠くない。(烏賊)　十月より翌年四月迄を漁期とし沿岸到る處擬餌釣にて漁獲され細島、土々呂、油津、川南は其の主なる水揚地である。(鮎)　解禁時期より年末に亙り各種釣、投網、待堰、簗等にて殆んど各河川に於て水揚げされるも就中五ヶ瀬川、耳川、北川、大淀川、一ツ瀬川、小丸川が著名である。以上漁獲されたものは鮪、鰤を始め下關方面より瀬戸内海の沿岸都市に送られ鮎亦氷藏して名古屋、京濱方面に移出され其の名を博して居る。

沿岸漁獲物　昭和十四年中に於ける沿岸漁獲物は

總價額　五、二九三、七四三圓

にして之が漁獲高を大別にすれば

(漁業)

前年に比し　五四九、〇六九圓(一割二分)增

魚　類（四、七一八、二九〇貫（四、六八七、一八八圓）前年に比し同

貝　類〃（九二、〇七五貫（五九、一二四圓）同同

其の他の水産動物〃（一四一、四二九貫（四三四、五七九圓）同同

藻　類〃（三八、〇七八貫（一二、八五四圓）同同

である。而して漁獲高は逐年漸増の傾向を示し殊に本年は最近十箇年間に於ける最高の漁獲高を擧ぐるに至つた。

遠洋漁業　昭和十四年末現在に於ける遠洋漁業に從事する漁船數は二八二隻にして前年に比し一六八隻を減少し之が乘組總人員は七、二四七人にして前年に比し七五九人を減少した、而して其の漁獲高は三、八九一、三一六圓にして前年より一八〇、六八二圓の減少を示し其の中鮪の漁獲高は二、八八三、五九四圓にして總漁獲高の七割を占めてゐる。

水産養殖　昭和十四年末現在に於ける養殖場數は一、一一一箇所にして前年に比し五三箇所を減少しその面積は一、二七〇、八二五坪に達し前年に比し二一一、四七六坪を減少す。而してその放魚の種類及方法は（鰻）は主として溜池、沼等を利用するもの又養魚池を設置するもの相當多く稻田を利用するもの亦尠くない。尙その地域は宮崎市附近及都城市附近最も盛んにして之が養殖場數は一、〇八一箇所にして漁獲高は三一、六八七貫、價額は一、一六〇、七九四圓である。（鰻）は主として養魚池を設け放魚し、宮崎、兒湯の兩郡が其の主なる産地である。その養殖場數は二三箇所、收獲高一、一六〇貫、價額は五、三六六圓である。（眞珠）は東臼杵郡南浦村尻灣の一部に養殖され本年に於ては三三、八〇〇個、六、七六〇圓の産額を擧げ逐年增加の趨勢にある。

水産製造（鰹節）主として南那珂、東臼杵の兩郡に於て製造され本年に於ける産額は一二二、一八八圓に達す。（鰯鹽）産額三五、一六八圓にして宮崎、兒湯、東臼杵の各郡にも相當の産額あるが、其の大半は南那珂郡に於て産す。其の形狀色澤良好にして神戸長崎を經て多く支那に輸出されてゐる（鰡）鰡節、煮乾、壜乾（唐人乾）、目刺等に製造され乾燥色澤、共に良好にして阪神地方に移出す産額は鰡節四一〇、四八五圓、壜乾四〇三、四〇一圓に達し其の大部分は東臼杵郡及延岡市の生産である。（鮎）燒鮎として北九州及東京地方等に移出する外甘露煮として製造され粕漬及鮎ヲルカ亦好評である。（蠣）（蠣丹）都農、折生迫、鵜戸等に於て製造され日向名産の一である。（蠣石）所謂日向白は純白にして質固く分厚く好事家に天下一品の評がある。富島町及岩脇村に産す。

畜水産物價額（累年比較）

（漁業）

	漁遠獲物洋	養水殖産	總額	食料水産製造物	肥料	魚油	スキフノリ	總額	魚類	貝類	水其ノ他ノ動物ノ産	藻類
昭和十二年	四三、七〇四、九二五円	一八、七七二、七一〇円	一二、五六八、四六九、六三七円	一、五六四、〇一三円	四四六、七〇九、三五〇円	一、三六〇、九四四円	二五四、九三〇円	二、四五、三五七、四六四円	二四四、三六〇、四二五円	二三〇、〇四〇円	四三、五七九円	六九、三五四円
昭和十三年	四二、〇四二、三五一円	一九、三〇二、三四七円	一二、三五七、四六九、四三七円	一、五六四、〇一三円	四四六、七〇九、三五〇円	一、三六〇、九四四円	二五四、九三〇円	二、四五、三五七、四六四円	二四四、三六〇、四二五円	二三〇、〇四〇円	四三、五七九円	六九、三五四円
昭和十四年	四三、七〇四、九二五円	一八、七七二、七一〇円	一二、五六八、四六九、六三七円	一、五六四、〇一三円	四四六、七〇九、三五〇円	一、三六〇、九四四円	二五四、九三〇円	二、四五、三五七、四六四円	二四四、三六〇、四二五円	二三〇、〇四〇円	四三、五七九円	六九、三五四円

漁業

漁船

	船数	年末現在漁船			
		遠洋漁業			
		噸数		乗組員	
昭和十二年	四四三六	三一七、三五六		二六、四、五四	
昭和十三年	四七〇五	三二、〇六三		二七、四八四	
昭和十四年	四九四七	三三、〇四七		二八、四四二	
昭和十五年	五〇二一	三四、〇四九		二八、八〇二	
昭和十六年	五〇八七	三四、五六二		二八、八四八	

漁獲高

	総額						副業					
	数量	価額		数量	価額		数量	価額		数量	価額	
昭和十二年	三、〇七四、三五六貫	四三、八二一、三六円		二、〇〇四、〇三五貫	二九、三六二円		一、〇七〇、三二一貫	一四、四五九円		九七、五五四貫	一、三一九円	
昭和十三年	三、一五四、五四〇貫	四四、七〇一、三六円		二、〇四四、〇三七貫	二九、四八四円		一、一〇〇、五〇三貫	一四、八二一円		九九、四〇〇貫	一、三三九円	
昭和十四年	三、一五四、五四〇貫	四四、七〇一、三六円		二、〇四四、〇三七貫	二九、四八四円		一、一〇〇、五〇三貫	一四、八二一円		九九、四〇〇貫	一、三三九円	
昭和十五年	三、一五四、五四〇貫	四四、七〇一、三六円		二、〇四四、〇三七貫	二九、四八四円		一、一〇〇、五〇三貫	一四、八二一円		九九、四〇〇貫	一、三三九円	
昭和十六年	三、一五四、五四〇貫	四四、七〇一、三六円		二、〇四四、〇三七貫	二九、四八四円		一、一〇〇、五〇三貫	一四、八二一円		九九、四〇〇貫	一、三三九円	

新造船数

	ヂーゼルエンヂン漁船			動力漁船		
	数	噸数		数	噸数	
昭和十二年	二一二	九三四、七四五噸		二一三	二、四三七噸	
昭和十三年	二一四	九三四、七四五噸		二一三	二、四三七噸	
昭和十四年	二一四	九三四、七四五噸		二一三	二、四三七噸	
昭和十五年	二一四	九三四、七四五噸		二一三	二、四三七噸	
昭和十六年	二一四	九三四、七四五噸		二一三	二、四三七噸	

廃用漁船

	ヂーゼルエンヂン漁船			動力漁船		
	数	噸数		数	噸数	
昭和十二年	一一九	三、三四一噸		一一七	三、二五二噸	
昭和十三年	一一九	三、三四一噸		一一七	三、二五二噸	
昭和十四年	一一九	三、三四一噸		一一七	三、二五二噸	
昭和十五年	一一九	三、三四一噸		一一七	三、二五二噸	
昭和十六年	一一九	三、三四一噸		一一七	三、二五二噸	

漁業者

	総数			漁業			製造業		
	主たる業	被用者		主たる業	被用者		主たる業	被用者	
昭和十二年	二一二、七五六	五五、四八四		二一二、五三〇	四四、六二一		二三〇九	一、〇六二	
昭和十三年	二一三、五六七	五五、〇四四		二一三、五三五	四四、六二一		二三四九	一、〇六二	
昭和十四年	二一三、五六七	五五、〇四四		二一三、五三五	四四、六二一		二三四九	一、〇六二	
昭和十五年	二一三、五六七	五五、〇四四		二一三、五三五	四四、六二一		二三四九	一、〇六二	
昭和十六年	二一三、五六七	五五、〇四四		二一三、五三五	四四、六二一		二三四九	一、〇六二	

	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
鯖 数量	二、三〇六、七二九貫	二、三五七、四二八貫	二、三〇八、四一八貫
鯖 価額	三、五七〇、四五九円	三、七〇、四五九円	三、三八三、五四八円
漁獲高 鰯 数量	六四八、九〇〇貫	五四八、七〇〇貫	六四八、八九〇貫
漁獲高 鰯 価額	三、八〇四円	五、四〇〇円	六、四八九円
漁獲高 其ノ他 数量	一、五四七、四四〇斤	一、五四〇、四四七斤	一、五九七、三四〇斤
漁獲高 其ノ他 価額	三、五六〇、九六九円	三、五六〇、九六九円	三、五六〇、九六九円

六　水産養殖

		昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
年末現在 総数	場数	一一、二一二	一一、〇八四	一一、〇八二
	面積	一、一五九、四〇〇、三五八坪	一、一五九、四〇〇、三五八坪	一、一五九、三五八坪
年末現在 鯉	場数	一一、〇八五	一一、〇八五	一一、〇八五
	面積	一、一五九、四〇〇、三五八坪	一、一五九、四〇〇、三五八坪	一、一五九、三五八坪
年末現在 鰻	場数	一五三	一五三	一五三
	面積	一七八、九二七坪	一七八、九二七坪	一七八、九二七坪
年末現在 其ノ他	場数	七七	七七	七七
	面積	四五、二五〇坪	四五、二五〇坪	四五、二五〇坪

鑛業

堀るとも盡きぬ銅錫は

本縣無限の寶庫なり

概　說

本縣の鑛業は古來歷史を有するも技術の幼稚なると交通運輸の不便等の事情に阻礙せられ輓近に至る迄此の資庫は空しく秘藏せられた觀があつたが、近年我國鑛業界の發展と交通機關の備はると共に之が採掘事業は一大躍進の機運を示した、今昭和十四年七月一日現在に於ける狀況を觀ると

試掘　鑛區數は三三六にして前年に比し七五を增加し、その坪數は二一五、四〇八、六一九坪にして前年に比し六四、三一〇、〇四〇坪の著しき增加を示した。而して之が縣內分布の狀況は次の通りである。

	鑛區數	坪數
宮崎	六	六、六五九、六二七
南那珂	二九	二六、八四九、〇八〇
北諸縣	三	一、〇六九、〇〇〇
西諸縣	一六	一、〇八一、二七五
東兒湯	一〇	二、九七一、四〇〇
西臼杵	六四	四三、九三九、二四三
東臼杵	七六	四一、五五四、九二三
延岡市	一九	八〇、四三三、五七一
	三	一、〇六一、三〇〇

採掘　鑛區數は稼業中のもの一八鑛區、坪數七、四三六、八〇七、一一二坪となり、その分布の狀況は次の通りである。

	鑛區數	坪數
宮崎	二	一、〇〇〇
南那珂	一	一、〇〇〇
北諸縣	一	一、〇〇〇
西諸縣	一	一、〇〇〇
東兒湯	一	一、〇〇〇
西臼杵	一	一、〇〇〇
東臼杵	一	一、〇〇〇
延岡市	一	一、〇〇〇

（鑛業）

採掘鑛區及坪數

		昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
稼業	鑛區數	二八	二九	二九
	坪數	七四三、六五二	八九三、〇五二	八四三、六五二
休業	鑛區數	四四	四二	四二
	坪數	八四、〇〇〇	七六、八〇〇	八三、二四〇

石材

		昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
花崗岩	數量	二四、八〇〇	二五、二〇〇	二六、〇〇〇
	價額	二、七〇六円	一、九五六円	一、七三六円
安山岩	數量	一、三〇〇	一、七〇〇	二、〇〇〇
	價額	四五四円	五九五円	七〇〇円
凝灰岩及灰岩	數量	一、八四三、〇〇〇	一、四三四、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
	價額	三〇、九四九円	二八、九三三円	二六、〇〇〇円
其ノ他	數量	一、四三四、〇〇〇	一、八四三、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
	價額	二八、九三三円	三〇、九四九円	四〇、〇〇〇円

鑛産額

		昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
總額		九六、八〇四円	一〇八、八九四円	一二八、〇九二円
砂	數量	二、〇〇〇、〇〇〇才	二、〇〇〇、〇〇〇才	二、〇〇〇、〇〇〇才
	價額	三、七〇四円	三、七〇四円	三、七〇四円
岩	數量	二四、八〇〇才	二五、二〇〇才	二六、〇〇〇才
	價額	二、七〇六円	一、九五六円	一、七三六円
砂	數量	一、三〇〇才	一、七〇〇才	二、〇〇〇才
	價額	四五四円	五九五円	七〇〇円
利	數量	一、八四三、〇〇〇才	一、四三四、〇〇〇才	一、三〇〇、〇〇〇才
	價額	三〇、九四九円	二八、九三三円	二六、〇〇〇円
其ノ他	數量	一、四三四、〇〇〇才	一、八四三、〇〇〇才	二、〇〇〇、〇〇〇才
	價額	二八、九三三円	三〇、九四九円	四〇、〇〇〇円

鑛産額

昭和十四年中に於ける鑛産總額は七、四〇八、三九六円にして前年に比し五一割五分の増加を示した。之を最近十箇年間に於ける趨勢に付觀るさ次に示す如く昭和五年に比し三〇五、四七〇圓(四分ノ)

		昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
稼業	鑛區數	一一	一一	一一	一一	一一
	坪數	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
休業	鑛區數	一四四	一四七	一三一	一三一	一三一
	坪數	三、一三〇、八三〇	三、一三〇、八三〇	三、一三〇、八三〇	三、一三〇、八三〇	三、一三〇、八三〇

	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
指數	一〇〇	一三八、〇	一三五、〇	一三五、〇	一三五、〇
鑛産額	四、一三五、七四三、七三〇円	五、七一四、三九七、四三〇円	五、五八七、四三五、七三〇円	五、五八七、四三五、七三〇円	五、五八七、四三五、七三〇円

	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
指數	一三五、〇	一三五、〇	一三五、〇	一三五、〇	一三五、〇
鑛産額	五、五八七、四三五、七三〇円	五、五八七、四三五、七三〇円	五、五八七、四三五、七三〇円	五、五八七、四三五、七三〇円	五、五八七、四三五、七三〇円

工業

工場六千三百八十

職工三萬九千人

概說

工場　昭和十四年末現在に於ける工場數は六、三八〇にして之を業體別及使用職工數別に表示すると次の如くである。

(工業)	工場數	五人未滿使用工場	五人以上三十人未滿使用工場	三十人以上百人未滿使用工場	百人以上二百人未滿使用工場	二百人以上使用工場
總數	六、三八〇	五、八〇六	五四一	三一	二二	八二
紡織工業	九八八	六四七	四六	一	二	二
金屬工業	三五四	三四四	一〇	一	一	一
機械器具工業	四七三	四三五	四七	一	一	一
窯業及土石工業	四一〇	四〇九	一一	一	一	一
化學工業	二三七	二一三	一八	一	一	一
製材及木製品工業	一、〇七二	八七〇	一九二	一〇	一	一
印刷及製本業	九四	七三	一九	一	一	一
食料品工業	一、八四一	一、七〇九	一二五	七	一	一
ガス及電氣業	二六	六	一九	一	一	一
其ノ他ノ工業	一、一六六	一、一一〇	五四	二	一	一

職工總數は三九、四五九人（男二六、一〇九人、女一三、三五〇人）にして前年に比し一六、二九三人の増加を示してゐる。而して主要工場としては縣北延岡市に於ける旭ベンベルク絹絲株式會社延岡ベンベルク工場、同延岡工場藥品工場、同延岡工場レーヨン工場、日本窒素火藥株式會社延岡火藥工場、延岡プラスチック工場を始め、中央部に於ては高鍋町の片桐製絲所、宮崎市の郡是製絲株式會社宮崎工場、宮崎製絲場、鐘淵紡績株式會社大淀製絲工場、西部に於ては都城市の北諸縣郡是製絲株式會社、片倉製絲紡績株式會社都城工場等である。

基製品　昭和十四年末現在に於ける製造戸數は一六、三〇五戸にして前年に比し二、一〇五戸の減少を示し生産價額は八一二、六二〇圓に達し前年に比し一三九、七四九圓の増加を示してゐる。その種類別産額は繩類の二八二、四六四圓、叺の三〇三、三九二圓、莚の一六五、四三九圓、俵の二一、二六五圓、簇の一六、二五七圓が其の主なる産額である。

酒類　昭和十三年酒造年度に於ける製造場數は一五九にして前年に比し四の減少を示し、製造高は三三、四二三石、價額三、五四七、四〇〇圓にして前年に比し製造高四、二二三石、價額一八六、四二〇圓を何れも減少す。而して之が種類別製造價額は燒酎の二、二四九、四三〇圓、清酒の一、二九七、九七〇圓となつてゐる。殊に清酒及燒酎は原料を豊富に藏する關係上本縣工業製産品中主要の地位を占め年産額三萬石を超へ、品質亦優れ、敢て他縣産に比し遜色なきも未だ縣内の需用を充し得ず、例年二百萬圓内外の移入をなしつつある現狀である。

製茶　昭和十四年に於ける製造戸數は六三、六八一戸にして前年に比し四二二戸を増加し、生産高は數量五三四、五七六貫、價額一、四五〇、八一三圓にして前年に比し數量に於て三六一、七一五圓の増加を示してゐる。

肥料　昭和十四年末現在に於ける肥料製造營業者數は一一三人にして前年に比し三人を増加し、その生産價額は一、三六六、八七六圓にして前年に比し一二六、〇一一圓の増加を示してゐる。而して之等製品の種類別は硫酸アンモニヤの六七四、四一〇圓を最高とし、調合肥料の三二四、四〇六圓之に次ぎ、其の他魚肥の一七四、〇八三圓、菜種油粕の九八、〇七三圓、骨粉の九五、九〇四圓の順位である。